

国際環境工学研究科 博士前期課程 環境システム専攻 環境生態システムコース

※網掛けの科目については、本年度開講しません

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■共通科目	企業環境マネジメント論 ENV520B 粉 康則	1学期		2	1
	知的財産の生産と活用 LAW500B 石橋 一郎	2学期		2	
	○Academic Presentation I ENG500B 柏木 哲也	1学期		2	3
	○Academic Presentation II ENG510B 柏木 哲也	2学期		2	
	○環境原論 (英語対応クラス) ENV500B 辻井 洋行 他	1学期		2	5
	環境原論 (日本語対応クラス) ENV500B 木村 登次 他	1学期		2	
	学外特別研修 (インターンシップ) ENV590B 各コース長/Course Head	1学期/2学期		2	7
■専門科目 ■環境生態システム	安全倫理 SSS590S 堀田 源治 他	1学期		2	
	環境生態システム基礎 ENV400B 環境生態システムコース全教員 (○コース長)	1学期/2学期		2	9
■専門科目 ■資源化学システム	○エネルギー化学 CHM511S 郡司 貴雄	2学期		2	
	○化学反応工学 CHM562S 朝見 賢二	2学期		2	11
	○無機材料工学 CHM531S 山本 勝俊	1学期		2	
	○触媒反応化学 CHM512S 今井 裕之	1学期		2	13
	○分光分析論 CHM503S 鈴木 拓	2学期		2	
	○分離精製工学 CHM564S 西浜 章平	2学期		2	15

国際環境工学研究科 博士前期課程 環境システム専攻 環境生態システムコース

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■専門科目 ■資源化学システム	○固体材料化学 CHM532S 黎 暁紅	2学期		2	16	
	○プロセス設計学 CHM563S 吉塚 和治	1学期		2	17	
	○先端材料システム CHM521S 李 丞祐	1学期		2	18	
	○高分子材料化学 CHM522S 秋葉 勇	2学期		2	19	
	資源化学システム特論I CHM504S ○資源化学システムコース長、林(大矢)、武井(西浜)	1学期		2	20	
	資源化学システム特論II CHM505S 資源化学システムコース長、西村(秋葉)、永禮(安井)	2学期		2	21	
	○環境化学 CHM501S 宮脇 崇	1学期		2	22	
	○大気環境工学 CHM502S 藍川 昌秀	2学期		2	23	
	○資源循環技術 CHM561S 安井 英育	1学期		2	24	
	○水圏環境工学 ENV505S 寺嶋 光春	2学期		2	25	
	○地圏環境修復 ENV503S 伊藤 洋	1学期		2	26	
	○リサイクル工学 ENV504S 大矢 仁史	1学期		2	27	
	■バイオシステム	○環境生物学 BIO521S 柳川 勝紀	1学期		2	28
		○高分子物性論 BIO531S 望月 慎一 他	2学期		2	29
○計算化学 BIO532S 上江洲 一也		2学期		2	30	

国際環境工学研究科 博士前期課程 環境システム専攻 環境生態システムコース

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門科目 ■バイオシステム	○生体材料論 BIO533S 中澤 浩二	1学期		2	31
	○生態システム論 BIO522S 原口 昭	1学期		2	32
	○生物センサー工学 BIO534S 磯田 隆聡	2学期		2	33
	○微生物機能学 BIO523S 森田 洋	2学期		2	34
	○環境応答生理学 BIO524S 河野 智謙	1学期		2	35
○バイオシステム特別講義 BIO500S 塩澤 正三	1学期		2	36	
バイオシステム講究I BIO501S バイオシステムコース全教員(○コース長)	1学期		2	37	
バイオシステム講究II BIO502S バイオシステムコース全教員(○コース長)	2学期		2	38	
○分子細胞生物学 BIO525S 木原 隆典	2学期		2	39	
■環境生態システム	○環境経済論 ENV650S 加藤 尊秋	1学期		2	40
	○エネルギー環境工学 ENV620S 藤山 淳史	1学期		2	41
	○環境経営システム論 ENV621S 叢 日超	2学期		2	42
	○環境情報システム論 ENV610S 浦西 克維	2学期		2	43
○都市環境評価・計画論 ENV622S 松本 亨	2学期		2	44	
○持続可能発展論 ENV510S 三宅 博之 隔年開講。	1学期		2	45	

国際環境工学研究科 博士前期課程 環境システム専攻 環境生態システムコース

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門科目 ■環境生態システム	○アジアの環境問題 (通常クラス) ENV501S 寺嶋 光春 他	1学期		2	46	
	○省資源衛生工学 ENV502S 安井 英斉 他	1学期		2	47	
	○健康リスク学 ENV520S 加藤 尊秋 他	1学期		2	48	
	■機械システム	流体力学特論 MEC540S 仲尾 晋一郎	1学期		2	49
		燃烧工学特論 MEC551S 吉山 定見	2学期		2	50
○流動光計測特論 MEC541S 宮里 義昭		2学期		2	51	
○伝熱工学特論 MEC552S 井上 浩一		2学期		2	52	
○熱力学特論 MEC550S 泉 政明		1学期		2	53	
○制御工学特論 MEC561S 清田 高德		2学期		2	54	
メカトロニクス特論 MEC571S 山本 元司		1学期		2	55	
設計工学特論 MEC530S 趙 昌熙		1学期		2	56	
○加工学特論 MEC520S 村上 洋	1学期		2	57		
材料力学特論 MEC510S 長 弘基	1学期		2	58		
○機械要素設計特論 MEC531S 宮國 健司	2学期		2	59		
○システム工学特論 MEC570S 岡田 伸廣	1学期		2	60		

国際環境工学研究科 博士前期課程 環境システム専攻 環境生態システムコース

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門科目 ■機械システム	○機械力学特論 MEC560S 佐々木 卓実	2学期		2	61
	先端工学特論 MEC500S 金本 恭三 他	2学期		2	
■建築デザイン	建築デザインプログラム ARC500S 福田 展淳 他	2学期		2	63
	○環境共生都市づくり論 ARC530S デワンカー バート	1学期		2	64
	世代間建築特論 ARC514S 小山田 英弘 他	1学期		2	65
	○環境空間設計学 ARC540S 山田 浩史	1学期		2	66
	建築生産管理論 ARC513S 保木 和明	1学期		2	67
	環境調和型材料工学特論 ARC516S 陶山 裕樹 他	2学期		2	68
	構造解析学 ARC511S 藤田 慎之輔 他	1学期		2	69
	建築材料特論 ARC515S 小山田 英弘 他	2学期		2	70
	建築構造設計 ARC510S 江崎 文也	1学期		2	71
	耐震構造学 ARC512S 城戸 將江 他	2学期		2	72
	環境設備システム論 ARC520S 安藤 真太郎	1学期		2	73
	○建築・都市エネルギー論 ARC521S 高 偉俊 他	1学期		2	74
	音と光の環境デザイン特論 ARC522S 福田 裕美	1学期		2	75

国際環境工学研究科 博士前期課程 環境システム専攻 環境生態システムコース

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門科目 ■建築デザイン	熱と空気的环境デザイン特論 ARC523S 白石 靖幸 他	2学期		2	76
	建築エンジニアリングプラクティス ARC501S 高 偉俊 他	2学期		2	77
	○低炭素建築都市デザイン論 ARC531S 福田 展淳	1学期		2	78
■情報工学専攻共通	ソフトコンピューティング EIC503S 古月 敬之	2学期		2	79
	○適応信号処理 EIC520S 孫 連明	1学期		2	80
	組込みソフトウェア INF524S 山崎 進	1学期		2	81
	ソフトウェア検証論 INF512S 青木 利晃	2学期		2	82
	ソフトウェア工学概論 INF510S 山崎 進	1学期		2	83
	○視覚情報処理 EIC523S 佐藤 雅之 他	2学期		2	84
	○パターン認識応用 EIC522S 山崎 恭	2学期		2	85
	○情報セキュリティ論 EIC521S 佐藤 敬	1学期		2	86
	○動的システム論 EIC551S 藤本 悠介	1学期		2	87
	○組み合わせ最適化論 EIC511S 高島 康裕	1学期		2	88
	○システム制御理論 EIC550S 堀口 和己	1学期		2	89
	○スパースモデリング EIC552S 永原 正章	1学期		2	90

国際環境工学研究科 博士前期課程 環境システム専攻 環境生態システムコース

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目 ■情報工学専攻共通	○感覚測定概論 EIC540S 玉田 靖明	1学期		2	91
■計算機科学	○信号解析 EIC620S 京地 清介	2学期		2	92
	○画像処理 EIC621S 松岡 諒	1学期		2	93
	ネットワークアーキテクチャ EIC624S 古閑 宏幸 他	1学期		2	94
○情報通信論 EIC622S 上原 聡	1学期		2	95	
■融合システム	○VLSI物理設計 EIC612S 中武 繁寿	2学期		2	96
	○組み込みハードウェア EIC611S 杉原 真	1学期		2	97
	テスト容易化設計 EIC613S 木村 晋二	2学期		2	98
○移動通信 EIC623S 梶原 昭博	1学期		2	99	
○医用工学基礎 EIC610S 松田 鶴夫	2学期		2	100	
■特別研究科目 ■環境システム専攻	○特別研究 (博士前期課程) MAT600R 各研究指導教員/Research Advisor	通年		8	101

企業環境マネジメント論

(Corporate Environmental Management)

担当者名 /Instructor 粉 康則 / Yasunori HEGI / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV520B	◎		
科目名	企業環境マネジメント論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

わが国の環境問題は、高度経済成長期の産業公害問題から国際協調を要する地球環境保全問題へと大きく変貌を遂げた。こうした動向に対応し、事業経営における環境マネジメントの在り方も、直接規制から経済的手法や自主的取組を含む複合的な手法へと変遷している。本講義は、環境マネジメントの実務上の事例研究を通して課題と今後いかにあるべきかを考える。
なお、到達目標は工場等事業場における環境管理業務の実施が可能な能力の習得である。

An environmental problem of Japan has changed from the industrial pollution problem on the highly developed economic growth period to the global environmental problem. And an environmental management in the business has changed too from directly regulations to the combined technique which contains an economical technique and independent controls.

This lecture will be going to think the problem and solution in the case study of actually business management. To do the jobs in charge of environmental control subsection chief in the factories.

教科書 /Textbooks

適宜配布
Disutribution of original textbook.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

多数あるので講義時に都度紹介する
References are introduced in lecture, if necessary.

企業環境マネジメント論

(Corporate Environmental Management)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 企業における環境対策の推進について
 2. 環境問題の歴史
 3. 企業を取り巻く環境関連法令
 4. 環境法令の概要 (大気、水質、騒音、土壌等)
 5. 循環型社会基本法の概要
 6. 環境マネジメントシステムの概要
 7. 環境マネジメントシステムの構築
 8. 環境会計及び環境マテリアルフローコスト
 9. 企業の社会的責任と経営
 10. 工場等における実践的環境管理
 11. 環境アセスメントの実際
 12. 実践環境コンサルビジネス
 13. 地球環境問題への対応
 14. SDGsと環境経営の展望
 15. 総括
1. Promotion of Environmental control measures in the company
 2. History of environmental problem
 3. The environmental various lows around the company
 4. Outline of the each environmental lows (air, water, etc.)
 5. Outline of the basic law for establishing the recycling-based society
 6. Outline of the environmental management system
 7. Cons t ruction of the environmental management system
 8. Environmental accounting & Environmental material flow cost
 9. Outline of corporate social responsibility & management
 10. Practice of the environmental management in the factories
 11. Practice of the environmental assessment
 12. Practice of the environmental consultation business
 13. Measures of the global environmental problem
 14. Views of the environmental management & SDGs
 15. Generalization

成績評価の方法 /Assessment Method

テーマレポート 50% 授業への取り組み 50%
Report 50% Matching to class 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境問題は日常、身近に起きており、政治・社会・経済的な様々なニュースの中で把握できる。また、自身の学内外におけるライフスタイルとも密接に関係づけることができる。これらの事象を自らの感度を高めて広く収集し、授業で得られた知識や技術をベースに考え、さらにレベルアップするよう努めること。

You can obtain information about the environmental issue in the daily political, social and economic news topics. And it can be connected to your lifestyle in or out of university campus closely. You should collect those topics applying the knowledge learned through this class, and improve your sensibility on the issues.

履修上の注意 /Remarks

毎回、授業のレジメまたはテキスト資料を配布、必要により資料とパワーポイントで講義しますので、PC・プロジェクターを使用。
Resume or texts will be distributed at each time. The lecture will be given by powerpoints and handouts, using a PC and a projector, when necessary.

日本語で実施

This course is taught in Japanese.

予習と復習は教員の指示に従うこと。

Ways of the preparation and review for the class are suggested from the teacher.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知的財産の生産と活用

(The Creation, Protection and Utilization of Intellectual Property)

担当者名 /Instructor 石橋 一郎 / Ichirou ISHIBASHI / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LAW500B	◎		
科目名	知的財産の生産と活用		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は、現代社会のビジネスマン・技術者にとって必須の知識である知的財産をグローバルで広く高い視点から多くの実例とともに俯瞰する。本講義は、知的財産権制度を理解し活用できる実践的な知識の習得を目的とする。

This lecture gives a bird's-eye view of intellectual property, which is essential knowledge for businessmen and engineers in modern society, from a broad and high perspective globally, along with many examples. The purpose of the lecture is to acquire practical knowledge that enables understanding and utilization of the intellectual property rights system.

教科書 /Textbooks

自作資料(毎回配布)
Self-made materials (distributed every lecture)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義中に提示します。
To be announced during the lecture as needed.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1.はじめに～知財の概略～	Opening--About Intellectual Property(IP)---
2.特許制度の歴史	History of Patent System
3.日本の特許制度	Japanese Patent System
4.外国の特許制度	Foreign Patent System
5.意匠	Design Patent
6.商標	Trademark
7.特許調査	Patent Search
8.特許係争	Patent Litigation
9.不正競争防止法等	Unfair Competition, etc.
10.著作権	Copyright
11.企業における知財戦略	Patent Strategy in Company
12.法規についての基礎知識	Basic Knowledge of Law
13.知的財産の周辺法(1)	Peripheral Law of IP(1)
14.知的財産の周辺法(2)	Peripheral Law of IP(2)
15.知的財産の周辺法(3)	Peripheral Law of IP(3)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(特許調査) report(Patent Search)30%
期末試験 examination 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知財に関係する新聞報道・ネットニュース等は常に気をつけて日常的に見ておくこと。
Always be careful about newspaper reports, net news, etc. related to intellectual property.

知的財産の生産と活用

(The Creation, Protection and Utilization of Intellectual Property)

履修上の注意 /Remarks

- ・ 2022年度は対面授業とします。
- ・ 宿題の課題レポートは実際に特許調査をして報告書としてまとめることであり、これをしっかりやっていただく必要があります。
- ・ この授業は日本語のみで行います。
- ・ 2022 will be a face-to-face lecture.
- ・ The homework to be given is actually the preparation of a patent search report, and it is necessary to do this firmly.
- ・ Only Japanese language is used in this lecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最新の実例を多く取り入れて講義していきます。
I will give lectures by incorporating many of the latest examples.

キーワード /Keywords

知的財産、特許、意匠、商標、著作権、不正競争防止、地理的表示、種苗法、独禁法、薬機法、製造物責任法

Intellectual Property, Patent, Design Patent, Trademark, Copyright, Unfair Competition, Geographical Indication, Plant Variety Protection, Antitrust, PMD, Product Liability

○Academic Presentation I

(Academic Presentation I)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース

※お知らせ/Notice 受講人数に制限があります。/There is a limit to the number of participants. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENG500B	○	◎	
科目名	Academic Presentation I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to learn how to give an effective poster presentation. It is true that the content of a presentation is vital in selling your idea, but it is also important how to deliver your presentation to attract the audience's attention. This course will thus put focus on "how." Students will learn core presentation skills and useful expressions through practice in class. By the end of this course, students will be able to:

- (1) use useful phrases and vocabulary for making presentations
- (2) employ basic poster presentation techniques
- (3) design an effective scientific research poster
- (4) give a presentation in public with confidence

Goals

- Communicate in English in academic situations.
- Use appropriate expressions to present research findings.

教科書 /Textbooks

English for Presentations. (by Grussendorf, Marion) Oxford University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be announced in class

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1. Course introduction
- Week 2. Differences between poster and oral presentations
- Week 3. Informal presentations
- Week 4. How to start your presentation
- Week 5. How to organize your presentation
- Week 6. Preparing the main part of your presentation
- Week 7. "3-Minute Thesis"
- Week 8. How to prepare a poster
- Week 9. Preparing bullet charts based on data
- Week 10. How to talk about visuals in a poster
- Week 11. Describing a graph or chart of your own
- Week 12. How to finish your presentation
- Week 13. Rehearsing your presentation
- Week 14. Final presentations
- Week 15. Review

○Academic Presentation I

(Academic Presentation I)

成績評価の方法 /Assessment Method

Active involvement in class 10%
 Homework assignments 10%
 Informal presentation 10%
 3-Minute Thesis 30%
 Final presentation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are required to prepare for each class. They are also required to review the vocabulary and the presentation skills they have learned in previous classes.

履修上の注意 /Remarks

- (1) All the students who wish to enroll are required to contact the course instructor before the first class. This is very important for the course instructor to decide whether the course is to be conducted in English or Japanese. Those who fail to do so and miss the first class may not be allowed to take the course.
- (2) Students must have sufficient proficiency of the language of instruction to pursue the course work. The course instructor may give a diagnostic test to assess the language proficiency of the student. Students may also be asked to present the score of a recent language test (such as TOEFL or TOEIC for non-native speakers of English taking the course in English, or JLPT for non-native speakers of Japanese taking the course in Japanese) to verify their language proficiency.
- (3) Enrollment in this course is limited to a maximum of 10 students. Selection of the students is at the discretion of the course instructor.
- (4) Students are expected to work independently.

履修希望者は必ず受講申告する前に担当教員にコンタクトをとること。

/Students who want to take this course must contact the instructor before registration.

英語力と受講者数による履修制限がある。

/Applications are limited due to class size and each student's English proficiency level.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

academic presentation, English

○Academic Presentation II

(Academic Presentation II)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース

※お知らせ/Notice 受講人数に制限があります。/There is a limit to the number of participants. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENG510B	○	◎	
科目名	Academic Presentation II		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to learn how to give an effective oral presentation using a presentation software. Although the content of a presentation is important in selling your idea, how that presentation is delivered is also important to get your idea across. This course will thus put focus on “how.” By the end of this course, students will be able to:

- learn useful phrases and vocabulary for presentations
- learn some basic techniques to give oral presentations
- understand how to structure a presentation
- make simple but informative slides
- get confidence in presenting in public

Goals

- Communicate in English in academic situations.
- Organize ideas in an effective manner to report and discuss research findings.

教科書 /Textbooks

English for Presentations (by Grussendorf, Marion) Oxford University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TBA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course orientation
2. Casual presentation
3. How to start your presentation
4. How to organize your presentation
5. Effective use of sign-positing words
6. Prepare the main part of your presentation
7. 3-minute thesis
8. Effective use of visual aids
9. Prepare bullet charts based on data
10. How to talk about visuals in a poster
11. Describing a graph or chart of your own
12. How to finish your presentation
13. Rehearse your presentation
14. Final presentation
15. Review

○Academic Presentation II

(Academic Presentation II)

成績評価の方法 /Assessment Method

Active involvement in class 10%
 Presentation assignments 30%
 Casual presentation 10%
 3-minute thesis 20%
 Final presentation 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are required to prepare for each class. They are also required to review the vocabulary and the presentation skills they have learned in previous classes.

履修上の注意 /Remarks

- (1) All the students who wish to enroll are required to contact the course instructor before the first class. This is very important for the course instructor to decide whether the course is to be conducted in English or Japanese. Those who fail to do so and miss the first class may not be allowed to take the course.
- (2) Students must have sufficient proficiency of the language of instruction to pursue the course work. The course instructor may give a diagnostic test to assess the language proficiency of the student. Students may also be asked to present the score of a recent language test (such as TOEFL or TOEIC for non-native speakers of English taking the course in English, or JLPT for non-native speakers of Japanese taking the course in Japanese) to verify their language proficiency.
- (3) Enrollment in this course is limited to a maximum of 10 students. Selection of the students is at the discretion of the course instructor.
- (4) Students are expected to work independently.

履修希望者は必ず受講申告する前に担当教員にコンタクトをとること。

/Students who want to take this course must contact the instructor before registration.

英語力と受講者数による履修制限がある。

/Applications are limited due to class size and each student's English proficiency level.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○環境原論 (英語対応クラス)

(Environmental Principles (language: English))

担当者名 /Instructor 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室, 楠田 哲也 / Tetsuya KUSUDA / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV500B	◎		
科目名	環境原論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

How are we recognizing, picking up, and trying to solve environmental problems when we think about them? In the first half of this lecture, by understanding the basis of the current occurrence of environmental problems, we will understand the elements that give rise to environmental problems and analyze the essence of human beings and the relationships between the elements. Through this, we aim to build an intellectual foundation and acquire a bird's-eye view of utilization so that we can create a more sustainable society, from current environmental problems to problems that may become major problems in the future. In the second half, we will learn specific procedures and methods to reach a sustainable society. There is a lot of resistance to rapid changes from the current situation, and depending on the content of the changes, it may be difficult to get approval. Learn methodologies for reaching a sustainable society, including a global decision-making system.

私たちは、環境問題を考える時に、問題をどのように認識し、取り上げ、解決しようとしているだろうか。本講義の前半では、現在の環境問題発生基底を理解することにより、環境問題を産み出している要素を理解し、人間の本质と要素間の関連性を分析する。このことを通して現在の環境問題から将来的に大きな問題となる可能性がある課題まで、さらに持続可能な社会を創出できるように、知的基盤の構築と俯瞰的活用力の修得を目指す。また、後半では、持続可能な社会に到達するための具体的な手順と手法を学ぶ。現在の状況からの急速な変革は抵抗が多いし、変革内容によっては賛成が得難いこともある。全球的意思決定システムを含め持続可能な社会に到達するための方法論を学ぶ。

到達目標

高度な専門的知識・技能：環境問題を多面的に理解し行動するための思考枠組みを修得すること。

Attainment target

Specialist knowledge and skills: acquire several thinking frameworks for understanding and acting on environmental issues from multiple perspectives.

教科書 /Textbooks

Handouts are distributed if necessary.
必要に応じて資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Introduce some references in class.
必要に応じて講義中に紹介する。

○環境原論 (英語対応クラス)

(Environmental Principles (language: English))

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 What is the Environmental Principles?
- 2 Current environmental problems and issues
- 3 Environmental structure and components
- 4 Ecosystem and human activities
- 5 Social and economic systems and legal systems
- 6 Technology
- 7 Regionalism and Globalism
- 8 What is a sustainable society?
- 9 Requirements for a sustainable society
- 10 Current status toward building a sustainable society
- 11 Ethics in a sustainable society
- 12 Intergenerational ethics and social capital
- 13 Appropriate technology in a sustainable society
- 14 Methods for Global Decision Making and Governance
- 15 Discussion and Summary

- 1 環境原論とは
- 2 現在の環境問題と課題
- 3 環境の構造と構成要素
- 4 生態系と人間の営み
- 5 社会と経済システムおよび法制度
- 6 技術
- 7 地域主義とグローバル主義
- 8 持続可能な社会とは
- 9 持続型社会の要件
- 10 持続型社会の構築に向けての現状
- 11 持続型社会での倫理
- 12 世代間倫理と社会関係資本
- 13 持続可能な社会における適正技術
- 14 全球的意思決定とガバナンスのための手法
- 15 ディスカッションとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Attend all lectures and discussion sections; 60%
 Complete reports; 40%
 全ての授業と議論への参加; 60%
 レポート提出; 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Pre and post homework on handouts.
 配布資料についての予復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

Lecture method can be arranged cause of novel virus infection trends.
 Basic knowledge of Environment studies is required to participate in discussions.
 The language used: English
 新型ウイルス感染症の動向によって授業方法が変更となる場合がある。
 環境にかかわる基礎を修めて、講義の際の議論に参加できること。
 使用言語:英語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course provides opportunities for deliberate thinking besides for the acquisition of knowledge on environmental issues.
 この授業では、環境問題に関する知識の習得に加えて、慎重に問題について考える機会を提供する。
 Lecturer's email; Tetsuya KUSUDA: kusuda@kyudai.jp, Hiroyuki TSUJII: tsujii@kitakyu-u.ac.jp

キーワード /Keywords

Sense of environment, Value of environment, Ethics, Sustainability, Human-being, Nature, Society.
 環境観、価値、倫理、持続性、人間、自然、社会
 SDGs 6, 7, 8, 9, 10 11, 12, 13, 14, 15

環境原論 (日本語対応クラス)

(Environmental Principles (language: Japanese))

担当者名 /Instructor 木村 登次 / Noritugu KIMURA / 非常勤講師, 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
	ENV500B	◎		
科目名	環境原論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

私たちは、環境問題を考える際に、どのように事実を認識し、課題を指摘し、どのようにその解決に取り組もうとしているのだろうか。本講義では、環境問題を本質的に検討するための理論を学び、それらを用いて思考を深めていく訓練を行う。また、それらの思考枠組みを疑い、再構築することにより、自らの捉え方を得られるようになることを目指す。

How do we recognize the fact, pick up problem and try to resolve them, when we think of the environmental Issues? At this course, we will learn several theories to consider the issues essentially, and practice to think of problems deeper using theories. Then, we try to attain a way of own thinking, deconstructing existing frameworks.

到達目標

・ 高度な専門的知識・技能：環境問題を多面的に理解し行動するための思考枠組みを修得すること。

Attainment target

- Specialist knowledge and skills: acquire several thinking frameworks for understanding and acting on environmental issues from multiple perspectives.

教科書 /Textbooks

必要に応じて資料を配布
Handouts are distributed if necessary.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義中に紹介する
Introduce some references in class.

環境原論 (日本語対応クラス)

(Environmental Principles (language: Japanese))

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 講義概要 環境原論の必要性
 2. 問題解決と環境倫理
 3. 環境教育と人間性
 4. 歴史と環境(1) エネルギーと環境
 5. 歴史と環境(2) 植物性燃料、動物性燃料、鉱物性燃料
 6. 環境問題の現在
 7. 技術の進歩と環境問題(1) 産業革命前の技術
 8. 技術の進歩と環境問題(2) 産業革命と技術
 9. 技術の進歩と環境問題(3) 代替エネルギーの行方
 10. 環境倫理(1) 利他の精神、人間の尊厳
 11. 環境倫理(2) 生命倫理、人権思想
 12. 環境倫理(3) 自然の生存権
 13. 環境倫理(4) 世代間倫理
 14. 環境倫理(5) 地球全体主義
 15. 環境倫理(6) 演習成果の発表
-
1. Course outline necessity of environmental principles
 2. Environmental ethics from the viewpoint of problem-solving training
 3. Environmental education and humanity
 4. Environmental problems in history (1) Energy and the environment
 5. Environmental problems in history (2) Vegetable fuel, animal fuel, mineral fuel
 6. Environmental problems in present
 7. Environmental problems in advancing technology (1) Pre-industrial technology
 8. Environmental problems in advancing technology (2) Industrial revolution and technology
 9. Environmental problems in advancing technology (3) Future energies
 10. Human rights and environmental ethics (1) Banner of altruism and human dignity
 11. Human rights and environmental ethics (2) Bioethics, thought of human rights
 12. Human rights and environmental ethics (3) Rights to lives
 13. Human rights and environmental ethics (4) Inter-generational ethics
 14. Human rights and environmental ethics (5) Earth totalitarianism
 15. Human rights and environmental ethics (6) Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) レポート 60% 期間中2回、規格 (A4サイズ、12pt、1200文字以上)
 Report 60% Two times in the term, Pattern (A4 size, 12pt, 1200 characters in Japanese)
 レポート評価基準 (点)
 90+ 教師の期待を超えた思考を展開できている。
 80+ 授業で得た知識を応用した思考を展開できている。
 70+ 授業で得た知識の範囲での論述ができている。
 60+ 授業で得た基礎知識を理解している。
 -59 授業で得た基礎知識を理解していない。
 -49 授業で基礎知識を得ていない。
 Evaluation Standard for Report
 90+ Be able to develop thinking over expectation of instructor
 80+ Be able to develop thinking applying knowledge provided in class
 70+ Be able to develop thinking in the scope of knowledge provided in class
 60+ Understood basic knowledge provided in class
 -59 Not understood knowledge provided in class
 -49 Not attained knowledge in class
- 2) 授業中の演習 40% 期間中8回
 In class practice 40% eight times in the term
 演習と発表の評価基準 (点)
 上記のレポート評価基準に準ずる。
 Evaluation Standard for in class practice and presentation
 Followed to the standard for report above.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 配布資料についての予復習が必要です。
 Pre and post homework on handouts.

履修上の注意 /Remarks

- 新型コロナウイルス感染症の動向により、授業方法が変更になることがある。
 環境にかかわる基礎を修めて、講義の際の議論に参画できること。
 Lecture method can be re-arranged cause of novel virus infection trend.

環境原論 (日本語対応クラス)

(Environmental Principles (language: Japanese))

履修上の注意 /Remarks

Basic knowledge on Environment studies is required to participate in discussions.

使用言語：日本語

Official language: Japanese

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

知識だけでなく思考も重視される。

This course provides opportunities for deliberate thinking besides for acquisition of knowledge on environmental issues.

キーワード /Keywords

環境観、価値、倫理、持続性、人間、自然、社会

Sense of environment, value of environment, ethics, sustainability, human-being, nature, society.

学外特別研修 (インターンシップ)

(Internship)

担当者名 /Instructor 各コース長/Course Head

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期/2学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV590B	○	○	◎
科目名	学外特別研修 (インターンシップ)		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業や学外研究機関などで指導を受けながら、一定期間実習・研修・研究を行うことにより、大学内の教育だけでは得られない体験を通して職業意識を向上させ、学業と実務の関連性と自己適性の把握を行うことを目的とする。一定期間の派遣の中で実務を通じた研修を受け、あるいは共同研究開発プロジェクトチームへ参加し、専門を生かした実務を実践する。

到達目標

1. 実践的学外研修を通して、各分野のスペシャリストとして必要な素養と技能を身につける。
2. 実践的な場で求められる思考力、自己表現力、俯瞰的な視点に基づく判断力を身につける。
3. 就業に対して強い関心と意欲を持ち、現場で生じた課題を解決する能力を修得する。

The objective of this course is to provide a structured setting for understanding the transition between academic education and functional practice so that the two experiences complement and reinforce each other's value.

Students are expected to develop basic levels of skills and knowledge.

Attainment targets

1. Acquisition of background and skills required as a specialist in each field through practical off-campus training.
2. Acquisition of thinking ability, self-expression ability, and judgment ability based on comprehensive view required in the practical field.
3. Acquisition of strong interest and motivation for the career and acquisition of ability to solve problems arisen in the practical field.

教科書 /Textbooks

特になし
none

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし
none

学外特別研修 (インターンシップ)

(Internship)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは、派遣先との協議、受講生との相談のうえ決定する。

詳細については、履修ガイドを参照すること。

The schedule will be decided on the consultation with the company and student. For more information, please see the Study Guide.

※建築デザインコースにおいて、一級建築士登録時に必要となる実務認定の単位として計上する場合は、

1. 意匠系：実績のある設計事務所に出向き、建築設計図書（基本設計・実施設計図面、確認申請図書）、企画、敷地調査、設計コンペ、プロポーザル方式等の提案書作成等の補助業務を行う。
2. 設備系：設備設計条件の整理、空調用熱負荷計算、熱源システムの検討、空気搬送系の検討、ダクト図面作成、給排水負荷計算、給排水・衛生設備の検討、配管図面作成、空調整備・給排水・衛生設備の積算、建築他部門との協議等の補助業務を行う。
3. 構造系：構造設計を主体とする構造設計事務所に出向き、構造の基本計画、実務レベルの構造計算、構造計算図書の作成、構造事務所管理の補助業務を行う。
4. 施工系：施工計画、生産管理、施工管理、材料検査、材料管理、工事契約等の補助業務を行う。

* Architecture Course :To acredit this course as the credits for practical certification required for registration as Japanese first-class architect, each student will spend more than 60 hours in a participating architectural office which deals with architectural design, designer's supervision, structural design, site supervision, work supervision, etc..

Follows are examples of architectural office,

1. Architectural design firms with recognized design stature: predesign, planning, and schematic design, including programming, client contact, developing goals and concepts, site analysis, schematic design, code research, building cost analysis, and design development
2. Architectural equipment design firms with recognized design stature
3. Architectural structure design firms with recognized design stature
4. General construction company which deals with site supervision, work supervision

成績評価の方法 /Assessment Method

「概要調書」の作成、派遣先企業の「評価書」、学生による実践報告等から総合的に判断する。

詳細については、履修ガイドを参照すること。

Evaluated by reports of each student and reports from the company

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

インターンシップ先の技術の概略を理解しておくこと。

It is necessary to survey on the work of company.

履修上の注意 /Remarks

スケジュールは、派遣先との協議、受講生との相談のうえ決定する。詳細については、履修ガイドを参照すること。

The schedule will be decided on the consultation with the company and student. For more information, please see the Study Guide.

※建築デザインコースにおいて、一級建築士登録時に必要となる実務認定の単位として計上する場合は、実習対象は「建築設計(意匠、構造、設備)・工事監理・施工管理に関する実務実習」に限られる。本研修は、建築実務の入門段階の演習と位置付けられており、体験的に実務を理解し慣れること及び自己適正の把握に役立てることを目的としている。

必ず建築士（設備の場合は建築設備士でもよい）から指導を受けること。

The trainer must be first or second-class architect or registered architectural equipment engineer.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

※建築デザインコースにおいて、一級建築士登録時に必要となる実務認定の単位として計上する場合は、単位修得のための必要な実務（研修）時間を合計60時間以上（1日6時間勤務として10日以上、週5日勤務で2週間以上）とする。

* Architecture Course :To acredit this course as the credits for practical certification required for registration as Japanese first-class architect, each student will spend more than 60 hours in a participating architectural office .

ex) more than 10 days x 6 hours/day, more than 2 weeks x 5 days/week

キーワード /Keywords

安全倫理

(Safety and Engineering Ethics)

担当者名 /Instructor 堀田 源治 / Genji HOTTA / 非常勤講師, 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
SSS590S	◎	○	○
科目名	安全倫理		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

倫理を現実社会の中で展開することこそが工学倫理の実践的使命であり、実学としての工学倫理の最も重要な課題でもある。工学倫理の目的である、他人を守り、組織を助け、自分も護るということを実現するためには、問題の発見とリスクの定量的見積り、業界や立場に応じた行動、周囲との協働や調整のような実務能力が必須の要素となる。本講座では、主として実例に基づくケーススタディー、ケースメソッドを通して現実的な倫理行動指針を定める実践的能力を養う。

学習達成目標

- ・ 製品・サービスの品質に対する経営者と技術者の価値の相違について説明できる。
- ・ 製品やサービス、生産工程の安全の担保における法令遵守の限界性を理解し、倫理的行動の意義について説明できる。
- ・ エシカル・リスクアセスメントの方法を理解し応用できる。
- ・ キャンパス内の安全リスク要因を発見し、原因を分析して改善案を提案できる。
- ・ 安全リスク事案に関して、必要なステイクホルダー間のコミュニケーションの枠組みを設計し説明できる。

The aim of engineering ethics is to put ethics into practice in actual situation; that is it's most important role. Various skills are required by engineers to protect their colleagues, organization, and themselves from potential crises. These skills include problem finding, quantitative risk assessment, acting according to industry rules and ones position, and cooperating with others and adjusting to circumstances. This course fosters students' ability to propose realistic ethical policies through case studies and case method learning.

Learning Goals

- Participants will become to explain the difference of value between managers and engineers on products and services safety.
- Participants will become to explain the meaning of ethical attitude understanding limits of compliance on guaranteeing safety on products, services and production processes.
- Participants will become to understand and apply the method of risk assessment.
- Participants will become to find and analyze safety risk factors at campus, and suggest improvement.
- Participants will become to design the communication framework on the safety risk, and explain it.

到達目標

- ・ 高度な専門的知識・技能：安全に関わる問題の発見とリスクの定量的見積り、業界や立場に応じた行動、周囲との協働や調整のような実務能力を獲得する。
- ・ 高い問題解決能力と表現力：業界や立場に応じた行動、周囲との協働や調整を行える。
- ・ 高い倫理観に基づいた自律的行動力：倫理を現実社会の中で展開できる。

Attainment target

- Specialist knowledge and skills: acquire practical skills such as problem finding and risk quantitative estimation, industry and position-based behavior, and collaboration and coordination with others.
- Advanced problem-solving and expressive abilities: able to act according to the industry and position, and collaborate and coordinate with others.
- Ability to function autonomously with a solid ethical foundation: able to develop ethics in the real world.

安全倫理

(Safety and Engineering Ethics)

教科書 /Textbooks

齊藤文・坂下浩司「はじめての工学倫理」(第3版)昭和堂 ※学部授業使ったもの

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

片倉善啓雄、堀田源治(2008)「安全倫理」培風館、ほか配布資料
堀田源治(2003)「いまの時代の技術者倫理」日本プラントメンテナンス協会
辻井洋行・水井万里子・堀田源治(2016)「技術者倫理」日刊工業新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1,2. 安全性と倫理；経営者と技術者の観点の違い
 - 3,4. 安全法規と倫理
 - 5,6. 法令遵守と安全確保
 - 7,8. エシカル・リスクアセスメント
 - 9,10. ワークショップ(1)：キャンパス内または居住環境における安全リスク要因の調査
 - 11,12. ワークショップ(2)：キャンパス内または居住環境における安全リスク要因の検討結果発表
 - 13,14. リスク・コミュニケーション
 15. まとめ
-
- 1,2. Safety and ethics; Different viewpoint between managers and engineers
 - 3,4. Safety law and regulation and ethics
 - 5,6. Compliance and safety practice
 - 7,8. Ethical risk assessment
 - 9,10. Workshop: Exploring safety risk factors in campus or living environment; Field survey
 - 11,12. Workshop: Exploring safety risk factors in campus or living environment; Presentation
 - 13,14. Risk communication
 15. Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

20% 授業での学びに関する最終レポート
20% 各授業の振り返り個人レポート
20% 予習に関するまとめと質問のグループ発表
40% 授業中の演習問題とワークショップに関するグループ発表

20% Final report on "Safety and Ethics"
20% Reflection of each class work
20% Group presentation on preparation and questions
40% Group presentation on in-class exercises and workshop
Group presentation on in-class workshop's result

最終レポート 規格 (A4サイズ、12pt、2000文字以上)
Final report Format (A4 size, 12pt, 2000 characters in Japanese)

提出物の評価基準 (点)

96+ : 工学倫理特有の考え方についてよく理解できており、問題となる社会環境の把握と文中の主人公の立場を良く理解した上で、問題点の抽出と整理、現実的な解決方針の選定ができています。
90+ : 工学倫理の特徴についてよく理解できており、問題となる社会環境および問題文中の主人公の立場を考えながら、問題点の抽出と整理を行い、現実的な解決方針を探ろうとしている。
85+ : 工学倫理の特徴について理解できており、問題文中の主人公の立場を考慮した上で、倫理的な解決方針について考察している。
80+ : 工学倫理の特徴と問題文中の主人公の立場を考慮した上で、倫理的な解決方針について考察している。
75+ : 問題点がどこにあるか把握できており、工学倫理的な解決方針について考察している。
70+ : 問題点がどこにあるか把握できており、自分なりの解決方針を考えている。
65+ : 問題点がどこにあるか把握できており、自分なりの意見を考えている。
60+ : 問題点の把握はできているようではあるが、第三者的感想文になっている。
-59 : 工学倫理に関する理解ができていない。題意に無関係に自分の意見と感想に終始している。題意の把握ができていない。

Assessment standard for reports.

96+: Attained well understanding of engineer's view point and chose realistic solution policy based on extracting essence of the problem and its classification.
90+: Attained well understanding of the point of engineering ethics and tried to explore realistic solution policy based on thinking of focus social circumstances, status of casts of the question story, and extracting essence of the problem.
85+: Attained well understanding of the point of engineering ethics and considered ethical solution policy based on deliberating of status of cast of the question story.
80+: Attained considering ethical solution policy based on deliberating the point of engineering ethics and cast of the question story.
75+: Attained understanding the point of problem and considering solution policy in engineering ethics' sense.
70+: Attained understanding the point of problem and considering solution policy of one's own point of view.
65+: Attained understanding the point of problem and expressed one's own opinion on it.

安全倫理

(Safety and Engineering Ethics)

成績評価の方法 /Assessment Method

60+: Attained understanding the point of problem, but just expressing impression like some others on it.
-59: Not Attained understanding engineering ethics, and just expressing one's own opinion and impression unrelated to questions. Nor understanding meaning of the question.

演習と発表の評価基準(点)は、上記のレポート評価基準に準ずる。
Evaluation Standard for in class practice and presentation are followed to the standard for report above.

授業1コマ無断欠席につき成績評価点1/15が割り引かれる。
Your grade is discounted portion 1/15 per an absence without permission.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書の該当箇所を読み、内容のまとめと質問を作成すること。
また、事後学習として、配布された資料と授業内容を振り返り質問を作成すること。

For class preparation, students should read corresponding textbook chapter to make summary and questions. And for post learning, students should review in-class study and make questions.

履修上の注意 /Remarks

第1学期の金曜1・2限
Given as intensive course 1st and 2nd periods on Friday in 1st semester.

指定する教科書の該当箇所を授業前に読んでおくこと。
Read corresponding section of specified textbook before class.

やむない理由で欠席する際には、必ず事前に教員へ申し出ること
Give notice to the instructor beforehand when you are absent for unavoidable reasons.

この授業は、日本語で実施します。
Japanese is language used in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近メディアで頻繁に採りあげられる倫理問題について、我々が専攻する工学の視点からその内容を探る。講義では論理の展開よりも、実際に起きた事件を教材とし、皆と一緒に工学倫理とは何かを考えていく。

It searches for the content of "Ethics" problem frequently caught up with media from the aspect of engineering that we major in recently. The event that actually occurs from progressing logic is made a teaching material in the lecture, and everyone thinks something to be an engineering ethics together.

キーワード /Keywords

工学倫理(技術者倫理)、安全倫理、安全工学、リスク・アセスメント、リスク・コミュニケーション、公衆の声
SDG12 つくる責任つかう責任

環境生態システム基礎

(Fundamental Lecture on Environmental and Ecological Systems)

担当者名 /Instructor 環境生態システムコース全教員 (○コース長)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期/2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生態システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV400B	◎		
科目名	環境生態システム基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本科目では、環境生態システムコースを学んでいく上で必要な基礎的知識・技術を習得する。環境リスク学、環境政策概論、環境計画学などの環境マネジメント論が授業内容として準備されている。環境生態システムコースを学ぶ上で必要な受講者の知識レベルに応じて、教育内容を適宜変更することが可能である。

In this class, you will learn basic theories and techniques that are essential for pursuing in the Environment and Ecological Systems course. Course materials may include environment related applied environmental management (such as environmental risk assessment, environmental policy & administration and environmental planning). Class content is chosen through a preliminary discussion with your research supervisor.

到達目標

・ 高度な専門的知識・技能：環境生態システムコースを学んでいく上で必要な基礎的知識・技術を修得する。

Attainment target

- Specialist knowledge and skills: to acquire the basic knowledge and skills necessary to study the Environmental and Ecological Systems course.

教科書 /Textbooks

各研究指導教員の指示するもの

Selection of the instructors

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各研究指導教員の指示するもの

Selection of the instructors

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この環境生態システム基礎は、環境生態システムコースで研究を進めていく上で必要となる基礎知識の修得を目指す。履修に当たっては、各研究指導教員と今までの学業実績と基礎知識・スキル等について、十分にコンサルティングを実施し、各人に応じた基礎知識を充実させるための個別カリキュラムを検討する。

The class is intended to incubate basic knowledge and techniques that are essential for pursuing in the Environment and Ecological Systems course. Therefore the course content will be customized for your own.

成績評価の方法 /Assessment Method

研究指導教員が、授業に対する姿勢・知識修得に関する積極性・目標とする基礎知識の理解度等を客観的に評価する。

Your research supervisor evaluates your grade based on the quality of understanding as well as attitude at the class.

環境生態システム基礎

(Fundamental Lecture on Environmental and Ecological Systems)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究指導教員の指示に従い、予習・復習に力を注ぐこと。

Follow your research supervisor's instruction, and make efforts on class preparation and brush-up.

履修上の注意 /Remarks

基礎科目を履修するには、受講申告とは別に届出書を教務係に提出する必要がある。履修ガイドをよく読み、研究指導教員に相談すること。

This course needs a separate application to the Teaching and Education Division other than the regular course subscription. Consult with your supervisor how you can join this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎分野の裾野は広く、授業だけでは必要とされる全ての基礎知識の修得は困難である。研究指導教員の具体的な指示事項はもちろんのこと、授業の中に出てくるエッセンスや関連事項について、自ら学習することが重要である。

You need to make efforts outside of your class as well to master course materials and relevant matters, which are performed more than following your research supervisor's instruction.

キーワード /Keywords

○エネルギー化学

(Energy Chemistry)

担当者名 /Instructor 郡司 貴雄 / GUNJI Takao / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM511S	◎	○	
科目名	エネルギー化学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

電気分解や電池、光合成などのエネルギー変換プロセスにおいて電子移動反応はもっとも重要な反応素過程です。エネルギー変換プロセスを制御するためには、電子移動の化学（電気化学）を正しく理解する必要があります。本授業では、「平衡論」と「速度論」にわけて電気化学の基礎を学びます。

Electron transfer reaction is the most important energy conversion process, for example, in photosynthesis, electrolysis, and battery reactions. Knowledge of electron transfer chemistry, i.e., electrochemistry, is required for controlling a variety of energy conversion processes. Students learn the fundamentals of electrochemistry from the viewpoints of chemical equilibrium and kinetics.

【到達目標】

- ・ エネルギー化学に関する専門的な知識を身につけている。
- ・ エネルギー化学について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を表現することができる。

This lecture aims at understanding the topics in energy chemistry. You can think logically about energy chemistry to search for solutions and express your own opinions.

教科書 /Textbooks

アトキンス物理化学要論 第7版、東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 電子移動の化学—電気化学入門 (渡辺 正・中林誠一郎 著) 朝倉書店、3,675円
- アトキンス 物理化学(上/下) 第8版、東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス guidance
- 2 エネルギーと化学平衡 energy and chemical equilibrium
- 3 電気分解 electrolysis
- 4 ネルンストの式、電極電位 Nernst equation, electrode potential
- 5 問題演習(1) test (1)
- 6 燃料電池と光触媒 fuel cell and photocatalysis
- 7 エネルギー変換材料(調製と分析) materials for energy conversion (preparation and analysis)
- 8 問題演習(2) test (2)
- 9 電荷移動速度と拡散 the rate of electron transfer and diffusion
- 10 電気化学測定と応用 Electrochemical measurement and its application
- 11 問題演習(3) test (3)
- 12 研究発表、および討論(1) Presentation and discussion (1)
- 13 研究発表、および討論(2) Presentation and discussion (2)
- 14 研究発表、および討論(3) Presentation and discussion (3)
- 15 総合討論 Discussion

○エネルギー化学

(Energy Chemistry)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習30%、発表 20%、討論 20%、レポート30%

Grading will be based on test (30%), presentation (20%), discussion (20%), and report (30%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

学部レベルの物理化学を理解していること。

The students need knowledge of basic physical chemistry.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

資源・エネルギー・環境問題に常に興味をもち、化学技術者の立場から問題の本質を明らかにするための基礎力を身につけてほしい。

Be interested in the issues of resources, energy, and environment and have a solid scientific foundation to clarify the essence of the issues from the viewpoint of chemical engineers.

キーワード /Keywords

エネルギー、化学平衡、電極電位、電子移動、活性化エネルギー

energy, chemical equilibrium, electrode potential, electron transfer, activation energy

○化学反応工学

(Kinetics and Reaction Engineering)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM562S	◎	○	
科目名	化学反応工学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業の概要は以下のとおりである。

1. 化学反応速度と反応機構の理論についての専門知識を深める。
2. 自己の研究テーマについて反応速度、反応機構の面から考察・評価し、それを発表・ディスカッションする。

到達目標

- ・ 化学プロセスの研究に必須な化学反応速度論、反応機構、界面現象などに関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- ・ 化学反応速度、反応機構、界面現象などの側面から見た自身の研究について、総合的、論理的に思考し、自分の考えや判断を明確に表現することができる。

Lecture in English opens every two years; the course is scheduled to open in 2022, 2024,.....

The objectives of this class is :

1. Thorough study on the theory of chemical reaction kinetics and reaction mechanism for the students to apply it to their own research work.
2. Presentation by every student about his/her own research from the view point of reaction kinetics and mechanism and discussion with other students.

教科書 /Textbooks

アトキンス 物理化学 第8版 (下)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない Nothing specified

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ガイダンス・導入	Guidance & Introduction
2 反応速度理論 (1) 【速度式】	Theory of reaction kinetics (1) 【Rate equation】
3 反応速度理論 (2) 【1次反応速度式】	Theory of reaction kinetics (2) 【First order kinetics】
4 反応速度理論 (3) 【2次反応速度式】	Theory of reaction kinetics (3) 【Second order kinetics】
5 反応速度理論 (4) 【アレニウス式】	Theory of reaction kinetics (4) 【Arrhenius equation】
6 反応機構理論 (1) 【素反応】	Theory of reaction mechanism (1) 【Elementary reaction】
7 反応機構理論 (2) 【定常状態近似】	Theory of reaction mechanism (2) 【Steady state approximation】
8 反応機構理論 (3) 【連鎖反応】	Theory of reaction mechanism (3) 【Chain reaction】
9 反応機構理論 (4) 【遷移状態理論】	Theory of reaction mechanism (4) 【Transition state theory】
10 事例紹介(1) 【酸化反応】	Case study (1) 【Oxidation reaction】
11 事例紹介(2) 【水素化反応】	Case study (2) 【Hydrogenation reaction】
12 事例紹介(3) 【改質反応】	Case study (3) 【Reforming reaction】
13 発表会(1)	Presentation (1)
14 発表会(2)	Presentation (2)
15 総合討論	Discussion

○化学反応工学

(Kinetics and Reaction Engineering)

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容(40%)、質疑応答(40%)、レポート(20%) Presentation(40%), Communication(40%), Contents(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1. 学部で学んだ化学反応速度と反応機構の基礎を復習しておくこと。
2. 自己の研究テーマについて反応速度、反応機構の面からよく考えておくこと。

It is important to consider the relation between your own work and reaction kinetics and mechanism.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○無機材料工学

(Inorganic Materials Engineering)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM531S	◎	○	
科目名	無機材料工学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ゼオライトは吸着剤や触媒などとして工業的にも用いられている無機材料であり、現代の化学工業にはなくてはならないものである。本講義では、ゼオライトに代表される多孔質材料を題材とし、その構造・性質や応用について学修する。

- ・ 様々な結晶性無機材料の物性・合成方法についての知識を修得し、他者に説明できるようになる
- ・ 無機材料に関する英語論文の内容を理解し、その内容を他者にわかりやすく説明できるようになることを到達目標とする。

Zeolites are inorganic functional materials actually employed in chemical industries as adsorbents, catalysts and so on. In this course, structures, physicochemical properties, and applications of zeolites and other porous materials will be studied.

The goals of this lecture are:

- To acquire physicochemical properties and synthesis methods of various inorganic crystalline compounds.
- To digest some academic research papers on inorganic compounds written in English.

教科書 /Textbooks

特に指定しない/Not designated

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ゼオライトの科学と工学』 小野嘉夫・八嶋建明編 講談社サイエンティフィック 2000年 ¥4,900 (税別)
- 『ゼオライトの科学と応用』 富永博夫編 講談社サイエンティフィック 1987年 ¥4,800 (税別)
- 『ゼオライト ー基礎と応用』 原伸宜・高橋浩編 講談社サイエンティフィック 1975年 ¥7,282 (税別)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス/Guidance
- 2 ゼオライトの構造/Structure of zeolites
- 3 ゼオライトの物性/Physicochemical properties
- 4 酸触媒としての利用(1) クラッキング(1) - プロセス概要と反応 - /Catalyst Cracking (1) -process and reaction-
- 5 酸触媒としての利用(2) クラッキング(2) - 触媒 - /Catalyst Cracking (2) -catalysts-
- 6 酸触媒としての利用(3) その他の触媒プロセス/Other catalytic processes
- 7 酸化触媒としての利用/Oxidation catalysts
- 8 吸着とイオン交換/Adsorption and Ion-exchange
- 9 発表、および討論 1 /Presentations and discussion 1
- 10 発表、および討論 2 /Presentations and discussion 2
- 11 発表、および討論 3 /Presentations and discussion 3
- 12 発表、および討論 4 /Presentations and discussion 4
- 13 発表、および討論 5 /Presentations and discussion 5
- 14 発表、および討論 6 /Presentations and discussion 6
- 15 まとめ/Summary

○無機材料工学

(Inorganic Materials Engineering)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加/ Participation 20%
プレゼンテーション/ Presentation 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、前回の講義を踏まえた講義を行うので、講義前には前回の講義内容をよく復習すること。講義で紹介した文献などは自分で取り寄せるなどし、事後学習すること。

Review previous lectures before every lecture. Students are highly recommended to read references introduced in a lecture.

履修上の注意 /Remarks

授業で取り上げる材料に関する発表をしてもらいます。授業までに関連する英語論文を読み、プレゼンテーション用資料を作成しておくように。
At the final part of the schedule, you have to make a presentation about porous materials referring at least one scientific paper written in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席点はつけません。発表や討論での発言など、積極的な授業への参加を期待します。
Constructive participation is highly expected.

キーワード /Keywords

○触媒反応化学

(Catalytic Reaction Chemistry)

担当者名 /Instructor 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM512S	◎	○	
科目名	触媒反応化学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

触媒は現代の化学工業にはなくてはならないものである。本講義では、化学工業プロセスで用いられている様々な触媒を取り上げ、触媒反応及び触媒自身の特徴などを解説する。本講義を通じて、物質の特性に基づいた触媒反応に関する知識を身につけている、および、化学反応の特性を捉え、触媒反応において現出する問題を克服するための論理的な思考力を身につけていることを到達目標とする。

Catalyst is indispensable for chemical industries. In this class, the roles and properties of various catalysts actually employed in industrial chemical processes will be shown.

The objectives in this class:

To acquire basic knowledge about catalysis based on physicochemical properties of catalysts.

To acquire logical thinking for solving problems in catalytic reactions.

教科書 /Textbooks

特になし
Not designated

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『新しい触媒化学』 菊地英一・多田旭男・服部英・瀬川幸一・射水雄三 著 三共出版 2013年 本体2,800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス Guidance
2. エネルギー/資源論 Energy & resources
3. 自由エネルギー/平衡 Free energy & equilibrium
4. 水和と溶解 Hydration and dissolution
5. 反応速度 Kinetics
6. 吸着と脱着 Adsorption and desorption
7. 発表(1) Presentation (1)
8. 発表(2) Presentation (2)
9. 触媒反応 Catalysis
10. 石油化学 Petrochemistry
11. グリーンケミストリー Green chemistry
12. 環境調和触媒技術 Catalysis technology
13. 環境調和型ナノポーア材料/ゼオライト Zeolite
14. 発表(3) Presentation (3)
15. 発表(4) Presentation (4)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み/ active participation in class 20%
発表・課題/ presentation & assignment 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各テーマに関してキーとなる見識を準備のこと
Prepare to knowledge for lecture item

○触媒反応化学

(Catalytic Reaction Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

触媒（材料合成、解析、反応等）に関する基礎知識を有していることが望まれる
Knowledge of catalysis including synthesis, characterization, and reaction is required
遠隔授業も含む
Remote classes may be conducted

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

対話型授業に積極的に参加すること
Try to discuss

キーワード /Keywords

○分光分析論

(X-ray Spectroscopy)

担当者名 /Instructor 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM503S	◎	○	
科目名	分光分析論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

環境材料開発で主に使用されるX線分析、電子線分析などの技法において、空間群などの幾何学・群論の取り扱いが重要である。分析理論をブラックボックスとしたままでは、有用な物性との議論に足る分析精度が得られない場合もある。X線回折による構造解析の基本となる、International tablesの読み方、回折分析法の原理と測定法、誤差などについて、理論面から学習を行う。後半は実際に粉末X線データを用いてリートベルト法によるフィッティング手順を学ぶ。

到達目標は以下の通り。

- 固体試料に対する分光法を用いた構造解析手法についての知識を修得する。
- 構造解析を念頭に置いた結晶構造や対称性に関する思考力及び判断力を修得する。ソフトウェアを用いた構造表示・解析を行う手法を修得する。

When beginner analyst start to the structure analysis by X-ray diffraction, select of a space group is the first gateway. At this class, the reading of International tables used as the foundations of a space group classification is studied first. After touching the theory of diffraction, fitting by the Rietveld method for actual powder X-rays data will be performed by themselves.

Purpose:

Acquire knowledge about structural analysis methods using spectroscopy on solid materials.

Acquire insight and judgment regarding crystal structure and symmetry with structural analysis in mind. Learn techniques for structural display and analysis using software.

教科書 /Textbooks

粉末X線解析の実際-リートベルト法入門 中井 泉 (著), 泉 富士夫 (著), 日本分析化学会X線分析研究懇談会 (編集)
Powder X-ray Analysis in Practice - An Introduction to the Rietveld Method Izumi Nakai (Author), Fujio Izumi (Author), The Japan Society for Analytical Chemistry X-ray Analysis Research Group (Editor)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○物質の対称性と群論 今野豊彦著 共立出版
Symmetry and Group Theory of Matter by Toyohiko Konno, Kyoritsu Publishing Co.

○分光分析論

(X-ray Spectroscopy)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. インTRODクシヨN
2. 対称性と結晶学I (対称操作とは何か?)
3. 対称性と結晶学II (格子の分類)
4. 対称性と結晶学III (点群)
5. 量子力学の復習I (ベクトル空間と状態ベクトル)
6. 量子力学の復習II (シュレーディンガーの波動方程式)
7. 物質の対称性とその応用I (三次元空間群の分類)
8. 物質の対称性とその応用II (International Tablesの読み方)
9. 物質の対称性とその応用III (構造例)
10. 物質の対称性とその応用IV (回折現象と対称操作)
11. リートベルト法と、フィッティングプログラムRIETAN
12. プログラムのインストールと初期設定
13. パターンフィッティングとパラメータ
14. 解析パラメータの実際
15. 解析演習

1. Introduction
2. Symmetry and crystallography (what is symmetry operation?)
3. Symmetry and crystallography (space group)
4. How to read the information of International tables
5. Review of quantum dynamics
6. X-ray diffraction intensity
7. Symmetry and a crystal structure
8. Symmetry and a crystal structure II
9. A structural change and diffraction pattern change
10. A powder X-rays setup for structure elaboration
11. The Rietveld method and fitting program RIETAN
12. Installation and initialization of a program
13. Pattern fitting
14. Parameter setting
15. Analysis procedure

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100%

Report 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特になし/There is no important notice.

履修上の注意 /Remarks

教科書を解説する形で授業を行うので、教科書を必ず準備し、内容を反復すること。(特に「粉末X線解析の実際」)
This class base on to the textbook., so each student has to bring the textbook and reference, and to prepare for attending each class.
英語クラス・日本語クラスは隔年対応。2022年度は英語クラスが開講される。
English classes and Japanese classes are available every other year. English classes will be offered in FY 2022.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

X線回折の理解には結晶構造の分類と対称操作の理解が必要です。大変分かりにくい部分ですが、ゆっくりと自分の手でいくつかの対称操作法を分類してみることで、回折と構造解析の理解を深めましょう。
Understanding X-ray diffraction requires an understanding of the classification of crystal structures and symmetric operations. This is a very difficult area to understand, but we will slowly try to classify some symmetry operations by ourselves to deepen our understanding of diffraction and structure analysis.

キーワード /Keywords

X-ray diffraction, crystal structures, symmetric operations

○分離精製工学

(Separation and Purification Engineering)

担当者名 /Instructor 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM564S	◎	○	
科目名	分離精製工学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

物質の分離精製は、高度な化学産業を支えるための重要な技術の一つである。本講義では分離操作の中でも、湿式精錬に関する技術について、特にイオン交換法と溶媒抽出法を取り上げ、基礎から実プロセスまでを講義する。また、湿式精錬に関する最新の文献を調査・考察し、プレゼンテーションを行う。

【到達目標】

- ①物質の分離精製技術 / プロセスに関する専門的な知識を身につけている。
- ②物質の分離精製手法について、総合的に思考して解決策を探求し、専門的見地から発信することができる。

Separation and purification of materials are one of the important technologies in the chemical industries. In this lecture, hydrometallurgical technology and process, especially ion exchange and solvent extraction, are introduced. The review of the latest literature related to the hydrometallurgy is also given.

[Attainment goal]

- (1) Obtaining professional knowledge for separation and purification technologies and processes of materials.
- (2) Obtaining abilities to think comprehensively and to offer solution from professional point of view for the separation and purification methods of materials.

教科書 /Textbooks

講義中に指示する。
Textbooks are shown in the class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。
References are shown in the class.

○分離精製工学

(Separation and Purification Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 湿式精錬プロセスの概要
 2. イオン交換法の概略
 3. イオン交換樹脂
 4. 抽出剤含浸樹脂
 5. クロマト分離
 6. イオン交換法の水処理への適用
 7. イオン交換法の湿式精錬への適用
 8. イオン交換法に関する文献レビュー
 9. 溶媒抽出法の概略
 10. 湿式精錬に用いられる抽出剤
 11. スロープアナリシス法
 12. ミキサーセトラ
 13. 化学反応を組み込んだ溶媒抽出法
 14. 溶媒抽出法の湿式精錬への適用
 15. 溶媒抽出法に関する文献レビュー
-
1. Outline of hydrometallurgical process
 2. Outline of ion exchange
 3. Ion exchangers
 4. Solvent impregnated resins
 5. Chromatographic separation
 6. Application of ion exchange to water treatment
 7. Application of ion exchange to hydrometallurgy
 8. Literature review related to ion exchange
 9. Outline of solvent extraction
 10. Extractants for hydrometallurgy
 11. Slope analysis method
 12. Mixer-settler cascade
 13. Solvent extraction combined with chemical reaction
 14. Application of solvent extraction to hydrometallurgy
 15. Literature review related to solvent extraction

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
プレゼンテーション 40%
Excercise 60%
Presentation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容について、復習を行うこと。
Content shown in every class should be reviewed.

履修上の注意 /Remarks

化学工学の基礎知識を有していることが望ましい。
Knowledge of chemical engineering does be required.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○固体材料化学

(Solid State Materials Chemistry)

担当者名 /Instructor 黎 晓紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM532S	◎	○	
科目名	固体材料化学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

基礎の固体化学あるいは材料の化学であることを目指す。結晶化学に基づく「構造」、無機・物理化学に基づく「物性」、および物理化学で取り扱われる化学反応など知識から、無機物質を中心とした固体材料を化学的側面から説明することを到達目標とする。最後に機器分析で取り扱う構造と物性の関係などを学ぶ。

This course provides fundamentals of solid-state chemistry and materials chemistry. Students can learn the chemical aspects of inorganic solid materials, based on structure of crystal chemistry, physicality of chemistry, and chemical reactions in physicochemistry. The structure-physicality relationship will be revealed by instrumental analyses.

到達目標

結晶化学に基づく「構造」、無機・物理化学に基づく「物性」、などの知識を修得する。
分子・結晶の対称要素、対称操作を学ぶ、空間構造の理解力を身につける。

Achievement goal:

Acquire knowledge of "structure" based on crystal chemistry, "physical properties" based on inorganic chemistry and physical chemistry, etc. To learn symmetry elements and symmetry operations of molecules and crystals, and to acquire the ability to understand spatial structures.

教科書 /Textbooks

固体化学、L.Smart・ E. Moore著、化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

固体化学の基礎、S. E. Dann著、化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 結晶構造入門/ Introduction to Crystal Structures
- 2 最密充填/ Close-Packing
- 3 対称性-1/ Symmetry-1
- 4 対称性-2/ Symmetry-2
- 5 点群/ Point Groups
- 6 極性分子、キラル分子/ Polar Molecules and Chiral Molecules
- 7 結晶の対称性/ Crystal Symmetry
- 8 ミラ指数/ Miller Indices
- 9 空間群/ Space Groups
- 10 イオン結合結晶/ Ionic Crystals
- 11 共有結合結晶/ Covalent Crystal
- 12 X線回折法/ X-ray Diffraction Analysis
- 13 固体材料の合成/ Synthesis of Solid Materials
- 14 固体の化学結合と電子物性/ Bonding and Electronic Properties of Solids
- 15 超伝導体/ Superconductor

○固体材料化学

(Solid State Materials Chemistry)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート/report 50%
プレゼンテーション/presentation 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書/Textbooks

履修上の注意 /Remarks

電卓を持参のこと
Bring a calculator.
量子化学、無機化学で学んだ知識を復習しておくこと。
Review the knowledge of quantum chemistry and inorganic chemistry.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○プロセス設計学

(Process Design)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM563S	◎	○	
科目名	プロセス設計学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

化学反応器やバイオリアクターで物質生産を行う場合、反応プロセスと分離プロセスの効率化と共に、各プロセスの組み合わせの最適化が必要である。特に、生産物の反応媒体中や副生成物からの分離プロセスは、全プロセスコストの2/3以上を占め、分離要素技術の適切な選択と高効率化が生産プロセスの実用化のカギとなる。本講義では、化学反応と生物反応プロセスおよび分離プロセスについて概観するとともに、反応プロセスと分離プロセスに用いられる要素技術の種類と操作法およびその応用分野について解説する。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 化学反応プロセスと分離プロセスに関する知識を修得する。
- ・ 生産システムである反応プロセスと分離プロセスの個々の問題点及び連携することで生じる問題点を捉え、解決法を生み出す論理的思考力を修得する。

For production with chemical reactor and bio-reactor, The combination of each chemical process is mostly important, together with optimization of reaction process and separation processes. Since the cost of the total separation processes are occupied 2/3 in whole production processes, the choices of optimal separation processes as well as their efficiency improvement are the most important key factors. In this lecture, the overview of reaction and separation processes is mentioned, together with elemental technologies and their application fields.

Goals are as follows:

- ・ Acquisition of the chemical processes and separation processes
- ・ Acquisition of logical thinking ability to grasp individual problems of reaction processes and separation processes

教科書 /Textbooks

特になし / N.A.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。 / Appropriate materials are introduced during a lecture.

○プロセス設計学

(Process Design)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 プロセス設計概論 / Overview of process design
- 2 管内流動 / Fluid dynamics
- 3 伝熱 / Heat transfer
- 4 物質収支と熱収支 / Mass balance and heat balance
- 5 反応プロセス概論 / Overview of reaction process
- 6 反応工学 / Reaction engineering
- 7 分離プロセス概論 / Overview of separation process
- 8 蒸留 / Distillation
- 9 抽出 / Extraction
- 10 イオン交換と吸着 / Ion exchange and adsorption
- 11 膜分離 / Membrane separation
- 12 生産プロセス概論 / Overview of production process
- 13 様々な生産プロセス / Topics on production processes
- 14 エンジニアリングマネジメント / Engineering management
- 15 まとめ / Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート/report : 50%
プレゼンテーション / Presentation : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義での学習内容について課題・演習を通して理解を深めること。 / To deepen your understanding through the subjects and exercises about the contents in the lecture.

履修上の注意 /Remarks

講義は資料などのプリントを配布して行う。 / The materials are hand out by printed matters.
講義に出席する準備をしておくこと。 / Prepare for attending every classes.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高効率な生産プロセスを構築するためには、適切な反応プロセスと分離プロセスの選択と共に、組み合わせの最適化が必要である。今後益々高度化する生産プロセスの最適設計に対応できる技術者となってほしい。 / To constructing the efficient production process, combination optimization is quite important, together with selection of proper reaction and separation processes. We wish to become you talented engineered to correspond with the suitable design of production process in future.

キーワード /Keywords

プロセス設計、単位操作、反応操作、分離操作 / Process design, Unit operation, Reaction engineering, Separation engineering

○先端材料システム

(Advanced Materials System)

担当者名 /Instructor 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM521S	◎	○	
科目名	先端材料システム		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

新たな材料の発見や開発により我々の生活様式も大きく変わっている。例えば、ナノテクノロジーやバイオテクノロジーなどこれまでの材料技術の根幹を革新する新しい技術の進歩が著しく、情報通信、エネルギー、環境、医療などの多方面に影響を及ぼしている。本講義の到達目標は、最近注目されている先端材料について、その特性や機能が分子または原子レベルでどのように発現できるのか、またその構造解析にどのような技術が使われているのかを理解することにある。本講義はそれについて概説する。

Our lifestyle has rapidly changed by the newly discovered and developed materials. The advancement of new technologies such as nanotechnology and biotechnology, which have changed the basis of conventional material technology, has influenced many fields such as telecommunication, energy, environment, and medicine. This lecture aims to understand recent topics regarding advanced materials, including characteristics and functions at atomic or molecular levels and their structural assessment.

到達目標

- ・ 先端材料システムを体系的かつ総合的に理解している。
- ・ 先端材料の必要性について、学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を明確に表現することができる。

Achievement goals

- ・ A systematic and comprehensive understanding of advanced material systems.
- ・ Being able to think scientifically about the need for advanced materials, seek solutions, and clearly express one's thoughts and judgments.

教科書 /Textbooks

特に指定せず、講義の都度資料を配付する。
Special textbooks are not used. Instead, materials for the lecture are handed out when they are needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。
References will be properly introduced during the lecture.

○先端材料システム

(Advanced Materials System)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 先端材料システムの概論
 - 2 材料化学の現状と展望
 - 3 先端材料とは？
 - 4 先端材料の歴史
 - 5 先端材料の分類：大きさと機能
 - 6 先端材料の分類と特性：分子認識
 - 7 先端材料の分類と特性：超分子化学
 - 8 中間のまとめ
 - 9 先端材料分析：表面分析
 - 10 先端材料分析：ナノ構造
 - 11 先端材料評価：機能
 - 12 先端材料評価：構造
 - 13 先端材料の応用：分子情報
 - 14 先端材料の応用：情報処理
 - 15 まとめ
-
- 1 Introduction of the class
 - 2 Current status and future of materials chemistry
 - 3 What are advanced materials?
 - 4 History of advanced materials
 - 5 Classification and characteristics of advanced materials: Size and function
 - 6 Classification and characteristics of advanced materials: Molecular recognition
 - 7 Classification and characteristics of advanced materials: Supramolecular chemistry
 - 8 Intermediate summary
 - 9 Analysis of advanced materials: Surface assessment
 - 10 Analysis of advanced materials: Nanostructure
 - 11 Evaluation of advanced materials: Functions
 - 12 Evaluation of advanced materials: Structures
 - 13 Application of advanced materials: Molecular information
 - 14 Application of advanced materials: Information processing
 - 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

課題発表/Presentation 70%
レポート/Report 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
Search for contents related to the lecture of the day and review the lecture on that day.

履修上の注意 /Remarks

英文資料をよく使います。文献調査や発表も講義範囲に入るので、講義前に準備をしておくこと。
This lecture often uses English materials and includes reference search and presentation.
SEM, TEM, SPM, XPSなどの先端分析技術の概説を伴います。興味があれば、分析センターにて実物を確認すること。
This lecture also outlines analytical equipment such as SEM, TEM, SPM, and XPS. Please confirm them at the instrumental center if you have an interest.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新しい材料の開発や機能創出には、適切な材料設計法の工夫が必要です。分子設計に基づく材料開発やその計測方法の基礎を学ぶことが本授業の狙いです。
This class aims to learn the basics of design and analysis methods of nanomaterials at the molecular level.

キーワード /Keywords

先端材料、材料の分類と特性、分析技術
Advanced materials, Classification and characteristics of materials, Analytical techniques

○高分子材料化学

(Polymer Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM522S	◎	○	
科目名	高分子材料化学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、先端機能材料創製のための高分子の物性、分析手法の基礎および最先端技術について解説する。

到達目標

- (1) 高分子の合成、物性に関する知識を修得する。
- (2) 複雑な問題の本質を理解し、論理的思考に基づいて問題を解決する能力を修得する。

This lecture explains an fundamental and advanced polymer syntheses, reactions and properties.

The target of this lecture is as follows.

- (1) Understanding about configurational statistics of chain molecules
- (2) Understanding about solution and solid properties of polymers, and their origins
- (3) Understanding about principles of instrumentation for characterization

Achievement goals

- (1) To acquire knowledge on polymer synthesis and physical properties.
- (2) To understand the essence of complex problems and to acquire the ability to solve problems based on logical thinking.

教科書 /Textbooks

指定しない

Nothing in particular

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高分子学会編 高分子科学の基礎 (東京化学同人)

Society of Polymer Science Japan ed. Fundamental Polymer Science (Tokyo Kagaku Dojin)

○高分子材料化学

(Polymer Chemistry)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 高分子の化学構造
- 2 分子量と分子量分布
- 3 孤立鎖の広がり
- 4 ガウス鎖
- 5 格子理論
- 6 浸透圧・蒸気圧
- 7 相平衡
- 8 光散乱
- 9 溶液粘度
- 10 X線散乱
- 11 高分子固体の構造
- 12 高分子の結晶化
- 13 静的粘弾性
- 14 動的粘弾性
- 15 ゴム弾性

- 1 Chemical Structures of Polymers
- 2 Molecular Weight and Molecular Weight Distribution
- 3 Statistic Properties of Isolated Polymer Chain
- 4 Gaussian Chain
- 5 Lattice Theory
- 6 Osmotic Pressure, Vapor Pressure
- 7 Phase Equilibrium
- 8 Light Scattering
- 9 Viscosity of Polymer Solution
- 10 X-ray Scattering
- 11 Solid State Structure of Polymers
- 12 Crystallization of Polymers
- 13 Static Viscoelasticity
- 14 Dynamic Viscoelasticity
- 15 Rubber Elasticity

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートのみで評価 100%
Report 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書等を用いて、高分子物性全般について学習しておくこと。
統計熱力学を良く復習しておくこと。
統計や波などで良く用いられる数学を復習しておくこと。

Prepare polymer physics using appropriate reference books.
Review statistical thermodynamics.
Review mathematics used in statics and physics of waves.

履修上の注意 /Remarks

自主学習を通じて、講義に出席する準備をしておくこと。
Prepare for attending every classes by studies by yourself.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は対面とオンライン(オンデマンド)の併用で行います。
Lectures will be given both face-to-face and online (on-demand).

キーワード /Keywords

資源化学システム特論I

(Advanced Resources Chemical System I)

担当者名 /Instructor ○資源化学システムコース長、林(大矢)、武井(西浜)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM504S		◎	○	○
科目名	資源化学システム特論I		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連	

授業の概要 /Course Description

化学プロセスおよび資源システムに関する専門的な学術、最先端の技術を学ぶことを到達目標とする。本コース専任教員と学外非常勤講師でテーマを2つ設定し、その分野での基礎理論から応用技術までを習得する。
This lecture aims to learn advanced science and engineering in chemical processes and resource systems.

到達目標

- ・ 資源化学システムを体系的かつ総合的に理解している。
- ・ 化学と環境科学について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。
- ・ 資源化学への関心とキャリア意識を持ち続け、未来産業に貢献できる姿勢を身につけている。

Achievement goals

- ・ A systematic and comprehensive understanding of the resource chemistry system.
- ・ Be able to think comprehensively and logically about chemistry and environmental science, seek solutions, and clearly express one's thoughts and opinions from a professional standpoint.
- ・ Continue to have an interest in resource chemistry and a career consciousness and acquire an attitude that can contribute to future industries.

教科書 /Textbooks

指定なし/Unspecified

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて配布
Distributed as necessary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス(研究倫理を含む) (コース長) / Guidance (Including research ethics)
- 2 招聘教員① 講義 1 化学プロセス工学/ Lecture by Invited Lecturer 1 1 (Chemical Process Engineering)
- 3 非常勤講師① 集中講義 1 化学プロセス工学/ Intensive Lecture 1 1 (Chemical Process Engineering)
- 4 非常勤講師① 集中講義 2 化学プロセス工学/ Intensive Lecture 1 2 (Chemical Process Engineering)
- 5 非常勤講師① 集中講義 3 化学プロセス工学/ Intensive Lecture 1 3 (Chemical Process Engineering)
- 6 招聘教員① 講義 2 化学プロセス工学/ Lecture by Invited Lecturer 1 2 (Chemical Process Engineering)
- 7 演習・課題①/ Exercise 1
- 8 招聘教員② 講義 1 環境資源工学/ Lecture by Invited Lecturer 2 1 (Environmental Resources Engineering)
- 9 非常勤講師② 集中講義 1 環境資源工学/ Intensive Lecture 2 1 (Environmental Resources Engineering)
- 10 非常勤講師② 集中講義 2 環境資源工学/ Intensive Lecture 2 2 (Environmental Resources Engineering)
- 11 非常勤講師② 集中講義 3 環境資源工学/ Intensive Lecture 2 3 (Environmental Resources Engineering)
- 12 招聘教員② 講義 2 環境資源工学/ Lecture by Invited Lecturer 2 2 (Environmental Resources Engineering)
- 13 演習・課題②/ Exercise 2
- 14 レポート作成/ Report Preparation
- 15 総括/ Summary

資源化学システム特論I

(Advanced Resources Chemical System I)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・レポート 100%
Report 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予定された講義内容を事前に調べ、講義後は復習を十分に行うこと
Please search for the related contents of the scheduled lecture and thoroughly review it after the lecture.

履修上の注意 /Remarks

特になし
Nothing in particular

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学プロセスおよび資源システムに関する専門的な学術、最先端の技術を多彩な講師陣から積極的に吸収しよう。
Learn advanced science and technology in chemical processes and resource systems.

キーワード /Keywords

化学プロセス工学、環境資源工学
Chemical process engineering, Environmental resources engineering

資源化学システム特論II

(Advanced Resources Chemical System II)

担当者名 /Instructor ○資源化学システムコース長、西村(秋葉)、永禮(安井)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM505S		◎	○	○
科目名	資源化学システム特論II		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連	

授業の概要 /Course Description

化学プロセスおよび資源システムに関する専門的な学術、最先端の技術を学ぶことを到達目標とする。本コース専任教員と学外非常勤講師でテーマを2つ設定し、その分野での基礎理論から応用技術までを習得する。
This lecture aims to learn advanced science and engineering in chemical processes and resource systems.

到達目標

- ・ 資源化学システムを体系的かつ総合的に理解している。
- ・ 化学と環境科学について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。
- ・ 資源化学への関心とキャリア意識を持ち続け、未来産業に貢献できる姿勢を身につけている。

Achievement goals

- ・ A systematic and comprehensive understanding of the resource chemistry system.
- ・ Be able to think comprehensively and logically about chemistry and environmental science, seek solutions, and clearly express one's thoughts and opinions from a professional standpoint.
- ・ Continue to have an interest in resource chemistry and a career consciousness and acquire an attitude that can contribute to future industries.

教科書 /Textbooks

指定なし/Unspecified

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて配布
Distributed as necessary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス(研究倫理を含む) (コース長) / Guidance (Including research ethics)
- 2 招聘教員① 講義 1 化学プロセス工学/ Lecture by Invited Lecturer 1 1 (Chemical Process Engineering)
- 3 非常勤講師① 集中講義 1 化学プロセス工学/ Intensive Lecture 1 1 (Chemical Process Engineering)
- 4 非常勤講師① 集中講義 2 化学プロセス工学/ Intensive Lecture 1 2 (Chemical Process Engineering)
- 5 非常勤講師① 集中講義 3 化学プロセス工学/ Intensive Lecture 1 3 (Chemical Process Engineering)
- 6 招聘教員① 講義 2 化学プロセス工学/ Lecture by Invited Lecturer 1 2 (Chemical Process Engineering)
- 7 演習・課題①/ Exercise 1
- 8 招聘教員② 講義 1 環境資源工学/ Lecture by Invited Lecturer 2 1 (Environmental Resources Engineering)
- 9 非常勤講師② 集中講義 1 環境資源工学/ Intensive Lecture 2 1 (Environmental Resources Engineering)
- 10 非常勤講師② 集中講義 2 環境資源工学/ Intensive Lecture 2 2 (Environmental Resources Engineering)
- 11 非常勤講師② 集中講義 3 環境資源工学/ Intensive Lecture 2 3 (Environmental Resources Engineering)
- 12 招聘教員② 講義 2 環境資源工学/ Lecture by Invited Lecturer 2 2 (Environmental Resources Engineering)
- 13 演習・課題②/ Exercise 2
- 14 レポート作成/ Report Preparation
- 15 まとめ/ Summary

資源化学システム特論II

(Advanced Resources Chemical System II)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・レポート 100%
Report 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予定された講義内容を事前に調べ、講義後は復習を十分に行うこと
Please search for the related contents of the scheduled lecture and thoroughly review it after the lecture.

履修上の注意 /Remarks

特になし
Nothing in particular

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学プロセスおよび資源システムに関する専門的な学術、最先端の技術を多彩な講師陣から積極的に吸収しよう。
Learn advanced science and technology in chemical processes and resource systems.

キーワード /Keywords

化学プロセス工学、環境資源工学
Chemical process engineering, Environmental resources engineering

○環境化学

(Environmental Chemistry)

担当者名 /Instructor 宮脇 崇 / Takashi MIYAWAKI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM501S	◎	○	
科目名	環境化学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

環境データは環境の安全性を評価し、現状と将来を予測する上で必須のものである。本授業では、環境中の有害化学物質分析に関する手法・技術及び知識を習得する。到達目標は、次の通りである。

- ・ サンプリング及び試料の前処理に関する手法・技術や知識を習得し、簡単な分析法を組み立てられる。
- ・ 機器分析の理論、特徴および使用法を学び、対象物質に適した機器を選定できる。
- ・ 分析精度管理を学び、分析値の評価ができる。

Environmental data is essential for evaluating environmental safety and predicting current and future status. Students will study knowledge and methods related to micro-pollutant analysis of environmental samples. The final goals of this subject are as follows; (1) development of simple analytical methods through learning methods and knowledge of sampling and pretreatment, (2) selection of a suitable analytical instrument for targets by learning theory and feature of various instruments, and (3) evaluation of analytical results through learning analytical quality control and quality assurance (QC/QA).

到達目標：

環境中の微量化学物質分析に用いられる分析手法と分析装置の原理、働き、特徴、及び精度管理に関する専門的な知識を理解している。習得した知識を活用して、最も適切な対象物質の分析法を考案し、その理由を分かり易く説明することができる。

Goal:

To understand professional information about principles, function, characteristic and quality control of analytical methods and equipment for trace chemical analysis in environments.

To achieve the skill to consider the best method to analyze target materials and to explain the reason.

教科書 /Textbooks

適宜配布 Distribution of an original textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示 Suggestion of suitable references

○環境化学

(Environmental Chemistry)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 化学物質の環境汚染 (概論)
- 2 化学物質の環境動態 (概論)
- 3 環境試料の採取方法・調査計画
- 4 水質試料の前処理
- 5 土壌・底質試料の前処理
- 6 大気・生物試料の前処理
- 7 クリーンアップ法 (カラムクリーンアップ)
- 8 ガスクロマトグラフィー (原理, カラム)
- 9 ガスクロマトグラフィー質量分析法(GC-MS)
- 10 液体クロマトグラフィー
- 11 液体クロマトグラフィー質量分析法(LC-MS)
- 12 分析精度管理
- 13 演習 (プレゼンテーション前半)
- 14 演習 (プレゼンテーション後半)
- 15 まとめ

- 1 Introduction to environmental pollution of chemicals
- 2 Introduction to environmental fate of chemicals
- 3 Environmental sampling・ Survey plan
- 4 Extraction of water samples
- 5 Extraction of soil and sediment samples
- 6 Extraction of air and biological samples
- 7 Clean-up procedures (Column chromatography)
- 8 Gas chromatography
- 9 Gas chromatography-Mass spectrometry
- 10 High performance liquid chromatography
- 11 Liquid chromatography-Mass spectrometry
- 12 Quality control/quality assurance
- 13 Practice (The first half of presentation)
- 14 Practice (The latter half of presentation)
- 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度・質疑 25%
 プレゼンテーション 50%
 レポート 25%
 Positive participation, question 25%
 Oral Presentation 50%
 Final report 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各講義時に配布するテキストを用いて予習・復習をしっかりと行うこと
 Students should prepare and review the lessons using the text distributed in each class.

履修上の注意 /Remarks

使用言語は、日本語・英語で隔年変更 (2022年度は英語)。演習では全員に化学物質分析法に関するプレゼンテーションを行ってもらおう。
 Official language for this subject changes every other year: Japanese and English. The year of 2022 is English. Students will make a presentation in the final class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学物質に限らず微量分析を行う時に役立つ知識や技術を学ぶことができる。それらの知識は、自分が分析する時だけでなく、他の分析者が出した測定値を評価する上でも有用である。
 In this class you can learn knowledge and techniques that are needed to analyse not only organic micro-pollutants but also other trace substances. These are useful not only when you analyse samples yourself but also to evaluate analytical results analysed by others.

キーワード /Keywords

○大気環境工学

(Air Pollution and Its Controlling Engineering)

担当者名 /Instructor 藍川 昌秀 / Masahide AIKAWA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM502S	◎	○	
科目名	大気環境工学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

近年、私たちを取り巻く大気に関する大陸規模での環境汚染（微小粒子状物質（PM2.5）などによる大気汚染や酸性雨問題等）が大きな問題となっています。この講義では、大気・大気科学・大気化学に関する幅広く専門的かつ応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけ、大気汚染・大気科学について、学際的・総合的・論理的に思考して課題を探究し、専門的見地から課題解決のための実験・結果の整理・解析・考察を論理的に行う能力の修得を目指します。

Continental scale environmental pollution such as particulate matter typically represented by PM2.5 and acid deposition issue recently have a great concern. In this class, we make it a goal to recognize, understand and obtain the followings; 1) the current status of air pollution issue and acid deposition issue, and 2) the physical and chemical mechanism to produce the issues from the viewpoint of emission, diffusion/transportation, chemical reaction, and deposition, 3) the comprehensive and logical understanding on air pollution and atmospheric sciences.

【到達目標（2019年入学者以降）】

- ①大気・大気科学・大気化学に関する幅広く専門的かつ応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- ②大気汚染・大気科学について、学際的・総合的・論理的に思考して課題を探究し、専門的見地から課題解決のための実験・結果の整理・解析・考察を論理的に行うことができる。

- ① To be able to systematically and comprehensively understand the atmosphere, atmospheric science and atmospheric chemistry
- ② To be able to logically and scientifically discuss/consider the air pollution, the atmospheric sciences and their experiments and results

教科書 /Textbooks

必要に応じて資料を配布
Hand out

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大気化学入門（東京大学出版会 D.J.ジェイコブ[著] 近藤豊[訳]）
Introduction to Atmospheric Chemistry (Princeton University Press, Daniel J. Jacob)

○大気環境工学

(Air Pollution and Its Controlling Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 大気科学の基礎概念 (単位)
 - 2 . 大気科学の基礎概念 (質量と気圧)
 - 3 . 地球大気の歴史・構造・組成
 - 4 . 濃度を支配する因子と数学的表現
 - 5 . 大気の輸送
 - 6 . 地球化学的物質循環
 - 7 . 日本・北九州市の大気環境
 - 8 . 化学反応速度論
 - 9 . 対流圏オゾンの起源と測定
 - 10 . オゾンの科学 (成層圏オゾン)
 - 11 . オゾンの科学 (対流圏オゾン)
 - 12 . 粒子状物質 (粒径と粒径分布)
 - 13 . 粒子状物質 (組成と生成過程)
 - 14 . 酸性雨の化学
 - 15 . 地球温暖化
-
- 1 . Basics of atmospheric science (Unit)
 - 2 . Basics of atmospheric science (Mass and Pressure)
 - 3 . History, structure and composition of earth's atmosphere
 - 4 . Parameters to control the concentration and its mathematical representation
 - 5 . Vertical and horizontal transportation of air
 - 6 . Geochemical cycle of elements
 - 7 . Current situation of air pollution of Japan and Kitakyushu
 - 8 . Kinetics of a chemical reaction
 - 9 . Origin and measurement on tropospheric ozone
 - 10 . Physics and chemistry of ozone (stratospheric ozone)
 - 11 . Physics and chemistry of ozone (tropospheric ozone)
 - 12 . Particulate matter (Particle size and distribution)
 - 13 . Particulate matter (Composition and formation process)
 - 14 . Chemistry on acid rain
 - 15 . Global warming

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート：100%
Report 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に次回講義の予習としての課題を出すので調べてくること
I give you homework on next lecture, so research on it.
2回 (前半及び後半) の内容をレポートとして提出すること
Submit reports twice (for first half and second half).

履修上の注意 /Remarks

日英隔年開講 (英語による受講希望者がいない場合は、英語開講年でも日本語で実施)
2022年度は日本語
Official language: Biennial lecture of English and Japanese; however Japanese lecture even in English year if no applicant for English
Japanese lecture in 2022

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自ら考え、積極的に取り組みましょう。
Learn on your own and think for yourself

キーワード /Keywords

大気環境、大気汚染物質、オゾン、粒子状物質、酸性沈着
Atmospheric environment, air pollutants, ozone, particulate matter, acid deposition

○資源循環技術

(Recycling Engineering)

担当者名 /Instructor 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
CHM561S	◎	○	
科目名	資源循環技術		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

学部で学んだ化学や生物学の基礎知識を基に、微生物による有機性廃棄物や排水汚濁物質の分解と資源生成の諸反応を理解する。講義では、持続可能な循環型社会の構築を目指した技術の変遷や公害問題の実例を紹介しながら、プロセスシミュレータ (GPS-X) を使って関連の生物学的処理プロセスの原理を学ぶ。これによって排水・有機性廃棄物の処理およびこれら二次的資源からの有価物回収に関わる一連の技術概要を理解するとともに、習得した知識を他の技術分野にも応用できる素地が得られることを到達目標とする。具体的には以下の能力を身につける。
生物学的排水処理における各種の反応・物質移動現象を工学的に表現する知識と技能
プロセスシミュレータを用いた生物学的排水処理の諸反応の算出

【到達目標】

生物学的排水処理における各種の反応・物質移動現象を工学的に表現する知識と技能を身につけている。
プロセスシミュレータを用いて生物学的排水処理の諸反応を算出できる。

The class approaches biological waste/wastewater treatment systems through chemistry, biology and mathematics. Since recycling engineering is an integration of environmental sciences and technologies with logical insights, state-of-the-art know-how obtained from the subject will strengthen your skills in this field. A process simulator for wastewater treatments (GPS-X) is used in the class. In this way engineering techniques to catch various kinds of biochemical/physical reactions engineering are incubated together with practical skills to use the commercial process simulator.

Goals

- Relevant technical skills and knowledges for biochemical reactions and material transfer phenomena on biological wastewater treatments.
- Skills to calculate biological/physical/chemical reactions using the process simulator.

教科書 /Textbooks

テキストを配布

Handout

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水質環境工学-下水の処理・処分・再利用(技報堂出版,1996), ○活性汚泥モデル(環境新聞社, 2005), ○メタン発酵(技報堂出版, 2009)

Wastewater Engineering (McGraw-Hill, 2003), ○Activated Sludge Models (IWA publishing, 2000), ○ADM1 (IWA publishing, 2002), Mathematical Modelling and Computer Simulation of Activated Sludge Systems (WA publishing, 2010)

○資源循環技術

(Recycling Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 汚濁物質除去概論
 - 2 微生物反応の概要 (物質収支)
 - 3 生物学的排水処理の構造モデル
 - 4 生物反応シミュレーション入門 (活性汚泥処理プロセスのレイアウト)
 - 5 データの入力と計算値の出力
 - 6 統計処理 (パラメータの最適化)
 - 7 好氣的生物処理プロセスの仕組み(1) (酸化と還元)
 - 8 コンピュータ実習(1) (活性汚泥処理プロセス)
 - 9 好氣的生物処理プロセスの仕組み2 (固液分離)
 - 10 コンピュータ実習(2) (最終沈澱池)
 - 11 微生物反応の概要 (増殖と死滅)
 - 12 コンピュータ実習(3) (栄養塩除去活性汚泥プロセス)
 - 13 嫌氣的生物処理プロセスの仕組み
 - 14 コンピュータ実習(4) (反応モデルの自作)
 - 15 コンピュータ実習(5) (自作モデルのシミュレーション)
-
- 1 Overview of environmental pollution
 - 2 Microbial reaction (material balance)
 - 3 Microbial reaction (structured-model concept)
 - 4 Introduction of computer simulation (creating layouts of activated sludge process)
 - 5 Creating data input and data output
 - 6 Statistical analysis (parameter optimisation)
 - 7 Aerobic processes (1) (energy from oxidation/reduction reactions)
 - 8 Computer simulation (1) (biomass growth and decay)
 - 9 Aerobic processes (2) (sludge settling)
 - 10 Computer simulation (2) (secondary settling tank)
 - 11 Microbial reaction (growth and decay)
 - 12 Computer simulation (3) (nutrient removal processes)
 - 13 Anaerobic processes (methane fermentation system)
 - 14 Computer simulation (4) (model development)
 - 15 Computer simulation (5) (model evaluation)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的態度 (予習・復習による理解度) 50%
 コンピュータ実習 (5回分) 50%

Active learning 50%
 Five sets of computer simulation 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習 : 配付資料を事前に熟読のこと
 復習 : プロセスシミュレータの操作を復習すること

Read and catch the composition of the text (handout) prior to your participation of the class.
 Be familiar with the process simulator. You can access the temporary licence even at your home.

履修上の注意 /Remarks

プロセスシミュレータを用いるので、高性能のノートブックコンピュータを持参すること(Windowsのみ)
 使用言語は英語とするが、英語による受講希望者がいなければ日本語でも開講する。
 プロセスシミュレータを用いるので、2コマ連続と週末の集中講義で短期に内容を習得する。

Prepare your own laptop computer to install the process simulator (Windows only).
 Official language : English unless specified.
 Two slots (3 hrs /week) x seven weeks plus 1.5 hrs (depending on circumstance we may switch the slots to intensive lessons (4 slots/day)).

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学・数学・生物学と化学工学の融合が環境エンジニアリングです。
 Enjoy Environmental Engineering and the process simulator.

キーワード /Keywords

化学工学、排水処理、微生物反応、物理化学反応
 Chemical engineering, microbial reaction, physicochemical reaction, wastewater engineering

○水圏環境工学

(Aquatic Environment Engineering)

担当者名 /Instructor 寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV505S	◎	○	
科目名	水圏環境工学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The hydraulic transport processes affecting water quality in ecosystem and engineered system are explained with modelling and data analysis. integrated. Integrated methods are also explained with hydraulics, aquatic chemistry, and aquatic biology.

本講義の到達目標は、人間活動に大きな影響を及ぼす水圏について、水の流れや水質の制御及び水圏保全に必要な知識の習得をすることである。特に、水の流動や移流プロセスについて学習することにより、水圏における化学的・生物学的現象の理解が深まる。

Goal:

- ・ Comprehensive and systematic understanding about conservation of aquatic environment.
- ・ Considering the solution for the problem of aquatic environment and expressing the own idea.

到達目標：

- ・ 水圏の環境の保全に関する知識を総合的かつ体系的に理解している。
- ・ 水圏環境の問題について、総合的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配布する。
Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。
References are introduced in lecture, if necessary.

○水圏環境工学

(Aquatic Environment Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction of Aquatic Environment Engineering
2. Organic wastewater treatment systems (1): fundamental
3. Organic wastewater treatment systems (2): application
4. Organic wastewater treatment systems with solid separation (1): fundamental
5. Organic wastewater treatment systems with solid separation (2): application
6. Flow pattern and residence time distribution (1): fundamental
7. Flow pattern and residence time distribution (2): application
8. Physical property of water (1): fundamental
9. Physical property of water (2): application
10. Inertial force and viscous force (1) : fundamental
11. Inertial force and viscous force (2) : standard
12. Inertial force and viscous force (3) : application
13. Hydraulic in the wastewater treatment system (1) : fundamental
14. Hydraulic in the wastewater treatment system (2) : standard
15. Hydraulic in the wastewater treatment system (3) : application

1. 導入・ガイダンス 水圏環境と排水処理
2. 水圏環境を守るための有機性排水処理プロセス (1): 基礎
3. 水圏環境を守るための有機性排水処理プロセス (2): 応用
4. 水圏環境を守るための固液分離のシステム (1): 基礎
5. 水圏環境を守るための固液分離のシステム (2): 応用
6. フローパターンと滞留時間分布 (1): 基礎
7. フローパターンと滞留時間分布 (2): 応用
8. 水の物理的性質 (1): 基礎
9. 水の物理的性質 (2): 応用
10. 水理学的挙動解析 慣性力と粘性力の影響(1) : 基礎
11. 水理学的挙動解析 慣性力と粘性力の影響(2) : 発展
12. 水理学的挙動解析 慣性力と粘性力の影響(3) : 応用
13. 水圏環境装置内の水理学的挙動解析(1) : 基礎
14. 水圏環境装置内の水理学的挙動解析(2) : 発展
15. 水圏環境装置内の水理学的挙動解析(3) : 応用

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100%

Report 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習および事後学習について授業中に示される。

The preparation and review tasks will be shown in the class.

履修上の注意 /Remarks

物理学と数学の基本知識を習得しておくこと

Fundamental knowledge of physics and mathematics are essential.

使用言語

2022年度は英語と日本語

Official languages are English and Japanese in 2022.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

水環境保全や水処理技術に興味のある学生は是非受講してください。

Incorporate skills for water environment protection from engineering point of view.

キーワード /Keywords

○地圏環境修復

(Soil and Groundwater Remediation)

担当者名 /Instructor 伊藤 洋 / ITO You / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV503S	◎	○	
科目名	地圏環境修復		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

土壤環境における人為的な行為による影響、特に重金属や揮発性有機化合物による汚染と人間・社会への影響との関わりから、地圏環境問題への対応のあり方、土壤環境修復手法やリスクマネジメントについてより高度に理解できるように学習する。土壤環境保全のための法律、浄化、リスク対応ができる基礎力を養う。

授業は、遠隔授業（オンデマンド方式-Moodle）で実施する。通信環境の指定は特になし。moodleにアクセス可能で動画視聴可能な回線であること。

In this program, students will learn about the current state of artificially polluted soil in Japan and the techniques used for soil treatment. First, the background and the law associated with soil contamination will be introduced, and the theory of transport processes of soil contaminants will be explained. Thereafter, various techniques used for the treatment of soil polluted by heavy metals and VOCs will be presented to the students. Finally, risk management of the private enterprise that owns the soil pollution land will be discussed. The performance target of this lecture is to be able to explain about the outline of the current state, the risk management and the treatment method of the contaminated soil in Japan.

This class is carried out by a remote method(On-demand method;Moodle).No specific communication environment is required, but you must have access to moodle and be able to watch videos.

到達目標

汚染土壤の浄化技術に関する専門的な知識を身につけること

土壤汚染について総合的に思考して解決策を探求し、自分の考えを適切な方法で表現することができること

achievement goal

Acquire specialized knowledge of remediation technologies for contaminated soil.

To be able to think comprehensively about soil contamination, explore solutions, and express one's ideas in an appropriate manner.

教科書 /Textbooks

特になし
None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし
None

○地圏環境修復

(Soil and Groundwater Remediation)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 はじめに
- 2 土壌汚染の背景：定義・現状・原因
- 3 土壌汚染物質の分類
- 4 汚染物質の輸送過程
- 5 小テスト
- 6 土壌汚染浄化へのアプローチ
- 7 重金属汚染土壌の浄化
- 8 揮発性有機化合物汚染土壌の浄化
- 9 油汚染土壌の浄化
- 10 リスクマネジメント：企業リスク
- 11 リスクマネジメント：事例演習
- 12 事例演習（プレゼン事例紹介）
- 13 事例演習（プレゼン資料作成）
- 14 事例演習（プレゼン資料作成）
- 15 小テスト

- 1 Introduction
- 2 Background of soil contamination
- 3 Classification of soil contaminants
- 4 Transportation process of contaminants in soil
- 5 Short test
- 6 Approach to measure methods of contaminated soil
- 7 Treatment of heavy metal pollution soil
- 8 Treatment of VOCs pollution soil
- 9 Treatment of oil pollution soil
- 10 Risk management (enterprise risk)
- 11 Risk management (case study)
- 12 Case study
- 13 Case study
- 14 Case study
- 15 Short test

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト60%
レポート・演習 40%
Mini quizzes 60%
Presentation 40% (Case study)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、授業内容の復習を行うこと。
Read useful books to understand the course and review the course content.

履修上の注意 /Remarks

使用言語（日本語）
Official language for this subject:Japanese, Guest lecturers would teach risk management sessions and case study in Japanese., English text if necessary.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

土壌汚染問題は、環境問題のみならず昨今の土地取引においては必須の要素となりつつある。これまでに土壌物理学・地下水理学に関する講義を履修してこなかった学生に対してもある程度理解できるように平易に解説を行う。基礎から応用，実学まで学ぶ。

Soil pollution is not only an important environmental concern but also a hindrance in real estate transactions. The participating students will learn about soil pollution from the basics of the problem to its effects on actual business.

キーワード /Keywords

○リサイクル工学

(Recycling-System Engineering)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 /Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV504S	◎	○	
科目名	リサイクル工学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

循環型社会構築を目指して、金属やプラスチックなどの回収を目的としたリサイクル技術を紹介し工学的な側面からの解説を行う。講義は、各受講者が調査、発表する参加型で行う。また、レアメタル、貴金属回収などトピック的にリサイクル事例を紹介する。循環型社会構築の理解を深めることを達成目標とする。

The recycling technologies are introduced and their principles are explained in the view of engineering. The actual recycling process is introduced such as rare metal and precious metal recycling. The understanding of the recycling oriented society is the target.

【到達目標】

- ・ リサイクル分野での非常に高度な知識を身につけている。
- ・ リサイクル分野での知識をもとにした高度な問題解決能力を身につけている。

【Achievement Goals】

- ・ Acquire very high level of knowledge in the recycling field.
- ・ Acquire problem-solving skills based on knowledge in the recycling field.

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する

Study materials are distributed on a necessity basis at each lecture

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

nothing

○リサイクル工学

(Recycling-System Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 リサイクルの概要
 - 2 リサイクルの考え方
 - 3 前処理としての粉碎技術1(破碎)
 - 4 前処理としての粉碎技術2(粉碎)
 - 5 物理的分離技術1(ソーティング)
 - 6 物理的分離技術2(比重)
 - 7 物理的分離技術3(磁気)
 - 8 物理的分離技術4(電気)
 - 9 精製技術1(鉄)
 - 10 精製技術2(アルミニウム)
 - 11 精製技術3(銅)
 - 12 リサイクル技術紹介1(自動車)
 - 13 リサイクル技術紹介2(家電)
 - 14 リサイクル技術紹介3(包装容器)
 - 15 まとめ
-
- 1 Overview of recycling
 - 2 Idea of recycling
 - 3 size reduction as a pre-treatment 1(crushing)
 - 4 size reduction as a pre-treatment 2(grinding)
 - 5 Separation technology1(sorting)
 - 6 Separation technology2(gravity)
 - 7 Separation technology3(magnetic)
 - 8 Separation technology4(electric)
 - 9 Refinement technology1(iron)
 - 10 Refinement technology2(aluminum)
 - 11 Refinement technology3(copper)
 - 12 Introduction of recycling process1(automobile)
 - 13 Introduction of recycling process2(electric appliance)
 - 14 Introduction of recycling process3(package)
 - 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 100%

Active learning 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示

The preparation and review will be shown in the class.

履修上の注意 /Remarks

予習と復習は教員の指示に従うこと。

Ways of the preparation and review for the class are suggested from the teacher.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義はその大半を参加者自らが最新情報を調べ、発表、討議することで行う。

The participant will search, present and discuss the recent technology and information in the majority of the lectures.

キーワード /Keywords

○環境生物学

(Environmental Biology)

担当者名 /Instructor 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0521S	◎	○	○
科目名	環境生物学		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、岩石圏—水圏—大気圏—生物圏の相互作用に関する包括的理解力を養うことを目的とし、地球生命圏の分布、構成、物質循環、気候変動との関係性について概説する。特に海洋環境における自然生態系の基本的なシステムについて説明する。各環境に生息する生物群集の特性、定量的評価手法、物理化学環境の変化が生物種、個体・個体群へ与える影響の把握などについて理解し、環境と生物の関わりに関する知識を習得することを目指す。なお、本講義の到達目標は以下の通りである。環境と生物の関わりを理解するために必要な基礎的かつ専門的知識を身につけている。環境と生物の関わりから発生するさまざまな問題の要因について、生物地球化学の見地から分析・評価することができる。生命と地球環境を配慮しつつ、地球規模の諸問題について取り組む姿勢を身につけている。

The aim of this lecture is to have a comprehensive understanding of the dynamics and the interactions between geosphere, hydrosphere, atmosphere and biosphere. The other topics are related with the distribution and composition of life on this planet, the global biogeochemical cycles and the relationship between global climate change and the biological activity. In this lecture, students will acquire practical knowledge of the natural ecosystem in marine environment, and learn about the global problems including natural conservation, global warming, eutrophication, environmental pollution, and energy issues.

教科書 /Textbooks

講義資料を配付

Handouts will be distributed in the lecture.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義資料を配付

Handouts will be distributed in the lecture.

○環境生物学

(Environmental Biology)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1はじめに
2非生物的環境
3光合成
4植物プランクトン
5動物プランクトン, ネクトン, ベントス
6生物地球化学的物質循環
7海洋微生物
8プレゼン課題
9メタン生成
10メタン酸化
11極限環境生物
12深海熱水
13地下生命圏
14環境修復
15宇宙生物学

1Overview of environmental biology
2Physical and chemical factors
3Photosynthesis
4Phytoplankton
5Zooplankton , nekton and benthos
6Biogeochemical cycles
7Marine microbiology
8Oral presentation
9Methane source
10Methane sink
11Life in extreme environment
12Hydrothermal vent
13Deep subsurface biosphere
14Bioremediation
15Astrobiology

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
レポート 50%
プレゼン課題 30%

Active participation to the class 20%
Report 50%
Oral presentation 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前と講義後には、配布資料や参考文献を熟読しておいてください。
Students are recommended to peruse the distributed materials before/after the class.

履修上の注意 /Remarks

履修者は微生物学と生態学の基礎知識を身につけておく必要があります。
Fundamental knowledge of microbiology and ecology is required.

英語を希望する者が多数とならない限り、主な使用言語は日本語とします。
Japanese will be mainly used for this class unless half of the participants prefer English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○高分子物性論

(Introduction to Polymer Physics)

担当者名 /Instructor 望月 慎一 / Shinichi MOCHIZUKI / 環境生命工学科 (19~), 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 履修希望者は事前に担当教員へ相談すること。/Please contact the instructor before registration. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0531S	◎	○	○
科目名	高分子物性論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

生体高分子や環境材料の研究に不可欠な高分子物性に関して学ぶ。

To conduct research on biopolymers and environmental materials, understanding physical properties of polymers is extremely important. This lecture explains physical properties of polymers.

到達目標は以下のとおりである。

* 企業で必要な高分子の物性の基礎について、分子量、結晶化、レオロジー、散乱に関して理解をする。

Studying the several basic knowledge required in industrial field such as molecular distribution, crystallization, scattering, and rheology.

教科書 /Textbooks

基礎高分子科学 (高分子学会/編) ISBN 978-4-8079-0635-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「高分子の物理学」田中文彦著 (裳華房) /Introduction to Polymer Physics (F. Tanaka) ISBN 978-4-7853-2056-0

○高分子物性論

(Introduction to Polymer Physics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 高分子とは
- 2 分子鎖の形態
- 3 高分子のコンフィギュレーション
- 4 高分子のコンフォメーション
- 5 結晶化状態
- 6 一次結晶化
- 7 二次結晶化
- 8 エントロピー弾性力
- 9 粘弾性
- 10 誘電性
- 11 界面物性
- 12 高分子と散乱 I【コロイド】
- 13 高分子と散乱 II【光散乱】
- 14 高分子と散乱 III【分子量】
- 15 まとめ

- 1 What is the Polymer
- 2 Single Chain Conformations
- 3 Configurations of Polymers
- 4 Conformations of Polymers
- 5 Crystalline State
- 6 Primary Crystallization
- 7 Secondary Crystallization
- 8 Rubber Elasticity
- 9 Viscoelasticity
- 10 Dielectric Property
- 11 Interfacial Property
- 12 Polymer and Scattering I【Colloid】
- 13 Polymer and Scattering II【Light scattering method】
- 14 Polymer and Scattering III【Molecular weight】
- 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100%
Report 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習を十分に行うこと
Good preparations for classes and reviews after classes will enhance your performance.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○計算化学

(Computational Chemistry)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0532S	◎	○	○
科目名	計算化学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

化学の諸現象を理解するためのツールとして、ますますその威力を発揮している計算化学について学ぶ。代表的な計算化学パッケージである「Gaussian 09」を使用して、その具体的な利用方法（構造最適化、振動数計算、理論的方法の正しい選択など）を習得し、量子化学に基づく基礎理論を理解する。

Computational chemistry is a powerful tool that can provide increased insight and understanding of many complex topics. The rapid advances in computer hardware and software for computational chemistry over the last decade allow meaningful chemistry calculations to be performed on standard desktop computers. This lecture focuses on how we utilize the advantage of molecular modeling and related computational techniques to prepare the functional materials.

到達目標は以下の通りである。

- (1) 高度な専門的知識・技能：計算化学に関する専門的な知識と技術を身につけている。
- (2) 高い問題解決能力と表現力：計算化学を用いて、対象物質に関する特徴を理解することができる能力を身につけている。
- (3) 高い倫理観に基づいた自律的行動力：計算化学の現状を理解し、それを利用して研究開発に貢献できる姿勢を身につけている。

Aim of this lecture is to provide the specific skills and/or knowledge as listed below.

- (1) High specialty knowledge/skills in Computational Chemistry.
- (2) Capacity for solving the specific problems and the skills to express the knowledge for engineering/research applications of computational chemistry.
- (3) Ethically motivated professional self-regulation during the studies and practices in computational chemistry.

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

Not specified.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子構造論による化学の探究 ガウシアン社 (ISBN 0-9636769-8-9)
 物理化学-分子論的アプローチ (上) 東京化学同人 (ISBN 978-4-8079-0508-9)
 Introduction to COMPUTATIONAL CHEMISTRY JOHN WILEY & SONS (ISBN 978-0-4700-1187-4)

○計算化学

(Computational Chemistry)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 計算化学の概要
 - 2 量子力学の仮説と一般原理
 - 3 シュレディンガー方程式とその近似解法
 - 4 密度汎関数法
 - 5 Gaussian09の使用方法
 - 6 構造最適化
 - 7 計算結果ファイルの解読
 - 8 分子軌道の表示
 - 9 中間テスト
 - 10 振動数計算
 - 11 IRとラマンスペクトルの予測
 - 12 熱化学解析
 - 13 NMR物性の予測
 - 14 溶媒中の系のモデル化
 - 15 励起状態
-
- 1 Standard computational methods
 - 2 Foundational principles for Quantum Mechanics
 - 3 Approximate solution for the Schrödinger equation
 - 4 Density Functional Theory
 - 5 Software Gaussian09
 - 6 Geometry optimization
 - 7 Understanding the result files
 - 8 Visualization of molecular orbitals
 - 9 Midterm exam
 - 10 Vibrational frequencies
 - 11 IR and Raman Intensity
 - 12 Thermochemical analysis
 - 13 NMR Shielding
 - 14 Solvation models
 - 15 Excited state

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (小テスト等) 20%
 中間テスト 30%
 期末テスト & 最終レポート 50%

Exercise 20%
 Midterm exam 30%
 Term exam & Final report 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

計算手法の習得および理論の理解を深めるために、予習・復習を十分に行うこと
 Good preparations for classes and reviews to understand the theoretical approach.

履修上の注意 /Remarks

ウインドウズOSを搭載したラップトップ型コンピュータ。
 初回講義時に指示する。

Laptop computer with the Microsoft Windows Operating System.
 To be announced in the first lecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

計算化学的手法を駆使することにより、実験に匹敵するほど精度の高い電子構造計算や分子構造解析などが可能となっている。この強力なツールを習得することで、化学現象を理解するための視点を増やして欲しい。

Chemists and chemical engineers now have an additional tool available that is complementary to traditional experimental and theoretical techniques. So, I hope you can use the standard computational methods to deeply understand chemical phenomena.

キーワード /Keywords

量子化学
 Quantum chemistry

○生体材料論

(Biomaterials)

担当者名 /Instructor 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 履修希望者は事前に担当教員へ相談すること。/Please contact the instructor before registration. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0533S	◎	○	○
科目名	生体材料論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

生体材料は、医療器具、再生医療、人工臓器、細胞培養などのライフサイエンス分野において欠くことのできない材料である。本講義では、生体材料として利用される材料の種類とその特徴、生体材料に求められる条件、さらには材料と生体間で起こる反応について理解し、生体材料の設計や開発に必要な知識を修得することを到達目標とする。

Biomaterial is any substance (other than drugs) or combination of substances synthetic and natural in origin, which can be used for any period of time, as a whole or as a system which treats, augments, or replaces any tissue, organ, or function of the body. In this lecture, we discuss the biomaterials.

教科書 /Textbooks

プリント配布 / The materials are hand out by printed matters.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古園勉・岡田正弘 「新版ヴィジュアルでわかるバイオマテリアル」 秀潤社 2011年 ¥2800
秋吉一成・石原一彦・山岡哲二 監修 「先端バイオマテリアルハンドブック」 NTS 2012年 ¥52000

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 バイオマテリアルとは / What are biomaterials ?
- 2 バイオマテリアルの必要条件 / Necessary conditions of biomaterials
- 3 生体適合性 / Biocompatibility
- 4 異物反応 / Foreign matter reactions
- 5 マテリアルと生体反応 / Biomaterials and biological reactions
- 6 マテリアルの界面設計 / Surface design of biomaterials
- 7 安全性試験 / Safety testing
- 8 金属 / Metals
- 9 セラミックス / Ceramics
- 10 高分子 / Polymers
- 11 天然高分子 / Composites
- 12 プレゼンと討論 1 (前半組) / Presentation and Discussion 1
- 13 プレゼンと討論 2 (後半組) / Presentation and Discussion 2
- 14 総合討論 / Discussion
- 15 まとめ / Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
Active participation to the class
レポート 70%
Report

○生体材料論

(Biomaterials)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習を十分に行うこと

Good preparations for classes and reviews after classes will enhance your performance.

履修上の注意 /Remarks

使用言語は日本語とするが、日本語による受講希望者がいなければ英語でも開講する。

/Official language for this subject : Japanese unless specified.

その他、適宜、指示 / To be announced in the class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療デバイス、細胞培養などの研究に従事している学生は、各自が利用するバイオマテリアルの理解に役立ててください。

This lecture supports a student studying the field of animal cell culture, tissue engineering, and DDS.

キーワード /Keywords

○生態システム論

(Ecosystem Science)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0522S	◎	○	○
科目名	生態システム論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

個体群や群集の機能、および化学的環境因子と生物機能との相互関連を中心に、生態学的観点から生態系の保全や管理の手法について講述します。特に、土壌環境や陸水環境が生物に及ぼす影響と生物の環境形成作用、ならびに細胞機能や分子生物学的観点からの生物・環境相互作用に関する研究について、最新の研究成果を含めて考究し、工学・農学・生物学など多角的な側面から環境問題を考えます。この講義では、さまざまな環境にかかわる問題に対して、生態学の観点から意見を述べるができるような知識を身につけることを到達目標とします。

本講義は、「生態系管理学」と同時開講され、内容は2018年度まで開講されていた「生態系管理学」と同内容です。

この講義の到達目標は、以下の通りです。

高度な専門的知識・技能：生態現象にかかわる理論的な解析法について理解し、各自の専門分野との接点を見出すことができるような考究を行う。

高い問題解決能力と表現力：生態理論が各自の研究内容とどのような関連があるのかについて、わかりやすく解説できる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：生態理論に基づいて生命倫理を正しく理解し、これを各自の研究分野で積極的に実践できる。

Methods for conservation and management of ecosystems based on ecological sciences will be explained with special reference to function of population and community, interaction between chemical environments and biological function, and mutualism between species. Interaction between biosphere and soil-hydrosphere, and interactive analysis between environment and organisms based on physiology and molecular biology will be discussed including recent research. The aim of this lecture is to get fundamental knowledges of ecology in order to express one's opinion for every environmental problem.

This lecture is comparable to the 'Ecosystem Management'.

The goals of this lecture are as follows:

Specialist knowledge and skills: Attendees should master theoretical analysis of ecological phenomena and find out how to apply the theory to their specific research subject.

Advanced problem-solving and expressive abilities: Attendees are requested to explain how the individual ecological phenomena relates to their specific research topics.

Ability to function autonomously with a solid ethical foundation: Attendees are requested to understand the bioethics properly based on the ecological theory and to actively practice them in their research field.

○生態システム論

(Ecosystem Science)

教科書 /Textbooks

指定しません/ Nothing

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介します/ Show references within the lecture

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生態系の構造と機能 (基礎概念の確認)
- 2 個体群生態学 (1) 個体群の増殖に関する理論
- 3 個体群生態学 (2) 個体群に影響を及ぼす要因
- 4 群集生態学 (1) 競争・捕食のモデル
- 5 群集生態学 (2) 共生のモデル
- 6 群集生態学 (3) 資源とニッチ
- 7 生態系 (1) エネルギー
- 8 生態系 (2) 物質循環
- 9 多様性の指標と理論
- 10 物質生産
- 11 群落光合成理論
- 12 物質循環
- 13 生態系の保全と利用
- 14 安定同位体による生態系解析
- 15 演習: 生態系保全に関する演習

* 講義内容や順序は変更になる場合があります。

* 休講の場合は、遠隔講義 (オンデマンド講義としてMoodleで配信) にて補講を行います。休講・補講の通知は、Moodle上にもみ掲示します。

- 1 Structure and function of ecosystems (overview)
- 2 Population ecology (1) Theory for population growth
- 3 Population ecology (2) Factors affecting population growth
- 4 Community ecology (1) Competition and predation
- 5 Community ecology (2) Mutualism
- 6 Community ecology (3) Resources and niche
- 7 Ecosystems (1) Energy flow
- 8 Ecosystems (2) Matter cycling
- 9 Index of biodiversity and theory
- 10 Theory of production
- 11 Production of population
- 12 Matter cycle
- 13 Ecosystem restoration and wise use
- 14 Ecosystem analysis by stable isotope analysis
- 15 Seminar: Presentation about ecosystem and biodiversity

Schedule and contents can be changed.

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100%

評価基準: 講義内容を正しく理解していること、講義内容に関して十分に考察を行っていること、各自の意見をまとめてわかりやすく説明していること、体裁が整った読みやすいレポートであること、を評価基準とします。

Report 100%

Evaluation: Lecture should be adequately summarized; discussion is sufficient; opinion should be sufficiently documented; report should be well constructed

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必要ありません。

Not necessary

履修上の注意 /Remarks

講義は英語と日本語との併用で行いますが、英語による受講希望者がなければ日本語のみで講義を行います。

Official languages for this subject are English and Japanese.

生物学、および生態学が基礎となる講義ですので、これらの基礎知識を身に付けておいてください。

Fundamental knowledge of biology and ecology is required.

事前学習として、当日の講義のタイトルを確認しておいてください。講義の後は、講義で配布した資料を一読してください。

You are recommended to check the title of every class in advance, and read again the document provided in every class.

なお、休講・補講・教室変更の通知や課題の提出など、講義に関係する通知は、特別な場合を除きMoodle上にもみ掲示しますので、毎回の講義

○生態システム論

(Ecosystem Science)

履修上の注意 /Remarks

の前にはMoodleを確認するようにしてください。

All announcement on the lecture will appear on Moodle. Students are requested to visit Moodle course frequently.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生態系の保全や管理に関する基礎知識について平易に解説します。これらの基礎知識は、環境行政や環境保全の実務において不可欠な内容ですので、このような方面への進路を考えている人には、積極的に受講することをお勧めします。

Fundamental knowlegde of conservation and management of ecosystems will be explained easily. The knowledge is necessary for practical official management of environmental management and protection.

キーワード /Keywords

生態系・ 個体群・ 群集・ 多様性・ 物質生産

Ecosystem, Population, Community, Diversity, Matter production

○生物センサー工学

(Biosensor Engineering)

担当者名 /Instructor 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0534S	◎	○	○
科目名	生物センサー工学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

到達目標は以下のとおり
生化学物質計測のための電気化学と化学反応機構について理解できるようにする。

Attainment target is shown below :
This lecture explain an electrochemistry for measurement of biochemical substances and the mechanism of chemical reactions.

教科書 /Textbooks

教科書は初回の講義で紹介する。 / A textbook is introduced at first guidance in this lecture.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

-

○生物センサー工学

(Biosensor Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 代謝
 - 2 代謝生産物と中間体
 - 3 細胞機能と細胞表面構造
 - 4 既存のバイオセンサ (1) 【酵素電極測定】
 - 5 既存のバイオセンサ (2) 【水晶振動子測定】
 - 6 既存のバイオセンサ (3) 【表面プラズモン測定】
 - 7 固体表面の受容体構築 (1) 【ペプチドの集積】
 - 8 固体表面の受容体構築 (2) 【DNA・RNAの集積】
 - 9 固体表面の受容体構築 (3) 【タンパク・抗体の集積】
 - 10 半導体微細加工 (1) 【フォトリソグラフィー】
 - 11 半導体微細加工 (2) 【ナノリソグラフィー】
 - 12 生体材料のセンシングへの利用 (1) 【サイトカイン】
 - 13 生体材料のセンシングへの利用 (2) 【タンパク・ペプチド】
 - 14 生体材料のセンシングへの利用 (3) 【細胞・体組織】
 - 15 まとめ
-
- 1 Metabolism
 - 2 Products and intermediates made from a metabolism
 - 3 Cell function and the surface structure
 - 4 Electrochemical measurement (1) 【Enzyme electrode measurement】
 - 5 Electrochemical measurement (2) 【QCM measurement】
 - 6 Electrochemical measurement (3) 【SPR measurement】
 - 7 The principle of sensing (1) 【Peptide modification】
 - 8 The principle of sensing (2) 【DNA & RNA modification】
 - 9 The principle of sensing (3) 【Protein & Antigen modification】
 - 10 Micromachining technology making of a semiconductor (1) 【Photolithography】
 - 11 Micromachining technology making of a semiconductor (2) 【Nanolithography】
 - 12 Use biomaterial for sensing (1) 【Cytokine】
 - 13 Use biomaterial for sensing (2) 【Protein & Peptide】
 - 14 Use biomaterial for sensing (3) 【Cells & Tissue】
 - 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 90%
レポート 10%
Final exam 90%
Report 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習を十分に行うこと
Good preparations for classes and reviews after classes will enhance your performance.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、バイオセンサーが生物の機能とエレクトロニクスから成り立っていることが理解できます。さらに知識を深めたいならば、生物と電気化学の基礎を復習した方がよいでしょう。

You will learn at this lecture that a biosensor is composed of a function of living matters and electronics. If you would like to get more knowledge, you had better review the foundation of the biology and the electrochemistry.

キーワード /Keywords

○微生物機能学

(Functional Microbiology)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0523S	◎	○	○
科目名	微生物機能学		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

自然界における浄化力は、光と水と微生物の相互作用による場合が多く、また様々な有害化学物質の分解もこの連動の上に成り立っているものが多い。さらに地球環境の進化も微生物の活動によって支えられている。このような微生物の活動を巧みに利用することで、古来より発酵生産を行ったり、現在では環境技術に役立っている。本講義では微生物の様々な機能について知見を深め、微生物産業の将来を展望する能力を養う。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 自然界から新規微生物の探索と分離・同定の手法について説明できる。
- ・ 物質循環と微生物とのかかわりについて説明できる。
- ・ 微生物による環境浄化技術や物質変換技術について説明できる。

The aim of this lecture is to functional microbiology from the viewpoint of industrial fermentation technology; microorganisms and their activities associated with fermented food products, biocontrol science; the occurrence and activities of various spoilage and pathogenic bacteria, modern technology for food protection such as sterilization, prevention of growth of spoilage and pathogenic bacteria, environmental microbiology; application of microbial functions to conservation of environments.

To be able to outline the three topics shown below.

- ・ Screening and isolation of new microorganisms
- ・ Biogeochemical cycling with microbial function
- ・ Bioremediation and bioconversion using microorganisms

教科書 /Textbooks

なし / None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Michael Madigan, John Martinko, David Stahl, David Clark, Brock Biology of Microorganisms (13th Edition), PEARSON Education, Inc., ISBN: 978-0-321-73551-5, 2012

Jacquelyn G. Black, Microbiology (8th Edition), JOHN WILEY & SONS, INC., ISBN: 978-0-470-64621-2, 2013

○微生物機能学

(Functional Microbiology)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 微生物機能学とは (導入) / Introduction to "Functional Microbiology"
- 2 . 微生物培養法I【微生物の増殖】 / Fermentation Technology I 【Microbial Growth】
- 3 . 微生物培養法II【微生物の増殖因子】 / Fermentation Technology II 【Factors Affecting Microbial Growth】
- 4 . 微生物培養法III【微生物の分離と同定】 / Fermentation Technology III 【Isolation and Identification】
- 5 . 滅菌と消毒 / Sterilization and Disinfection
- 6 . ウイルスと感染症/ Viral Infectious Disease
- 7 . 微生物の工業利用I【醸造酒】 / Application of Microorganisms I 【Brewage】
- 8 . 微生物の工業利用II【蒸留酒】 / Application of Microorganisms II 【Spirits】
- 9 . ミクロフローラ / Microflora
- 10 . 物質循環と微生物I【炭素循環】 / Biogeochemical Cycles I 【Carbon Cycle and microorganisms】
- 11 . 物質循環と微生物II【窒素循環】 / Biogeochemical Cycles II 【Nitrogen Cycle and microorganisms】
- 12 . 物質循環と微生物III【硫黄循環】 / Biogeochemical Cycles III 【Sulfur Cycle and microorganisms】
- 13 . バイオオーグメンテーション / Bioaugmentation
- 14 . バイオスティミュレーション / Biostimulation
- 15 . まとめ/ Final review

成績評価の方法 /Assessment Method

試験/ Examination : 70%
 課題/ Report : 15%
 授業態度/ Class Participation : 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業では幅広い内容を取り上げるため、授業開始前までに事前学習を行い、授業終了後には復習することにより理解をさらに深めてほしい。
 Students are requested to more understand by review learning and preparation for next class.

履修上の注意 /Remarks

学部で「微生物学」を履修していること。
 It is necessary to have already taken "microbiology" in your undergraduate program.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義において、微生物の様々な機能について理解を深め、微生物をどのような形で活用していけば、発酵生産や環境浄化、有用資源の変換に役立つか考えてほしい。
 Students are requested to get the idea of how to apply microbial potential activities to fermentative production, environmental technology and bioconversion.

キーワード /Keywords

Fermentation, Biocontrol Science, Biogeochemical Cycles, Bioremediation, Bioconversion

○環境応答生理学

(Ecological and Environmental Physiology)

担当者名 /Instructor 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0524S	◎	○	○
科目名	環境応答生理学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

国内外の最新の研究事例を紹介し、主として植物、微生物、原生生物が示す環境応答のメカニズムを議論する。特に生物が自然界における短期的あるいは中長期的な環境変動および環境汚染等の人為的な環境変化に対して示す生理的応答反応および生態系での異種生物間の相互作用について理解することを到達目標とする。

Data-oriented discussion on the recent research topics at biochemical, cell biological and molecular biological basis will be brought for deepening our understanding of the plant and microbial responses to the changing environments.

教科書 /Textbooks

指定なし

N.A.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜資料を指示

Appropriate materials are introduced.

○環境応答生理学

(Ecological and Environmental Physiology)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生物の環境応答 (イントロダクション)
- 2 植物の生理学
- 3 植物の生態学
- 4 原生物学と環境 (1) 【生息域】
- 5 原生物学と環境 (2) 【生態・毒性評価】
- 6 病原微生物と植物 (1) 【生物学的背景】
- 7 病原微生物と植物 (2) 【植物保護技術】
- 8 細胞内情報伝達 (1) 【メカニズム】
- 9 細胞内情報伝達 (2) 【人的制御】
- 10 遺伝子発現制御
- 11 代謝制御
- 12 課題発表と研究討議 (1) パワーポイントを活用したプレゼンビデオの作成
- 13 課題発表と研究討議 (2) パワーポイントを活用したプレゼンビデオの作成
- 14 課題発表と研究討議 (3) パワーポイントを活用したプレゼンビデオの作成
- 15 まとめ

- 1 Plants and microorganisms (an introduction)
- 2 Plant Eco-Physiology (1) 【Physiological back-ground】
- 3 Plant Eco-Physiology (2) 【Ecological back-ground】
- 4 Protozoa and Environment (1) 【Environmental factors affecting the microflora】
- 5 Protozoa and Environment (2) 【Ecotoxicity assays】
- 6 Plants and infectious microbes (1) 【Biological back-ground】
- 7 Plants and infectious microbes (2) 【Protection of plants】
- 8 Cellular signaling (1) 【Mechanism】
- 9 Cellular signaling (2) 【Control】
- 10 Controls in gene expression
- 11 Metabolic regulations
- 12 Video-based presentations and discussion (1)
- 13 Video-based presentations and discussion (2)
- 14 Video-based presentations and discussion (3)
- 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%
課題発表50%

Reports50%
Oral presentation50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習を十分に行うこと
Good preparations for classes and reviews after classes will enhance your performance.

履修上の注意 /Remarks

受講者は、植物生理学、原生物学、感染生理、細胞内情報伝達、遺伝子発現制御、代謝制御等の分野に精通していることが望ましい。本講義では、希望者には英語での講義を行います。また、日本語での受講を希望する学生にもある程度の英語での課題を課します。
Students are encouraged to bring about hot discussion based on the uptodate knowledges. Upon request, lecture will be given in English. Even to Japanese students, some tasks will be given in English.

予習・復習を十分に行うこと
Good preparations for classes and reviews after classes will enhance your performance.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○バイオシステム特別講義

(Special Lecture on Biosystem)

担当者名 /Instructor 塩澤 正三 / Masami SHIOZAWA / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0500S	◎	○	○
科目名	バイオシステム特別講義		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

金属材料、高分子材料、繊維材料、各種無機材料など、人類に大きな恩恵をもたらしてきた工業材料による公害・環境に及ぼす影響を軽減する技術、環境に負担をかけない、あるいは積極的に環境を改善する工業材料に関する技術のうち、代表的なものについて紹介する。これにより、環境工学に求められる高度な専門的な知識・技能に精通できるようになることを本科目の到達目標とする。

This lecture introduces typical technologies to reduce environmental pollution, not to give environmental burdens or to improve environment by using industrial materials, such as metals, polymer materials, fiber materials and various inorganic materials. The aim of this lecture is to ensure the skills and basic knowledge required as environmental engineers/specialists.

教科書 /Textbooks

プリントを適宜配布する
Papers will be distributed in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。
Texts will be introduced by the lecturer if necessary.

○バイオシステム特別講義

(Special Lecture on Biosystem)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境と材料① (オリエンテーション)
 - 2 環境と材料② (環境と社会・法律他)
 - 3 環境と材料③ (LCA分析他)
 - 4 環境に配慮した材料設計 ① (材料のエコマテリアル化)
 - 5 環境に配慮した材料設計 ② (金属材料)
 - 6 環境に配慮した材料設計 ③ (金属材料)
 - 7 環境に配慮した材料設計 ④ (高分子材料)
 - 8 環境に配慮した材料設計 ⑤ (高分子材料)
 - 9 環境に配慮した材料設計 ⑥ (無機材料)
 - 10 環境に配慮した材料設計 ⑦ (無機材料)
 - 11 環境に配慮した材料設計 ⑧ (繊維材料)
 - 12 環境に配慮した材料設計 ⑨ (繊維材料)
 - 13 環境に配慮した材料設計 ⑩ (その他材料)
 - 14 環境に配慮した材料設計 ⑪ (その他材料)
 - 15 課題調査発表・まとめ
-
- 1 Environment and Materials ① (Orientation)
 - 2 Environment and Materials ② (Environment and Social Care and related Laws)
 - 3 Environment and Materials ③ (LCA)
 - 4 Design for Materials considering Environment ① (Basic Concept)
 - 5 Design for Materials considering Environment ② (Metals)
 - 6 Design for Materials considering Environment ③ (Metals)
 - 7 Design for Materials considering Environment ④ (Polymers)
 - 8 Design for Materials considering Environment ⑤ (Polymers)
 - 9 Design for Materials considering Environment ⑥ (Inorganics)
 - 10 Design for Materials considering Environment ⑦ (Inorganics)
 - 11 Design for Materials considering Environment ⑧ (Fibers)
 - 12 Design for Materials considering Environment ⑨ (Fibers)
 - 13 Design for Materials considering Environment ⑩ (Miscellaneous)
 - 14 Design for Materials considering Environment ⑪ (Miscellaneous)
 - 15 Presentation on Research · Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

課題調査報告 (パワーポイントによる発表と報告書の提出)
Report of Research (oral presentation with Power Point and submission of report)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習を十分に行うこと
Good preparations for classes and reviews after classes will enhance your performance.

履修上の注意 /Remarks

適宜、指示をする。
授業では幅広い内容を扱うため、専門書などを用いて復習することにより理解を深めてほしい。
Appropriately directed by lecturer.
Review with appropriate text is required to understand this lecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

取り扱う材料は、金属、高分子、各種無機材料、繊維材料で、応用分野はエレクトロニクス、エネルギー、医療、土木建築、各種工業など多岐にわたります。課題調査は、グループ単位でのテーマの調査結果の発表とともに、各自、レポートを作成のうえ提出します。
This lecture concerns with metals, polymers, various inorganic materials, and fiber materials. They have been used for electronics, energy, medical, construction, and so on. Research groups conduct research for specified themes and have a presentation for research results. In addition, each student prepares and submits a report on the research.

キーワード /Keywords

バイオシステム講究I

(Special Seminar on Biosystem I)

担当者名 /Instructor バイオシステムコース全教員 (○コース長)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0501S	○	◎	○
科目名	バイオシステム講究I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

研究者として自立するには、研究内容を正しい専門用語と論理的な説明をとおして他人に理解してもらう必要がある。そこで最新の研究を紹介する雑誌会（輪読会）と研究進捗に関するプレゼンテーションと質疑応答（検討会）を行う。これらの取り組みを通して、プレゼンテーションとディスカッション能力を高めることを到達目標とする。

The styles of this class are meeting to introduce the recent research, and presentation and discussion for current research of a student. Students will acquire presentation and discussion abilities.

教科書 /Textbooks

なし/None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教員が指定した学術雑誌/Academic journals specified by advisors

バイオシステム講究I

(Special Seminar on Biosystem I)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 学術雑誌輪読1
- 2 研究プレゼンテーションとディスカッション1
- 3 学術雑誌輪読2
- 4 研究プレゼンテーションとディスカッション2
- 5 学術雑誌輪読3
- 6 研究プレゼンテーションとディスカッション3
- 7 学術雑誌輪読4
- 8 研究プレゼンテーションとディスカッション4
- 9 学術雑誌輪読5
- 10 研究プレゼンテーションとディスカッション5
- 11 学術雑誌輪読6
- 12 研究プレゼンテーションとディスカッション6
- 13 学術雑誌輪読7
- 14 研究プレゼンテーションとディスカッション7
- 15 まとめ

- 1 Reading Academic Journals 1
- 2 Presentation and Discussion of Research 1
- 3 Reading Academic Journals 2
- 4 Presentation and Discussion of Research 2
- 5 Reading Academic Journals 3
- 6 Presentation and Discussion of Research 3
- 7 Reading Academic Journals 4
- 8 Presentation and Discussion of Research 4
- 9 Reading Academic Journals 5
- 10 Presentation and Discussion of Research 5
- 11 Reading Academic Journals 6
- 12 Presentation and Discussion of Research 6
- 13 Reading Academic Journals 7
- 14 Presentation and Discussion of Research 7
- 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な講義への参加 50%
プレゼンの評価 50%
Active participation to the class 50%
Report 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

学術論文を読み、プレゼン資料の準備をすること。
Read scientific papers and prepare for presentation.

履修上の注意 /Remarks

場合によって、この科目は合宿スタイルで実施します。合宿の場合、受講者は必ず参加のこと。
According to circumstances, there is a training camp in this course.
Students who belong the group must join the training camp.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

バイオシステム講究II

(Special Seminar on Biosystem II)

担当者名 /Instructor バイオシステムコース全教員 (○コース長)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0502S	○	◎	○
科目名	バイオシステム講究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

最新の研究を紹介する雑誌会（輪読会）と研究進捗に関するプレゼンテーションと質疑応答（検討会）を行う。これらの取り組みを通して、プレゼンテーションとディスカッション能力を高めることを到達目標とする。

The styles of this class are meeting to introduce the recent research, and presentation and discussion for current research of a student. Students will acquire presentation and discussion abilities.

教科書 /Textbooks

なし/ Nothing

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教員が指定した学術雑誌/Academic journals specified by advisors

バイオシステム講究II

(Special Seminar on Biosystem II)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 学術雑誌輪読1
- 2 研究プレゼンテーションとディスカッション1
- 3 学術雑誌輪読2
- 4 研究プレゼンテーションとディスカッション2
- 5 学術雑誌輪読3
- 6 研究プレゼンテーションとディスカッション3
- 7 学術雑誌輪読4
- 8 研究プレゼンテーションとディスカッション4
- 9 学術雑誌輪読5
- 10 研究プレゼンテーションとディスカッション5
- 11 学術雑誌輪読6
- 12 研究プレゼンテーションとディスカッション6
- 13 学術雑誌輪読7
- 14 研究プレゼンテーションとディスカッション7
- 15 総括

- 1 Reading Academic Journals 1
- 2 Presentation and Discussion of Research 1
- 3 Reading Academic Journals 2
- 4 Presentation and Discussion of Research 2
- 5 Reading Academic Journals 3
- 6 Presentation and Discussion of Research 3
- 7 Reading Academic Journals 4
- 8 Presentation and Discussion of Research 4
- 9 Reading Academic Journals 5
- 10 Presentation and Discussion of Research 5
- 11 Reading Academic Journals 6
- 12 Presentation and Discussion of Research 6
- 13 Reading Academic Journals 7
- 14 Presentation and Discussion of Research 7
- 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な討論への参加 50%
プレゼンの評価 50%
Active participation to the class 50%
Report 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

学術論文を読み、プレゼン資料の準備をすること。
Read scientific papers and prepare for presentation.

履修上の注意 /Remarks

場合によって、この科目は合宿スタイルで実施します。合宿の場合、受講者は必ず参加のこと。
According to circumstances, there is a training camp in this course.
Students who belong the group must join the training camp.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○分子細胞生物学

(Molecular and Cellular Biosciences)

担当者名 /Instructor 市原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BI0525S	◎	○	○
科目名	分子細胞生物学		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

分子生物学や細胞生物学に関する最新の研究進展はめざましい。これを十分に理解するには最近の研究プロジェクトや論文を調査することが求められる。この授業では、学生自身が、最近の研究プロジェクトや論文について調査し、プレゼンテーションと討議を通してこの分野の最新の研究展開について深く理解することを目指す。

【到達目標】

知識・技能：分子生物学および細胞生物学の分野において、幅広い知識を修得し、かつ技術者・研究者として柔軟にかつ自立して問題を解決する技能を身につけている。

問題解決能力・表現力：分子生物学および細胞生物学の分野の現状を理解し、そこから問題の本質を見つけ出す思考・判断力を持ち、さらに研究活動を通じて得られた成果を、論文・学会などで、正確に表現し発表する能力を身につけている。

自律的行動力：分子生物学および細胞生物学の分野における諸問題に対して、研究活動及び他研究者との協働や活動を通して、適切な解決策を導き出すことができる自律性・コミュニケーション力を持つ。

Recent advances in molecular and cell biology area are amazed. It is required to check the recent research projects, articles, and reviews to follow the advances. In this class, students aim at deeply understanding the advances through survey, presentation, and discussion about the recent national projects and articles. Attainable goal of this class is that students will be able to deeply discussion on the molecular and cell biology.

Goals:

- To acquire a wide range of knowledge in the molecular and cellular biology fields, and to acquire the skills to solve the issues.
- To have the abilities to find the essential issues in the molecular and cellular biology fields and to explain and present the achievements in papers or at conferences.
- To have the autonomy and communication skills to be able to provide appropriate solutions to various issues in the molecular and cellular biology fields through research and collaboration with others.

教科書 /Textbooks

なし
Not specified.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
Not specified.

○分子細胞生物学

(Molecular and Cellular Biosciences)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 概要説明、研究論文の調査 (分子生物学1)
- 2 . 研究論文の内容報告 (分子生物学1)
- 3 . 研究論文の討議 (分子生物学1)
- 4 . 研究論文の調査 (分子生物学2)
- 5 . 研究論文の内容報告 (分子生物学2)
- 6 . 研究論文の討議 (分子生物学2)
- 7 . 研究論文の調査 (細胞生物学1)
- 8 . 研究論文の内容報告 (細胞生物学1)
- 9 . 研究論文の討議 (細胞生物学1)
- 10 . 研究論文の調査 (細胞生物学2)
- 11 . 研究論文の内容報告 (細胞生物学2)
- 12 . 研究論文の討議 (細胞生物学2)
- 13 . 研究プロジェクトについての調査
- 14 . 研究プロジェクトについての報告
- 15 . 研究プロジェクトについての討議、総括

1. Guidance, Survey of 1st research article in molecular biology field
2. Presentation of the 1st article
3. Discussion of the 1st article
4. Survey of 2nd research article in molecular biology field
5. Presentation of the 2st article
6. Discussion of the 2st article
7. Survey of 3rd research article in cell biology field
8. Presentation of the 3rd article
9. Discussion of the 3rd article
10. Survey of 4th research article in cell biology field
11. Presentation of the 4th article
12. Discussion of the 4th article
13. Research of the national projects related with cell and molecular biology
14. Presentation of the national projects related with cell and molecular biology
15. Discussion of the national projects related with cell and molecular biology, Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と討議 100%

Presentation and discussion 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 関連論文調査
事後： 関連論文調査

Preparation: Students should survey the referenced articles.

Review: Students should survey the referenced articles.

履修上の注意 /Remarks

生物学・生化学・分子生物学・細胞生物学等の基礎知識があることが前提です。
英語で論文・レビューを読む必要があります。
授業は毎回2時間以上となります。

Students are required to follow the basic knowledge about biochemistry, molecular biology, and cell biology.
Students are required to be able to read scientific articles and reviews in English.
The class time is more than 2 hours in each time.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○環境経済論

(Environmental Economics)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV650S	◎	○	○
科目名	環境経済論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

環境経済学的な知識を身につけ、環境問題の分析と対策の考察に役立てることを目的とする。全体を2部構成とする。第一部では、社会を数理的にモデル化するためのミクロ経済学の知識を習得した後、環境税等の環境経済学的手法の意義について学ぶ。第二部では、社会で実際に使われている経済学的な環境対策手法について受講生が調べ、発表、討論する。

Students will acquire practical knowledge of economic modeling regarding environmental policy and management. First, various economic methods of mitigating environmental pollutions are introduced and their relative strengths and weaknesses are discussed. Second, students are asked to conduct their own survey of actual environmental policies and to make a presentation and discussion on those policies.

到達目標 Achievement targets

経済学的視点から環境問題を分析するための概念と数理的技法を体系的に身につけている。

経済学的手法を環境問題の分析に適用し、問題点と対策を示すことができる。

経済学的視点から環境問題についての考察を続ける意欲を有している。

Understand economic and mathematical methods for analyzing environmental problems.

Capable of applying economic methods for environmental problems and identify solutions.

Eager to consider environmental problems from an economist perspective.

教科書 /Textbooks

プリントを配付する。

Handouts are provided in each lesson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルズ(2007)：クルーグマンミクロ経済学、東洋経済新報社、5400円

Krugman, P. and Wells, R., Microeconomics, Worth Publishers

○環境経済論

(Environmental Economics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境経済学の概要
 - 2 経済のモデル化 (消費者の行動1: 効用)
 - 3 経済のモデル化 (消費者の行動2: 効用最大化)
 - 4 経済のモデル化 (企業の行動1: 費用と利潤)
 - 5 経済のモデル化 (企業の行動2: 利潤最大化)
 - 6 経済のモデル化 (市場と厚生評価)
 - 7 経済のモデル化 (外部性)
 - 8 環境税の効果 (効率性)
 - 9 環境税の効果 (汚染削減費用最小化)
 - 10 排出権取引の効果 (汚染削減費用最小化)
 - 11 排出権取引の効果 (初期配分の影響)
 - 12 経済的手法と不確実性
 - 13 事例分析と発表: 受講者第1グループ
 - 14 事例分析と発表: 受講者第2グループ
 - 15 事例分析と発表: 受講者第3グループ
-
- 1 Overview of environmental economics
 - 2 Consumer's behavior: Utility
 - 3 Consumer's behavior: Utility maximization
 - 4 Producer's behavior: Cost and profit
 - 5 Producer's behavior: Profit maximization
 - 6 Market and welfare measurement
 - 7 Externality
 - 8 Environmental taxation: Efficiency
 - 9 Environmental taxation: Abatement cost reduction
 - 10 Emissions trading: Abatement cost reduction
 - 11 Emissions trading: Initial allocation
 - 12 Uncertainty
 - 13 Case study and presentation for student group 1
 - 14 Case study and presentation for student group 2
 - 15 Case study and presentation for student group 3

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・小テスト 40%
発表 60%
Term paper, Mini exam 40%
Presentation 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

翌週に使う数理的手法の確認を事前に行うこと。講義後には、復習を行うこと。
Prepare for the mathematical method to be used in the next class. Review of the contents after each class is recommended.

履修上の注意 /Remarks

基本的な微分積分を使う。
Knowledge of elementary mathematical analysis is required.
各回の授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
Related literature is introduced for students' deeper understanding.
使用言語は、英語とする。英語による受講希望者がなければ日本語開講する。
The official language for this course: English

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○エネルギー環境工学

(Energy and Environmental Engineering)

担当者名 /Instructor 藤山 淳史 / Atsushi FUJIYAMA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV620S	◎	○	○
科目名	エネルギー環境工学		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

環境政策を行うための基本的な考え方を日本や世界のエネルギーおよび環境問題とその解決の変遷を参照しながら概説し、現在新たに生まれつつある環境の問題についての政策提案を試みる。
Discuss the basic concept of environmental policies considering with the energy problems and environmental problems in Japan and in the world, and consider the newborn environmental problems.

【到達目標】

- ・ 高度な専門的知識・技能：エネルギーと環境に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- ・ 高い問題解決能力と表現力：エネルギーと環境の問題について、学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
- ・ 高い倫理観に基づいた自律的行動力：エネルギーと環境の問題への関心とキャリア意識を持ち続け、その問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

Specialist knowledge and skills: acquire a wide range of knowledge about energy and the environment in a systematic and comprehensive manner.

Advanced problem-solving and expressive abilities: to be able to think about energy and environmental issues from an interdisciplinary and multifaceted perspective, to seek solutions, and to express one's thoughts and judgments appropriately.

Ability to function autonomously with a solid ethical foundation: develop an interest in and career awareness of energy and environmental issues, and an attitude of working to solve problems.

教科書 /Textbooks

特に指定しない。Not specified.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Not specified.

○エネルギー環境工学

(Energy and Environmental Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 本講義の概要、進め方
Overview of the class
2. 環境政策とは？：環境政策の必要性
What is "environmental policy"? The necessity of environmental policy.
3. 持続可能な社会と環境政策
Sustainable society and environmental policy
4. 環境政策の分類
Classification of environmental policies
5. 環境問題・政策の変遷
Review of environmental problem and policy
6. 公害対策基本法から環境基本法
Basic Environmental Law
7. レポート中間発表1：前半
Student's interim presentation 1: The first half
8. レポート中間発表2：後半
Student's interim presentation2: The last half
9. エネルギー問題
Energy problems
10. 地球環境とエネルギー
Global issues of energy
11. 地域環境とエネルギー
Regional issues of energy
12. 地球温暖化に対する取り組み
Approach to global warming
13. レポート発表1：前半
Student's final presentation 1: The first half
14. レポート発表2：後半
Student's final presentation 2: The last half
15. まとめ
Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 Active learning 40%
授業中のワーク Work in class 30%
レポート発表 Report presentation 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レポート発表に対するワークが必要となる。
Some home works is required for the report presentation in the class.

履修上の注意 /Remarks

講義は基本的に日本語で行われ、必要に応じて英語が使われます。
Lectures are basically given in Japanese, with English used when necessary.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○環境経営システム論

(Sustainable Management Systems)

担当者名 兼 日超 / SO Nichicho / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV621S	◎	○	○
科目名	環境経営システム論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

環境経営は、企業経営の重要な柱となっている。とくに、住宅、自動車、飲料容器などのような社会と直接接点のある製品を製造する企業には、環境負荷に配慮した製品設計、製造プロセス、サービス、再資源化など製品のライフサイクルを通じた社会的な責任があり、市場や社会への情報公開と企業倫理が求められる。本講義では、環境経営の基本であるグローバルルールの遵守や環境負荷低減の徹底、情報の公開と企業倫理の推進について、環境マネジメントシステムや環境監査などの方法の理論と実践について学ぶ。

到達目標は次のとおり。

- ・ 環境経営に関する各種手法に関して専門的かつ創造的・実践的知識をもつ。
- ・ 社会の中の環境問題に関して、その環境経営的な立場からの施行・判断・表現ができるようになる。
- ・ 環境経営に関する各課題について、専門的な研究を実践する関心・意欲をもつ。

Practical methods of sustainable management for environment will be explained, and are based on actual action in companies. Students will acquire practical knowledge of environmental management.

Attainment targets are as follows:

- To get the professional, creative and practical knowledge on various methods of sustainable management,
- To be able to make enforcement, judgment and representation from the standpoint of environmental management to environmental issues in the society,
- To have the interest and motivation in conduction of specialized research on various issues of sustainable management.

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配付する。
Distribute printing

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

多数あるので、授業中に紹介する。
Introduce in lecture

○環境経営システム論

(Sustainable Management Systems)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境マネジメントと環境情報
 - 2 企業の環境マネジメントの理論と実際
 - 3 環境会計の理論と実際
 - 4 環境報告の理論と実際
 - 5 環境ラベルの理論と実際
 - 6 環境格付けの理論と実際
 - 7 環境リスクとリスクマネジメント
 - 8 行政組織の環境マネジメント
 - 9 NGO・NPOと環境マネジメント
 - 10 環境評価と意思決定の理論
 - 11 環境政策と経済的手段
 - 12 環境マネジメントと環境ビジネス
 - 13 レポート発表①
 - 14 レポート発表②
 - 15 まとめ
-
- 1 Overview of sustainable management for environment
 - 2 Environmental management system
 - 3 Environmental accounting
 - 4 Environmental reporting
 - 5 Environmental labeling
 - 6 Environmental rating
 - 7 Environmental risk and risk management
 - 8 Environmental management for social sector
 - 9 Environmental management of NGO/NPO
 - 10 Environmental evaluation and decision making
 - 11 Environmental policy and economical methods
 - 12 Environmental management and environmental business
 - 13 Presentation of short research by students #1
 - 14 Presentation of short research by students #2
 - 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 50%
レポート 50%
Active learning 50%
Report of short research 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教員の指示に従い、予習・復習に力を注ぐこと。
Follow teacher's instruction, and make efforts on class preparation and brush-up by yourself.

履修上の注意 /Remarks

英語による受講希望者がいれば、英語と日本語での授業を行う。
This subject is taught in a bilingual style. Official language for this subject is both English and Japanese.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○環境情報システム論

(Environmental Information Technology and Computer Simulation)

担当者名 /Instructor 浦西 克維 / URANISHI Katsushige / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV610S	◎	○	○
科目名	環境情報システム論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

広域的な環境状況を把握、管理するための環境モニタリング手法や環境情報システム技術を学ぶ。環境アセスメントに用いられる代表的な計算機シミュレーション技術の詳細も、環境影響評価書の実例を通して学習する。実際の業務で用いられる計算機プログラムを用いた演習も行うことで、環境アセスメント技術に関わる実践的な知識・技術を修得することが本授業の目標である。

Students will acquire technological knowledge of environmental monitoring and environmental information system for a large area environmental management. Also, various computer simulation methods for environmental assessment are introduced by the case study of actual environmental assessment. The goal of this class is to acquire practical knowledge and skills related to environmental assessment technology by conducting exercises using computer programs used in actual work.

到達目標

- ・ 高度な専門的知識・技能：環境影響評価に関する専門的な知識および評価技術を総合的に身につけている。
- ・ 高い問題解決能力と表現力：環境影響評価について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。
- ・ 高い倫理観に基づいた自律的行動力：環境分野への関心とキャリア意識を持ち続け、他の機関と協力しながら環境問題の解決に貢献できる姿勢を身につけている。

Attainment target

- ・ Specialist knowledge and skills: to acquire comprehensive expertise and assessment techniques for environmental impact assessment.
- ・ Advanced problem-solving and expressive abilities: to be able to think comprehensively and logically about environmental impact assessment, to seek solutions, and to express one's thoughts and judgments logically.
- ・ Ability to function autonomously with a solid ethical foundation: maintain an interest and career awareness in the environmental field, and develop an attitude to contribute to the solution of environmental problems in cooperation with other organizations.

教科書 /Textbooks

講義資料を配布する。

The related references will be distributed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指示する。

Useful references will be suggested ,if necessary.

○環境情報システム論

(Environmental Information Technology and Computer Simulation)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概要
 - 2 環境アセスメント法・地域環境情報
 - 3 環境アセスメントでの環境配慮方法
 - 4 地域環境情報の学生発表 (前半)
 - 5 地域環境情報の学生発表 (後半)
 - 6 環境モニタリング方法
 - 7 環境配慮の具体例【エコキャンパス見学】
 - 8 環境情報システムの実例調査発表 (前半)
 - 9 環境情報システムの実例調査発表 (後半)
 - 10 環境影響予測の基本的な方法【大気汚染】
 - 11 環境影響予測の基本的な方法【水質、その他】
 - 12 シミュレーション演習【大気汚染物質拡散】
 - 13 シミュレーション演習【熱流体力学】
 - 14 シミュレーション課題発表 (前半)
 - 15 シミュレーション課題発表 (後半)
-
- 1 Overview of environmental information technology
 - 2 Environmental assessment act, Local environmental information
 - 3 Environmental consideration actions in environmental impact assessment
 - 4 Student Presentation of local environmental information (first half)
 - 5 Student Presentation of local environmental information (second half)
 - 6 Environmental monitoring methods
 - 7 Specific examples of environmental consideration [Eco-campus tour]
 - 8 Student Presentation of case study on environmental information system (first half)
 - 9 Student Presentation of case study on environmental information system (second half)
 - 10 Basic method of environmental impact prediction [Air pollution]
 - 11 Basic method of environmental impact prediction [Water quality, etc.]
 - 12 Computer simulation exercise [Diffusion of air pollutants]
 - 13 Computer simulation exercise [Thermo-fluid dynamics]
 - 14 Student Presentation of case study on computer simulation (first half)
 - 15 Student Presentation of case study on computer simulation (second half)

成績評価の方法 /Assessment Method

学生発表 80%
授業への取り組み姿勢 20%

Student Presentations 80%
Active learning 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料や参考資料は全て読んで理解すること。
Read and understand all handouts and reference materials.
課題調査発表は授業外での自主調査を充分に行うこと。
Survey for the case study presentation should be done extensively outside the class.

履修上の注意 /Remarks

北九州市環境配慮指針などの参考文献を予め配布するので、熟読して授業に備えること。
Prepare for the lecture by reading references such as Environmental Consideration Policy of Kitakyushu city provided in advance.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境に関わる情報や情報技術に強い関心を持ち、自発的に学習すること。
Have a strong interest in environment-related information and information technology, and be willing to study.

キーワード /Keywords

環境アセスメント、シミュレーション演習
Environmental impact assessment, Computer simulation exercise

○都市環境評価・計画論

(Urban Environmental Assessment and Planning)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV622S	◎	○	○
科目名	都市環境評価・計画論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

環境計画の策定においては、多様な環境情報を元に現状を評価し、将来を予測した上で、適切なビジョンとそれに至る最適なシナリオ、プログラムを提示する必要がある。そのため、本講義の受講生は、主に都市環境制御を目的として、環境指標と環境評価手法（LCA、マテリアルフロ一分析、環境資源勘定等）の体系的修得を目指す。また、各種環境計画の実例を元に、その体系と相互関係について分析し、そこで必要とされる予測手法、最適化手法等のスキルを身に付ける。

Students will acquire practical knowledge of environmental assessment and planning methods for urban environmental control. First, various environmental assessment methods such as indicators, LCA and MFA are introduced and their relative strengths and weaknesses are discussed. Second, future forecasting and optimization methods based on the case studies are introduced.

到達目標

- ・ 高度な専門的知識・技能：都市環境計画の基礎となる環境評価分野、意志決定手法において、専門的かつ創造的・実践的知識を習得する。
- ・ 高い問題解決能力と表現力：現実の都市環境問題に対応するために、国内のみならず途上国の都市環境問題に広い視野をもって問題に対処することができる思考力と判断力を身につける。
- ・ 高い倫理観に基づいた自律的行動力：都市環境問題に関わる資源、エネルギーと、都市の発展のバランスに対して関心を持ち、高度な研究を实践する意欲を身につける。

Attainment target

- Specialist knowledge and skills: acquire specialized, creative, and practical knowledge in the field of environmental evaluation and decision-making methods that are the basis of urban environmental planning.
- Advanced problem-solving and expressive abilities: in order to deal with actual urban environmental problems, acquire the thinking ability and judgment ability to deal with the problems from a broad perspective not only in Japan but also in developing countries.
- Ability to function autonomously with a solid ethical foundation: acquire the motivation to practice advanced study while being interested in the balance between urban environmental issues and urban development.

教科書 /Textbooks

特に定めない

T. E. Graedel and B.R. Allenby, Industrial Ecology, Prentice Hall

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中勝編著『循環型社会評価手法の基礎知識』技報堂出版、ほか多数(講義中に指示する)

○都市環境評価・計画論

(Urban Environmental Assessment and Planning)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 人間活動の環境負荷と環境指標【環境指標の開発経緯】
 - 2 人間活動の環境負荷と環境指標【環境指標の最新動向】
 - 3 環境評価のための物的評価手法【マテリアルフロー分析】
 - 4 環境評価のための物的評価手法【ライフサイクルアセスメントの基礎】
 - 5 環境評価のための物的評価手法【ライフサイクルアセスメントの応用】
 - 6 環境評価のための経済的評価手法【環境経済評価の基礎】
 - 7 環境評価のための経済的評価手法【旅行費用法、ヘドニックアプローチ】
 - 8 環境評価のための経済的評価手法【仮想評価法】
 - 9 環境計画のための将来予測手法と最適化手法【将来予測】
 - 10 環境計画のための将来予測手法と最適化手法【最適化】
 - 11 環境計画のための将来予測手法と最適化手法【環境アセスメント】
 - 12 環境計画の事例研究【受講生からの報告】
 - 13 環境計画の事例研究【受講生からの報告】
 - 14 環境計画の事例研究【受講生からの報告】
 - 15 まとめ
-
- 1 Environmental load & indicators of human activities (background)
 - 2 Environmental load & indicators of human activities (new development)
 - 3 Environmental evaluation methods in physical aspects (MFA)
 - 4 Environmental evaluation methods in physical aspects (basic concept of LCA)
 - 5 Environmental evaluation methods in physical aspects (application of LCA)
 - 6 Environmental evaluation methods in economic aspects (basic concept)
 - 7 Environmental evaluation methods in economic aspects (TCM, HA)
 - 8 Environmental evaluation methods in economic aspects (CVM)
 - 9 Future forecast & optimization for environmental planning (future forecasting)
 - 10 Future forecast & optimization for environmental planning (optimization)
 - 11 Future forecast & optimization for environmental planning (EIA, SEA)
 - 12 Case study of environmental planning (student presentation)
 - 13 Case study of environmental planning (student presentation)
 - 14 Case study of environmental planning (student presentation)
 - 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的授業参加 20%
 事例発表・討論 40% ※全員に異なるテーマを与え、毎回事例報告と質疑応答を行う
 期末レポート 40%
 Positive participation 20%
 Case study & Discussion 40%
 Final report 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義を十分に理解するよう事後の復習に努めること。
 Students have to review the lessons for their deeper understanding.

履修上の注意 /Remarks

授業毎に指示する。
 To be noticed before each class.
 講義で学んだことを通して、社会で起きていることを眺めてください。それをレポート課題にします。
 The term paper of this course requires students apply the knowledge from the class to understand actual social issues.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境計画は、国、自治体、企業などが、人間と環境の望ましい関係の実現を目指すための計画的取組です。地球環境時代において都市をどのように形成あるいは再構築していくか、そのためのツールを学びます。
 Environmental planning is a approach for the national/local government and the enterprise to aim at the achievement of the desired relationship of human and the environment. Students will learn that the tool to evaluate and to plan how to form or to restructure the urban area in this global environment era.

キーワード /Keywords

○持続可能発展論

(Theory and Progress of Sustainable Development)

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / MIYAKE Hiroyuki / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 隔年開講です。/ Biennial class. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV510S	◎	○	○
科目名	持続可能発展論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

21世紀に入り、グローバル化のさらなる拡大と進展により、開発途上国は産業発展を急速に展開してきている。しかし、その発展過程は、社会問題や環境問題の解決を同時に考えずに、先進国が辿ってきた過程である経済成長優先の戦略と似ている。近年では、SDGsが2030年を目標年として、先進国、新興国や開発途上国によって追求されなければ、地球環境、そして人間社会が崩壊すると言われていた。本授業では、先進国や途上国にとって持続可能とは何かを考えていきたい。途上国がどのような社会経済状態にあり、どのようにSDGsと関係づけられているのかをきちんと理解することで、高度な専門的知識・技能が獲得され、当該のSDGsを解決すべき能力の獲得、さらには能力を発揮することが求められる。

This century is more speeding up its pace of globalization in which the developing countries have been getting rapid economic growth. But social problems and environmental problems have not been sincerely focused on. The way was similar to one of developed countries where much pollution was generated so that many victims appeared. In front of huge power of government and enterprises, people of developing countries could not fight against the powers. Recently, SDGs is focused to save the earth by many countries. In this class, we learn Sustainable Development and SDGs.

到達目標

- ・ 高度な専門的知識・技能：高度専門職業人として活躍するために必要な、途上国の開発分野の知識を修得する。
- ・ 高い問題解決能力と表現力：途上国の経済開発に伴う課題を自分自身に関わるものとして捉えることができる。
- ・ 高い倫理観に基づいた自律的行動力：途上国における環境的・社会的課題の解決に取り組む主体的な意欲をもつことができる。

Attainment target

- Specialist knowledge and skills: to acquire knowledge in the field of development of developing countries necessary for advanced professionals.
- Advanced problem-solving and expressive abilities: to be able to understand issues related to economic development in developing countries by putting them in the context of oneself.
- Ability to function autonomously with a solid ethical foundation: be willing to take the initiative in solving environmental and social problems in developing countries.

教科書 /Textbooks

* 稲田十一 『社会調査からみる途上国開発～アジア6か国の社会変容の実像』明石書店、2017年、2750円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 後藤康浩 『アジア都市の成長戦略～「国の経済発展」の概念を変えるダイナミズム』慶應義塾大学出版会、2750円
- * Idakwo, Anne, "17 Stories of the SDGs (English Edition)" kinde ver. Amazon Service International Inc.,2016
- * 三宅博之 『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年、4180円
- * 園田茂人 『アジアの国民感情～データが明かす人々の対外認識』中公新書、2020年、968円

○持続可能発展論

(Theory and Progress of Sustainable Development)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 各自の考えの発表～現時点での持続可能の概念
- 第2回 『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』の学習
- 第3回 『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』の学習
- 第4回 最近のSDGsの進捗状況について "17 Stories of the SDGs (English Edition)" 1の発表と議論
- 第5回 "17 Stories of the SDGs (English Edition)"2の発表と議論
- 第6回 "17 Stories of the SDGs (English Edition)"3の発表と議論
- 第7回 "17 Stories of the SDGs (English Edition)"4の発表と議論
- 第8回 各地域や国でのSDGsの紹介
- 第9回 『社会調査からみる途上国開発～アジア6か国の社会変容の実像』のワークショップ型学習 1
- 第10回 『社会調査からみる途上国開発～アジア6か国の社会変容の実像』のワークショップ型の学習 2
- 第11回 『社会調査からみる途上国開発～アジア6か国の社会変容の実像』のワークショップ型の予備学習 3
- 第12回 『アジア都市の成長戦略～「国の経済発展」の概念を変えるダイナミズム』の学習 1
- 第13回 『アジア都市の成長戦略～「国の経済発展」の概念を変えるダイナミズム』の学習 2
- 第14回 他大学大学院との研究・交流
- 第15回 まとめ

1. Presentation of each person's ideas - current concepts of sustainability
2. Study on "Urban Environment in Developing Countries - Dhaka, Bangladesh The Quest for a Sustainable Society"
3. Study on "Urban Environment in Developing Countries - Dhaka, Bangladesh The Quest for a Sustainable Society"
4. The recent progress of the SDGs. Presentation and discussion of "17 Stories of the SDGs (English Edition) 1"
5. Presentation and discussion of "17 Stories of the SDGs (English Edition) 2"
6. Presentation and discussion of "17 Stories of the SDGs (English Edition) 3"
7. Presentation and discussion of "17 Stories of the SDGs (English Edition) 4"
8. Introduction of the SDGs in each region and country
9. Workshop-based learning1 on "Development in Developing Countries through Social Surveys: Realities of Social Transformation in Six Asian Countries"
10. Workshop-based learning2 on "Development in Developing Countries through Social Surveys: Realities of Social Transformation in Six Asian Countries"
11. Workshop-based Preliminary Study 3 on "Development of Developing Countries through Social Research. The Reality of Social Transformation in Six Asian Countries"
12. Study1 on "Growth Strategies for Asian Cities: Dynamism Changing the Concept of National Economic Development"
13. Study2 on "Growth Strategies for Asian Cities: Dynamism Changing the Concept of National Economic Development"
14. Research and exchange with graduate schools of other universities
15. Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 Active learning 40%
レポート Report 40%
小課題 Small assignments 20%

{ - }は、レポート、小課題の未提出、授業にほとんど参加していないときに、付す。
Failure to submit reports or small assignments, or little or no participation in class, will result in a negative grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定した教科書は必ず事前に読んできて、発表にも参加し、終了後は、他の視点で事物や現象を見ることにする。時には、小課題の提出を求める。

Be sure to read the assigned textbook in advance and participate in the presentation. After the lecture, look at things and phenomena from different perspectives and think about them. In addition, students may be required to submit small assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際環境工学部の院生ならこそ、日本を飛び出て、学習をしてきてほしい。
I hope students of graduate school are encouraged to go abroad and challenge for anything.

キーワード /Keywords

開発途上国、先進国、社会問題、環境問題、SDGsの17目標
Developing countries, developed countries, social issues, environmental issues, 17 goals of SDGs

○アジアの環境問題 (通常クラス)

(Environmental Issues in Asia (regular class))

担当者名 /Instructor 寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~), 佐野 大輔 / Daisuke SANNO / 非常勤講師
馬 昌珍 / Chang-Jin MA / 非常勤講師, 河井 紘輔 / Kousuke KAWAI / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV501S	○	○	◎
科目名	アジアの環境問題		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The purposes are to be able to understand a wide range of environmental phenomena in Asia and to be able to apply results of the studies to analyze and solve environmental phenomena.

到達目標：

- ・ アジア地域の環境問題に関する知識を総合的かつ体系的に理解している。
- ・ アジア地域の環境問題について、総合的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。
- ・ アジア地域の環境問題への関心とキャリア意識を持ち続け、この問題解決に向け主体的に行動する姿勢を身につけている。

Goal:

- ・ Comprehensive and systematic understanding about environmental problem in Asia.
- ・ Considering the solution for the problem in Asia and expressing the own idea about it.
- ・ Having the concern to solve the environmental problem in Asia.

教科書 /Textbooks

Handouts are distributed if necessary.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References are introduced in lecture, if necessary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Water and wastewater issues in Asian countries
2. Waterborne diseases
3. Toxins and pathogens in water(1): (Fundamental)
4. Toxins and pathogens in water (2): (Application)
5. Water Management approaches
6. Air pollution in Asian countries
7. Diffusion of air pollutants in Asian countries
8. Air pollutant control(1): (Fundamental)
9. Air pollutant control (2): (Application)
10. Review of Air pollution
11. Solid waste management in Asian countries
12. Landfill leachate water
13. Case study: fundamental
14. Case study: application
15. Review of waste management

成績評価の方法 /Assessment Method

Report 100%

○アジアの環境問題 (通常クラス)

(Environmental Issues in Asia (regular class))

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

The preparation and review tasks will be shown in the class.

履修上の注意 /Remarks

Official language is English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○省資源衛生工学

(Sustainable Sanitation Engineering)

担当者名 /Instructor 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~), 今井 剛 / Tsuyoshi IMAI / 非常勤講師
島岡 隆行 / Takayuki SHIMAOKA / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV502S	◎	○	○
科目名	省資源衛生工学		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

有機性の廃棄物・排水処理技術に関して理論と最新の技術を学び、工学的実務家、政策学的実務家、また研究者として国内外の環境問題に取り組む際に必要な知識の一端を身につける。廃棄物処理においては、計画-収集-リサイクル-中間処理-最終処分までの一連の工程毎に基本的な考え方や課題解決を学ぶ。また、排水処理技術においては、特に発展途上国・新興国に適する省エネルギー・省資源のシステムに焦点を当て、先進国である日本の排水処理に関する発展の経緯をアジアの国々と比較しながら、それぞれの国にとって持続可能な水処理方法を考える。いかなる技術も別の技術と比べると長所・短所を有する。これらのトレードオフ関係を定量的な根拠をもって認識できるようになることを到達目標とする。このことによって、論理的なインフラ構築の考え方を身につける。具体的には、以下の知識・能力を習得する。

有機性廃棄物をはじめとする環境汚染物質を省資源的に処理する技術の知識を身につける。

関連技術の発展経緯・背景を理解し、解決手段の必然性を説明する能力を身につける。

アジア各国における環境汚染問題・背景を理解し、解決のアプローチを考察する能力を身につける。

【到達目標】

有機性廃棄物をはじめとする環境汚染物質を省資源的に処理する技術の知識を身につけている。

関連技術の発展経緯・背景を理解し、解決手段の必然性を説明できる。

アジア各国における環境汚染問題・背景を理解し、解決のアプローチを考察できる。

Engineering theories and modern technologies for solid waste management and wastewater treatments are instructed. Students will obtain essential knowledge to tackle environmental problems in the world as practitioners, engineers and researchers. For the solid waste management, key factors, challenges and approaches to the solutions are shown based on steps from the planning of collection system till operation of final disposal facilities. For the wastewater treatments, sustainable sanitary engineering is especially focused that may meet the needs in developing countries/emerging countries. The experiences in Japan are critically discussed to develop comparative considerations with your origin/country. Based on this discussion, a logical insight to identify trade-off relationships on system implementation is incubated. For instance, approaches to integrate available/desired technologies to reduce environmental pollution with reasonable cost, limitation/features of each technology, specific challenges in the countries/regions.

Goals

- Relevant knowledges for technologies on solid waste treatments to reduce organic pollutions.
- Sense to tackle the environmental challenges based on the background and the relating technologies.
- Sense to formulate strategies to reduce the environmental pollutions/problems which may depends on each region.

教科書 /Textbooks

テキスト配布

Handout

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Wastewater Engineering (McGraw-Hill, 2003)

○省資源衛生工学

(Sustainable Sanitation Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 廃棄物処理・資源循環計画の理論
 - 2) 廃棄物処理・資源循環計画の課題
 - 3) 廃棄物のリサイクルの理論
 - 4) 廃棄物のリサイクルの課題
 - 5) 廃棄物中間処理の理論
 - 6) 廃棄物中間処理の技術
 - 7) 廃棄物最終処分の理論
 - 8) 廃棄物最終処分の技術
 - 9) 廃棄物最終処分の課題
 - 10) 廃棄物処理・資源循環のまとめ
 - 11) 浄化槽（分散型汚水処理システム）の概要
 - 12) アジアの発展途上国排水処理の現状 (1), 排水処理の状況
 - 13) アジアの発展途上国排水処理の現状 (2), 都市間の比較
 - 14) 省エネルギー・省資源型の水処理 (1), 日本の高度処理技術
 - 15) 省エネルギー・省資源型の水処理 (2), 最新の技術開発の紹介
-
- 1) Theories for solid waste management and material recycle
 - 2) Implementations for solid waste management and material recycle
 - 3) Theories for recycling of solid waste
 - 4) Implementations for recycling of solid waste
 - 5) Theories for intermediate treatments of solid waste
 - 6) Technologies of intermediate treatment of solid waste
 - 7) Theories for solid waste disposal
 - 8) Technologies for solid waste disposal
 - 9) Implementations for solid waste disposal
 - 10) Overview and challenges for sustainable solid waste managements
 - 11) Overview of decentralised wastewater treatment system (Japanese Johka-so)
 - 12) Wastewater treatments in Asian developing countries (1), outline for selected countries/region
 - 13) Wastewater treatments in Asian developing countries (2), comparative study on sewage works
 - 14) Sustainable wastewater treatments (1), Advanced Technologies in Japan
 - 15) Sustainable wastewater treatments (2), Recent Researches and Developments

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加 50%
 小レポート(授業内 13回分) 50%

Active learning (based on attendance) 50%
 Thirteen sets of report 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習： 自分の身の回りの廃棄物・排水処理システムがどのような仕組みで成り立っているか、授業の討議用に調べておくこと。
 復習： 毎回の講義内容を自分の身の回りの廃棄物・排水処理システムと比較・考察すること。

To find out appropriate solutions to meet individual needs in your country, students are requested to provide current relating information and problems, which may be used for the discussion at the class. Also the consequences of the discussion should be critically reviewed.

履修上の注意 /Remarks

使用言語は英語とするが、英語による受講希望者がいなければ日本語でも開講する。

Official language for this subject: English unless specified.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

廃棄物と排水の効率的な処理は社会を持続させるために必須の要素です。実例を学ぶことでイメージを膨らませましょう。

For sustainable societies, elaboration of waste/wastewater treatment systems are crucial. Incubate your vivid insights from seeing on-going approaches.

キーワード /Keywords

廃棄物の処理システムと管理, 新規の低コスト排水処理技術紹介

Solid waste management, developing low-cost wastewater treatment technologies

○健康リスク学

(Environmental Pollution and Health Risks)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 馬 昌珍 / Chang-Jin MA / 非常勤講師
原口 公子 / Kimiko HARAGUCHI / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV520S	◎	○	○
科目名	健康リスク学		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

環境問題と健康リスクの関係について代表的な事例を取り上げ、両者の関連性を捉えるための理論と対処のための技術・政策について学ぶ。行政、企業関係者、また、環境分野の研究者としての活動に不可欠な知識を得て発展させることを目的とする。

Participants of this course will acquire theoretical and practical knowledge of understanding and mitigating health problems related to environmental pollutions. Targets of this course are government officials, environmental practitioners in firms, and environmental researchers.

到達目標 Achievement targets

リスクのアセスメント、および、ガバナンスに関する概念を体系的に身につけている。

リスクを生じさせる事象にどう対処すべきか、論理的に考察できる。

リスクに対する合理的な対処法を考え、試みることを継続する意欲を有している。

Understand economic and mathematical methods for analyzing environmental problems.

Capable of applying economic methods for environmental problems and identify solutions.

Eager to consider environmental problems from an economist perspective.

教科書 /Textbooks

テキスト配布

Handouts are prepared by lecturers.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Maude Barlow , "Blue Covenant: The Global Water Crisis and the Coming Battle for the Right to Water , " The New Press , New York , USA.

○健康リスク学

(Environmental Pollution and Health Risks)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、リスク関連事例
 - 2 生活、エネルギー、そして汚染
 - 3 環境と健康との関連性
 - 4 大気汚染と健康リスク
 - 5 自動車由来の汚染物質と健康リスク
 - 6 室内空気汚染と健康リスク
 - 7 土壌汚染と健康リスク
 - 8 汚染から身を守る
 - 9 日本の水道事業
 - 10 浄水処理と水道水質
 - 11 浄水処理と浄水処理施設
 - 12 飲料水試験
 - 13 学生発表前半
 - 14 学生発表後半
 - 15 健康リスクと政策
-
- 1 Introduction and risk case example
 - 2 Life, energy and pollution
 - 3 Links between environment & health
 - 4 Air pollution & health risk
 - 5 Air pollutants derived from automobile and their health risk
 - 6 Indoor air pollution & health risk
 - 7 Land pollution & health risk
 - 8 Protecting our bodies from pollution
 - 9 Overview of Japan's waterworks
 - 10 Water purification and water quality
 - 11 Water purification and facilities
 - 12 Practice of water quality tests
 - 13 Student presentation (group 1)
 - 14 Student presentation (group 2)
 - 15 Policy and health risk

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加と発表 40%
宿題(レポート) 60%

Active learning and presentation 40%
Assignments 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

翌週に使う科学的手法の確認を事前に行うこと。講義後には、復習を行うこと。
Prepare for the scientific method to be used in the next class. Review of the contents after each class is recommended.

履修上の注意 /Remarks

活発な討議を期待する。
使用言語は英語とする(英語による受講希望者がいない場合は日本語とすることがある)。
北九州周辺の廃棄物・水処理施設の見学を行う場合がある。その場合の交通費、見学費は受講生の負担とする。

Active participation in discussions is highly valued.
The official language is English.
Study visits to waste/water treatment facilities in or near Kitakyushu may be included. Transportation fees are payable by students.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

流体力学特論

(Advanced Fluid Mechanics)

担当者名 /Instructor 仲尾 晋一郎 / Shinichiro NAKAO / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC540S	◎	△	
科目名	流体力学特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

‘Compressibility’ is especially noticeable in high-speed gas flows observed in high-speed fluid machineries, for example turbo and ram jet engines, steam turbines, supersonic nozzles and gas pipelines etc. Therefore, the flow analysis taken account into compressibility is essential for investigating the flow in these fluid machineries. In class, the analysis method of compressible flows and the phenomena caused by compressibility are learned.

The abilities and objectives to be obtained in this lecture are as follows .

-Advanced specialized knowledge and skills:

To acquire basic knowledge on compressible fluid mechanics.

-Advanced problem solving and expression skills

To acquire the ability to independently investigate and summarize a given problem.

流体の密度変化の尺度を「圧縮性」という。圧縮性は主に気体の高速流れにおいて顕著に現れる。近年、ターボジェットエンジン、蒸気タービン、ノズルやディフューザ、ガス配管系などの内部流速の高速化に伴い、「圧縮性」を考慮した流れの解析が必要不可欠となってきた。本講義では、圧縮性流れの解析手法を学ぶとともに、「圧縮性」に起因した様々な現象について理解を深める。

「授業で得られる『学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）』、到達目標」は以下の通りになります。

高度な専門知識・技能：圧縮性流体力学に関する基礎知識を修得する。

高い問題解決能力と表現力：与えられた課題について、独自に調査し、まとめる能力を身に付ける。

教科書 /Textbooks

The materials will be distributed and announced in class.

資料は授業時に配布またはアナウンスされます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be announced in class.

授業中に適宜紹介する。

流体力学特論

(Advanced Fluid Mechanics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction
- 2 Conservation laws
- 3 Continuity and momentum equation
- 4 Steady flow energy equation
- 5 Use of the one-dimensional flow equations
- 6 Isentropic flow in a streamtube
- 7 Speed of sound and Mach wave
- 8 Presentation 1
- 9 One-dimensional isentropic flow
- 10 Stagnation condition
- 11 Shock wave
- 12 Stationary normal shock wave
- 13 Normal shock wave relations in terms of Mach number
- 14 The Pitot tube in supersonic flow
- 15 Presentation 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation 60%
Reports 40%

発表 60%
レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- It is desirable to do preparations for lessons and a review.
予習復習を行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

○Knowledge of fluid dynamics, fluid machinery and thermodynamics are needed for this course. Students who has never audited course in “Fluid dynamics I, Fluid dynamics II, Fluid machinery and Thermodynamics” can not attend this course. Students must audit course in “Fluid dynamics I, Fluid dynamics II, Fluid machinery and Thermodynamics” first, before attending this course.
流体力学，流体機械および熱力学の知識が必要です。「流体力学I，流体力学II，流体機械および熱力学」を未受講の学生は受講不可です。まずは「流体力学I，流体力学II，流体機械および熱力学」受講後，本講義を受講ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Aerodynamics, fluid dynamics, thermodynamics, compressible flows, speed of sound, Mach number, shock wave

燃焼工学特論

(Advanced Combustion Theory)

担当者名 /Instructor 吉山 定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC551S	◎	○	○
科目名	燃焼工学特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

到達目標：燃焼工学に関する応用的な知識を身につけている。燃焼工学に関連する課題について論理的に思考し、表現する力を身につけている。燃焼工学に関連する課題に対して主体的に行動できる姿勢を身につけている。

さまざまな熱機関や燃焼機器では、燃焼過程の流れ、化学種濃度、火炎などの計測が不可欠である。レーザ計測などの新しい計測法から従来の計測法を理解し、その利用方法について考察する。本講義を通じて、さまざまな計測手法を自ら調査し、その原理を理解し、自らの研究に利用できる能力を身につける。

The goals of this course are to acquire (1) the practical knowledge, (2) the logical thinking and expressive abilities, (3) the posture which come into action independently to the problems related to combustion engineering.

In heat power engines and combustion devices, gas flow, species concentration and flame front in the combustion chamber must be measured during the combustion process. In the class the traditional or new techniques for measuring these properties will be introduced and discussed. The objective of this class is to obtain the ability to investigate the new measuring technique, to understand the principle of measurement, and to use them for your own research.

教科書 /Textbooks

授業の最初に指示する。
To be announced in class

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業において適宜指示する。
To be announced in class

燃焼工学特論

(Advanced Combustion Theory)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 概要説明
 2. 流れの計測 (熱線流速計, レーザドップラ流速計など)
 3. 火炎の計測 (イオン電流, シュリーレン法, レーザトモグラフィ法など)
 4. 濃度の計測 (赤外吸収法, LIF法など)
 5. 計測例 その1 乱流予混合火炎のフラクタル解析
 6. 計測例 その2 イオン電流による燃焼センサの開発
 7. 実習I (レーザドップラ流速計による円板周速度の測定) 場所: 計測分析センター2階
 8. 実習II (レーザドップラ流速計による空気流速の測定) 場所: 計測分析センター2階
 9. 前半のまとめ (レポート①を提出とプレゼン)
 10. 内燃機関における燃焼計測 (PV線図, 図示平均有効圧, 図示熱効率)
 11. 内燃機関における燃焼計測 (熱発生率解析, 熱損失)
 12. 実習III (内燃機関の性能試験) 場所: 特殊実験棟2階
 13. 実習IV (内燃機関の筒内圧測定) 場所: 特殊実験棟2階
 14. レポート②を提出
 15. まとめ
-
1. Course overview
 2. Measurement of gas flow (HWA, LDA, PIV, etc.)
 3. Measurement of flame front (Ion current, Schlieren method, etc.)
 4. Measurement of concentration (IR, LIF, etc.)
 5. Example 1: Fractal analysis of turbulent premixed flames
 6. Example 2: Development of combustion sensors using ion current
 7. Experiment 1 【 Measurement of disk speed using LDA 】
 8. Experiment 2 【 Measurement of gas flow using LDA 】
 9. First report and short presentation
 10. Combustion Measurements in Internal Combustion Engines
(PV-diagram, Indicated Mean Effective Pressure, Thermal Efficiency)
 11. Combustion Measurements in Internal Combustion Engines
(Thermal Analysis of Heat Release and Heat Loss)
 12. Experiment 3 【 Test of power performance of internal combustion engine 】
 13. Experiment 4 【 Measurement of In-cylinder pressure in internal combustion engine 】
 14. 2nd report
 15. Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2回 100%
Two reports 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に燃焼工学, 熱力学などの復習をしておくこと。
 事後, 講義に関連する文献等を調査し, まとめておくこと。
 また, 実験後は実験データを適切に解析し, 報告書にまとめること。
 プレゼンで質疑応答を行った内容やプレゼン後の追加調査の結果を報告書に反映させること。
 Recommended to have reviewed Combustion Engineering and Thermodynamics before a lecture.
 To be announced in class.

履修上の注意 /Remarks

熱力学と燃焼工学を履修しておくこと。
 各自で演習を行い, 授業の内容を反復すること。
 Recommended to have mastered Thermodynamics and Combustion Engineering.
 Recommended to practice by yourself after a lecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

○流動光計測特論

(Advanced Optical Diagnostics for Compressible Flows)

担当者名 /Instructor 宮里 義昭 / Yoshiaki MIYAZATO / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC541S	◎		
科目名	流動光計測特論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

It has been widely recognized that the schlieren technique is one of the most useful method to visualize the density gradients in a transparent medium. One of the most popular applications is in the experimental study of supersonic flows because of its simple optical arrangement with a high degree of resolution and ability to easily observe such structures as shock waves, Prandtl-Meyer compression and expansion fans in supersonic jet flows. Also, this method for flow visualization does not require the introduction of additives into the flow field and is capable of providing useful qualitative information on the variations in fluid density, temperature, and static pressure. The purpose of this course is to provide students with a clear explanation of the physical phenomena encountered in compressible flows, to develop and understand optical measurements of compressible flows. Students learn the basics of quantitative flow visualization including rainbow schlieren deflectometry, Mach-Zehnder interferometers, and Twyman-Green interferometers, and so on.

The abilities and objectives to be obtained in this lecture are as follows .

-Advanced specialized knowledge and skills:

To acquire specialized knowledge of optics and techniques for optical measurement of compressible fluids.

教科書 /Textbooks

To be announced in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be announced in class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Guidance
- 2 Introduction to compressible flows
- 3 Laval nozzle flows and supersonic jets
- 4 Geometrical optics and wave optics
- 5 Shadowgraph techniques
- 6 Grey scale schlieren and color schlieren techniques
- 7 Laser interferometry
- 8 Rainbow schlieren deflectometry
- 9 Application of optical techniques for compressible flows
- 10 Academic presentation on flow visualization Part 1
- 11 Academic presentation on flow visualization Part 2
- 12 Academic presentation on flow visualization Part 3
- 13 Academic presentation on flow visualization Part 4
- 14 Academic presentation on flow visualization Part 5
- 15 Academic presentation on flow visualization Part 6

○流動光計測特論

(Advanced Optical Diagnostics for Compressible Flows)

成績評価の方法 /Assessment Method

Reports and exceries 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

To be announced in class.

履修上の注意 /Remarks

Knowledge of compressible fluid dynamics is needed for this course.
Students who has never audited course in "Advanced Fluid Mechanics" can not attend this course.
Students must audit course in "Advanced Fluid Mechanics" first, before attending this course.
It is desirable for there to be fundamental knowledge about geometrical optics.
The contents of the syllabus may change depending on the progress and understanding of the lecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

As for the student attending a lecture of this course, it is raised reading and understanding ability of specialty English.

キーワード /Keywords

geometrical optics, optical measurements, schlieren techniques, fluid mechanics, compressible flows.

○伝熱工学特論

(Advanced Heat Transfer)

担当者名 /Instructor 井上 浩一 / Koichi INOUE / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC552S	◎	○	○
科目名	伝熱工学特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

伝熱研究の実例について詳細学習するとともに、最新の発電技術の開発状況について調査・発表を行う。
Practical heat transfer research topics and latest power generation technologies are investigated.

到達目標

Specific Targets in Focus

伝熱工学に関する専門知識を身につけるとともに、伝熱工学に関する課題に対して総合的に検討するとともに、自分の考えを的確に表現することができる。また伝熱工学に興味を持ち、自律したエンジニアとして課題に取り組む姿勢を身につけている。

Acquire advanced knowledge on heat transfer engineering and the ability to comprehensively consider heat transfer issues and to approach practical problems as a professional engineer

教科書 /Textbooks

なし
None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
None

○伝熱工学特論

(Advanced Heat Transfer)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概要 (伝熱研究と次世代発電技術)
- 2 伝熱工学に関連した従来研究の調査 (1) 【自由対流】
- 3 伝熱工学に関連した従来研究の調査 (2) 【強制対流】
- 4 伝熱工学に関連した従来研究の調査 (3) 【沸騰】
- 5 伝熱工学に関連した従来研究の調査 (4) 【凝縮】
- 6 伝熱工学に関連した従来研究の調査 (5) 【熱交換器】
- 7 伝熱工学に関連した従来研究の調査 (6) 【電子機器】
- 8 伝熱工学に関連した従来研究の調査 (7) 【自動車】
- 9 次世代発電技術の調査発表 (1) 【石炭火力発電】
- 10 次世代発電技術の調査発表 (2) 【石炭ガス化発電】
- 11 次世代発電技術の調査発表 (3) 【ガスタービン発電】
- 12 次世代発電技術の調査発表 (4) 【原子力発電】
- 13 次世代発電技術の調査発表 (5) 【バイオマス・廃棄物発電】
- 14 次世代発電技術の調査発表 (6) 【太陽熱発電】
- 15 まとめ

- 1 Introduction (heat transfer research and power generation technology)
- 2 Heat transfer research topic 1 [natural convection]
- 3 Heat transfer research topic 2 [forced convection]
- 4 Heat transfer research topic 3 [boiling]
- 5 Heat transfer research topic 4 [condensation]
- 6 Heat transfer research topic 5 [heat exchanger]
- 7 Heat transfer research topic 6 [electronics cooling]
- 8 Heat transfer research topic 7 [automotive thermal technology]
- 9 Survey on future power generation technology 1 [coal fired power generation]
- 10 Survey on future power generation technology 2 [coal gasification]
- 11 Survey on future power generation technology 3 [gas turbine]
- 12 Survey on future power generation technology 4 [nuclear power generation]
- 13 Survey on future power generation technology 5 [biomass and waste power generation]
- 14 Survey on future power generation technology 6 [solar thermal power generation]
- 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Reports 50%
Presentation 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students have to investigate on the recent researches and technologies on the designated topics in advance.

履修上の注意 /Remarks

Students are required to have the fundamental knowledge of hydrodynamics and heat transfer.
Preparations and reviews for the lectures are necessary.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

heat transfer, power generation, thermal system

○熱力学特論

(Advanced Thermodynamics)

担当者名 /Instructor 泉 政明 / Masaaki IZUMI / 機械システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 受講人数に制限があります。/There is a limit to the number of participants. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC550S	◎	△	○
科目名	熱力学特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では燃料電池を主に熱力学的側面から学ぶ。まず、燃料電池の動作特性（開回路電圧、効率、動作電圧など）、およびその性能を決定する物理的要因を理解する。次に近年普及が進む固体高分子形燃料電池の構造、特徴を把握した上で、幾つかのシステムを学ぶ。本授業は以下の能力を身につけることを目標とする。機械工学のエネルギーシステム分野における熱力学の実践的な知識を修得する。エネルギー機器の開発・設計にあたって、環境との調和に配慮することができる思考力・判断力を身につける。環境問題に対して、エネルギー機器の技術開発に強い関心と意欲を持つ。

The aim of this course is to understand fuel cells thermodynamically. First, this course is designed to learn the operating features of fuel cells (open circuit voltage, efficiency, operational voltage etc.) and physical factors that determine their performance. The next step is to learn structures, features and systems of polymer electrolyte fuel cells that are spreading recently. The goal of this class is to acquire the following abilities. Practical knowledge of thermodynamics in the field of energy systems of mechanical engineering is acquired. Students put on the high thinking power and judgement in the harmony with the environment in development and design of energy equipment. Students have a strong interest and motivation for technological development of energy equipment for environmental problems..

教科書 /Textbooks

資料配布 (英文)
Handout (in English)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

To be announced in class

○熱力学特論

(Advanced Thermodynamics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 講義の概要
 - 2 燃料電池 (基礎原理、電流を制限する要因)
 - 3 燃料電池 (構造)
 - 4 燃料電池 (ガス供給と冷却)
 - 5 燃料電池 (種類)
 - 6 燃料電池 (システム)
 - 7 燃料電池 (開回路電圧、効率)
 - 8 燃料電池 (動作電圧)
 - 9 実習1 (発電実験)
 - 10 実習1の結果についての発表
 - 11 固体高分子形燃料電池 (電解質、電極)
 - 12 固体高分子形燃料電池 (水管理)
 - 13 固体高分子形燃料電池 (加湿法)
 - 14 実習2 (性能測定)
 - 15 実習2の結果についての発表
-
- 1 Introduction
 - 2 Fuel Cell (Basic Principle, What Limits the Current?)
 - 3 Fuel Cell (Structure)
 - 4 Fuel Cell (Gas Supply and Cooling)
 - 5 Fuel Cell (Fuel Cell Types)
 - 6 Fuel Cell (Systems)
 - 7 Fuel Cell (Open Circuit Voltage, Efficiency)
 - 8 Fuel Cell (Operational Fuel Cell Voltage)
 - 9 Exercise1 (Power Generation Experiments)
 - 10 Presentation on the Results of Exercise1
 - 11 Polymer Electrolyte Fuel Cell (Electrolyte and Electrodes)
 - 12 Polymer Electrolyte Fuel Cell (Water Management)
 - 13 Polymer Electrolyte Fuel Cell (Humidification)
 - 14 Exercise2 (Measurement of Fuel Cell Performance)
 - 15 Presentation on the Results of Exercise2

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート20%
期末試験 50%

Participation 30%
Report 20%
Examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義資料 (英文) を読み予習しておくこと。また、演習問題を解き復習すること。

Students are required to read the handouts (in English) and prepare for the class, and to solve review exercises.

履修上の注意 /Remarks

熱力学 (エントロピーを含む) を履修済みであること。
受講人数上限20名

Students are required to have completed 'Thermodynamics (including Entropy)'.
The upper limit of student numbers is 20.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

我々のエネルギー利用を持続可能なものにする燃料電池技術をより理解してもらえることを希望します。

I hope you understand better the fuel cell technology that enables our use of sustainable energy.

キーワード /Keywords

熱力学、燃料電池、発電

Thermodynamics, Fuel Cell, Power Generation

○ 制御工学特論

(Advanced Control Engineering)

担当者名 /Instructor 清田 高德 / Takanori KIYOTA / 機械システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC561S	◎	△	
科目名	制御工学特論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

機械エンジニアとして必要な制御工学に関する基本知識を修得することを目的とする。本講義では、状態空間法に基づく現代制御理論、最適制御、デジタル制御、それにロバスト制御の基礎について学ぶ。また、制御工学に関する英語文献の輪読を行う。到達目標は以下の通りです。

- 高度な専門的知識・技能：制御工学に関する実践的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 高い問題解決能力と表現力：制御工学について、論理的に思考して解決策を探求し、それを表現することができる。

The aim of this course is to study basic knowledge on control engineering which is necessary for mechanical engineers. In this course, fundamentals of the modern control theory based on the state-space method, the optimal control, the digital control, and the robust control are learned. Furthermore, English papers on control engineering are read.

Specific targets in focuses are as follows:

- To acquire practical knowledge about the control engineering systematically and generally.
- To consider logically, search a solution, and express it, about control engineering.

教科書 /Textbooks

「はじめての現代制御理論」(佐藤和也ほか共著、講談社) 予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学部の講義で使用した教科書

Text used in undergraduate course.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス Introduction
- 制御工学の復習 Review of Control Engineering
- システムの表現 Expression of Systems
- モデリング Modeling
- 状態空間法 State Space Method
- レギュレータと極配置 Regulator and Pole Assignment
- オブザーバ Observer
- サーボ系 Servo System
- 最適化理論の基礎 Fundamentals of Optimization Theory
- 最適制御 Optimal Control
- デジタル制御 Digital Control
- 離散時間系 Discrete-Time System
- 英語文献輪読 (1) English Paper Reading (1)
- 英語文献輪読 (2) English Paper Reading (2)
- まとめ Conclusions

○ 制御工学特論

(Advanced Control Engineering)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 30% Examination 30%
レポート 30% Reports 30%
課題と演習 40% Homework and Exercise 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

学部の「制御工学」の基礎知識を有することが前提なので、復習をして講義にのぞむこと。
毎回の復習では、課題に取り組むだけでなく、理論を理解すること。

As it is preredquired to have basics on "Control Engineering" in undergraduate course, review it again before lecture.
In review of each class, it is required not only to do the homework, but also to understand the theory.

履修上の注意 /Remarks

大学で「制御工学」を履修していることが必要。

It is required to have studied "Control Engineering" in undergraduate course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロボットはもちろん、自動車や各種プラントなどの機械システムでは、様々なタイプの制御が重要な役割を果たしています。制御理論を学ぶには、数学の基礎知識が不可欠です。

Various types of control have an important role in mechanical systems such as robots, automobiles, plants.
To learn control theory, fundamentals of mathematics are required.

キーワード /Keywords

制御系設計、伝達関数法、状態空間法、状態フィードバック制御、最適制御

design of control system, transfer function, state-space method, state feedback control, optimal control

メカトロニクス特論

(Advanced Mechatronics)

担当者名 /Instructor 山本 元司 / Motoji YAMAMOTO / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course. 受講人数に制限があります。/There is a limit to the number of participants. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC571S	◎	△	
科目名	メカトロニクス特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日、自動車、家電製品、環境制御機器、工作機械、ロボット、工場プラントの各種自動化機器などのほとんどの機械システムは、コンピュータによって知能化、システム化されて、いわゆるメカトロニクス機械となっている。このメカトロニクス機械において基本となる、コンピュータと機械のインタフェース技術は今日の様々な分野での工学技術においてもきわめて重要となっている。そこでここではこのコンピュータと機械のインタフェース手法を中心としてメカトロニクスのためのハードウェアの基礎を習得する。学習効果を高めるために、基本的なメカトロニクスのための電気回路も製作し、メカトロニクス機器の実際の動作を確認する。

These days, most machines such as cars, home electronic appliances, machine tools, robots, and automation machines are controlled by computers. These machines become intelligent ones by the computer's program. Such machines are called as "mechatronics" machines. We will learn basic ideas of the computer and interface techniques between the computer and the machines, which are very important in the mechatronics. For an efficient learning the mechatronics, this course also gives some experiments of some digital electronic circuits.

「授業で得られる『学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）』、到達目標」は以下の通りになります。
 高度な専門知識・技能：メカトロニクスに関する実践的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
 高い問題解決能力と表現力：メカトロニクスについて、論理的に思考して解決策を探求し、それを表現することができる。

The abilities and objectives to be obtained in this lecture are as follows .
 -Advanced specialized knowledge and skills:
 To acquire comprehensive knowledge of mechatronics systematically and practically.
 -Advanced problem solving and expression skills
 To be able to think logically, explore solutions to mechatronics problems.

教科書 /Textbooks

メカトロニクスのためのコンピュータインタフェース
 山本元司
 (生協書籍等で販売する予定です)

Textbook will be sold in the university book store. All you get this course must buy the text book "Computer Interfaces for Mechatronics"

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に実習用テキストと参考資料を配布します。
 To be announced in the class.
 その他参考図書は授業中に適宜知らせます。
 Other reference books are noticed in the course.

メカトロニクス特論

(Advanced Mechatronics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 メカトロニクス概要 (メカトロニクス技術が応用されている例)
- 2 受動素子 (抵抗、コンデンサ、コイル)
- 3 能動素子 (ダイオード、トランジスタ、FET)
- 4 論理回路、NAND回路、TTL、CMOSとデジタルIC
- 5 デジタル回路I (フリップフロップ)
- 6 デジタル回路II (カウンタ、レジスタ)
- 7 アナログ回路I (オペアンプ)
- 8 アナログ回路II (A/D、D/Aコンバータ)
- 9 マイクロコンピュータ動作の基礎
- 10 マイクロコンピュータインタフェース
- 11 DCモータ、ACモータ、ステップモータ
- 12 センサとセンサインタフェース
- 13 割り込みとハードウェア制御プログラム
- 14 シーケンス制御とフィードバック制御
- 15 まとめ

- 1 Introduction of mechatronics
- 2 Passive devices (resistance, capacitor, coil)
- 3 Active devices (diode, transistor, FET)
- 4 Logic circuit and NAND circuit, TTL, CMOS, and digital IC
- 5 Digital circuit 1 (Flip-flop)
- 6 Digital circuit 2 (Counter, Register)
- 7 Analog circuit 1 (Op amp)
- 8 Analog circuit 2 (A/D, D/A converter)
- 9 Basics of microcomputer
- 10 Interface of microcomputer
- 11 DC motor, AC motor, Stepping motor
- 12 Motor control circuit and sensor interface
- 13 Interruption and hardware program
- 14 Sequence control and feedback control
- 15 Summaries

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 (ミニ実験) 40%、レポート 60%で評価する。
Assignment 40%, Report 60%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習は授業中に指示される。
Preparation and Review will be noticed in the course.

履修上の注意 /Remarks

実習にはノートPCを使用して配布するマイコンを動作させますので、各自ノートPCを準備の事。
その他は授業中に予習内容を伝える。
Prepare a lap top PC for the experiments using micro processor for each in the class.
To be announced in the class for the others.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究室での研究活動および就職後での実験装置等、自動化機器の設計・製作のための基礎知識、理論、実践能力の涵養を目的としています。コンピュータ周りのハードウェアについて知りたい人はぜひ受講してください。

The objective of the course is to provide students with the basic knowledge and understanding for designing automatic machines and computer controlled experimental setups necessary in student's laboratory or in student's future job.
Please take this course if students have an interest in this field.

キーワード /Keywords

Mechatronics, Computer, Hardware, Actuator, Sensor

設計工学特論

(Advanced Design Engineering)

担当者名 /Instructor 趙 昌熙 / Changhee CHO / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 受講人数に制限があります。/There is a limit to the number of participants. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC530S	◎	△	
科目名	設計工学特論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

有限要素法は工学の諸分野において幅広く応用され、これらの分野の研究者・技術者にとっては不可欠のものとなっています。本授業では有限要素法の「理論的背景」と「実用的スキル」について学習します。到達目標は以下のとおりです。

- ・有限要素法に関する専門的な知識を修得し、構造解析の問題に有限要素法を応用することができる。
- ・解析結果について論理的に思考し、的確に説明することができる。

The finite element method (FEM) is the most widely applied computer simulation method in all areas of engineering and has become one of the most important and useful tools for scientists and engineers. This is an introductory course in the FEM. This course aims to understand theoretical background of the FEM and to practice realistic engineering problems through computational simulations using a major commercial finite element code. The goals of this course are as follows.

- ・ To acquire professional knowledge about finite element method (FEM), and to acquire ability to apply FEM to practical problem of structural analysis.
- ・ To acquire logical thinking ability and accurate expression ability about analysis results.

教科書 /Textbooks

『有限要素法入門』（三好俊郎 著）培風館 ¥3,200+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

To be announced in class.

設計工学特論

(Advanced Design Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ANSYSの概要
- 2回 解析モデルの作成
- 3回 境界条件の定義と解析の実行
- 4回 解析結果の表示
- 5回 ソリッドモデルの作成・要素分割
- 6回 解析実習
- 7回 有限要素法の特徴と注意点
- 8回 有限要素法の概要
- 9回 有限要素法の数学的基礎
- 10回 剛性マトリックスの概念
- 11回 弾性体の支配方程式
- 12回 有限要素法の適用
- 13回 課題のプレゼンテーション I
- 14回 課題のプレゼンテーション II
- 15回 まとめ

1. Introduction to ANSYS
2. Building the model
3. Loading and solution
4. Reviewing the results
5. Building and meshing the solid model
6. Practice of FEA
7. Limitations of FEM
8. Introduction to FEM
9. Mathematical fundamentals of FEM
10. Stiffness matrix
11. Governing equations of an elastic body
12. Application of FEM
13. Presentation I
14. Presentation II
15. Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートとプレゼンテーション …… 60%
 日常の授業への取り組み …… 40%

Report and presentation …… 60%
 Attendance and participation …… 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業終了後には解析の自主練習を行うこと。

Do voluntary practice of the analysis after each class.

履修上の注意 /Remarks

本講義は有限要素法による構造解析の未経験者もしくは初心者を対象とする。
 本授業では、学生各自が興味ある構造解析の問題を自由に決めて解析を進め、学期末には解析した内容のレポートを作成し、プレゼンテーションを行う。

This is a beginner's course in the structural analysis by the finite element method.
 In this class, each student selects an interesting problem of structural analysis, makes a report on the analyzed problem, and gives a presentation at the end of the term.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

None

キーワード /Keywords

設計、構造解析、有限要素法

Design, Structural Analysis, Finite Element Method (FEM)

○加工学特論

(Advanced Manufacturing Processes)

担当者名 /Instructor 村上 洋 / Hiroshi MURAKAMI / 機械システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 受講人数に制限があります。/There is a limit to the number of participants. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC520S	◎	△	△
科目名	加工学特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、精密加工および精密測定方法に関する基礎知識を修得するとともに最新の研究状況を調査することを目的とする。切削・研削・放電・レーザー加工などを用いた精密加工技術の原理原則について理解する。また、非接触式および接触式の各種精密測定手法について紹介する。

到達目標を以下に示す。

- ・ 超精密加工法や超精密測定法など精密加工に必要な実践的知識および技術開発能力を身につけている。
- ・ 環境対応加工技術などの実践的知識を修得し、環境を踏まえて広い視野で新たな問題に対処することができる思考力および判断力を身につけている。
- ・ 新たな省エネルギー関連技術への関心と意欲を持ち続け、機械技術者として加工分野での省エネルギー技術習得に主体的に行動できる姿勢を身につけている。

The aim of this course is to study fundamental knowledge and latest research topics for precision machining and precision measurement. The principle of the ultra precision and micro machining using cutting, grinding, electric discharge machining, and laser machining are learned. Furthermore, various no-contact and contact measurement methods are introduced.

Achievement targets are as follows:

- ・ Students have practical knowledge and technical development skills necessary for precision machining, such as ultra-precision machining and ultra-precision measurement.
- ・ Students have practical knowledge such as environmentally friendly machining technology, and acquire the ability to think and make decisions that enable them to deal with new problems from a broad perspective based on the environment.
- ・ Students continue to be interested and motivated in new technology of energy efficiency, and have the attitude to act proactively as mechanical engineers to acquire the technology of energy efficiency in the machining field.

教科書 /Textbooks

プリント配布

The print is distributed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

None

○加工学特論

(Advanced Manufacturing Processes)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 序論
 - 2 精密加工 (1) 【切削】
 - 3 精密加工 (2) 【研削, CMP】
 - 4 微細加工 (1) 【切削, 研削】
 - 5 微細加工 (2) 【レーザー, FIB】
 - 6 微細加工 (3) 【放電】
 - 7 精密測定 (1) 【CMM, マイクロCMM】
 - 8 精密測定 (2) 【表面性状測定, 真円度測定】
 - 9 精密測定 (3) 【SPM】
 - 10 CAD
 - 11 CAE
 - 12 CAM
 - 13 研究発表会 (1) 【グループ 1】
 - 14 研究発表会 (2) 【グループ 2】
 - 15 研究発表会 (3) 【グループ 3】
-
1. Introduction
 2. Precision machining (1) 【Cutting】
 3. Precision machining (2) 【Grinding, CMP】
 4. Mirco machining (1) 【Cutting, Grinding】
 5. Mirco machining (2) 【Laser machining, FIB】
 6. Mirco machining (3) 【EDM】
 7. Precision measurement (1) 【CMM, μ CMM】
 8. Precision measurement (2) 【Surface roughness, Roundness】
 9. Precision measurement (3) 【SPM】
 - 10 CAD
 - 11 CAE
 - 12 CAM
 13. Meeting for reading research papers (1) 【Group1】
 14. Meeting for reading research papers (2) 【Group2】
 15. Meeting for reading research papers (3) 【Group3】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
レポート 80%

Participation 20%
Report 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の前後に指示する範囲を予習・復習すること
Review and prepare for the area indicated before and after a lecture.

履修上の注意 /Remarks

履修しておくことが必要となる科目：加工学
受講人数上限20名

Required preparatory study: Manufacturing Processes
Maximum Number of Students: 20

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生産加工技術は、要求される機能、品質およびコストを満足する機械部品を製作するために不可欠な基盤技術である。

The production processing technology is a basic technology indispensable to produce the machine section that satisfies demanded function, quality, and cost.

キーワード /Keywords

超精密加工、微細加工、精密測定
Ultra precision machining, Micro machining, Precise measurement

材料力学特論

(Advanced Mechanics of Materials)

担当者名 /Instructor 長 弘基 / Hiroki CHO / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC510S	◎	△	
科目名	材料力学特論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、工業製品の設計のための材料力学と材料工学について、実際の工業製品(主にばね)を例として学習する。また、機能性材料を用いた工業製品の理論および設計についても学習する。

【到達目標】

- ・ 製品設計に用いられる材料力学の専門的・実践的知識を身につけている
- ・ 修得した材料力学の専門的・実践的知識をもとに実際の製品設計をすることができ、かつ自身が会得したものをまとめ、表現することができる

Mechanics of materials and the materials engineering for designs of industrial products (for example springs) are to be lectured. In addition, theory and design of the industrial products using functional materials are to be lectured.

【Attainment target】

- ・ Specialized and practical knowledge of mechanics of materials used in product design is acquired.
- ・ Students will be able to design actual products based on the specialized and practical knowledge of mechanics of materials they have acquired, and will be able to summarize and express what they have learned.

教科書 /Textbooks

プリント配布

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指定しない

None

材料力学特論

(Advanced Mechanics of Materials)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 序論
2. 材料の構成式
3. 各種材料の特性
4. ばねの設計のための理論
5. ばねの設計 (1) [圧縮・引張コイルばね]
6. ばねの設計 (2) [皿・薄板ばね]
7. ばね制作体験およびばねを使用した機械の企画
8. ばね制作プレゼンテーション(1)
9. ばね制作プレゼンテーション(2)
10. ばねの製作実習 (1)
11. ばねの製作実習 (2)
12. ばねの製作実習 (3)
13. ばねの製作実習 (4)
14. ばねの製作実習 (5)
15. まとめ

1. Introduction
2. Constitutive Equation of Materials
3. Properties of Various Materials
4. Theory for Design of Spring
5. Design of Springs (1) (Compression and Tension Spring)
6. Design of Springs (2) (Conical and Blade Spring)
7. Experience Self-handiwork for Manufacturing of Springs and Planing of Machines using Springs
8. Presentation (1)
9. Presentation (2)
10. Manufacturing Practice of Springs (1)
11. Manufacturing Practice of Springs (2)
12. Manufacturing Practice of Springs (3)
13. Manufacturing Practice of Springs (4)
14. Manufacturing Practice of Springs (5)
15. Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

製作実習, 発表プレゼンおよびレポート 80%
積極的な授業参加 20%

Manufacturing Practice and Presentation 80%
Participation 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習を行うこと。
また授業終了後に課題を提示するので、それを実施すること。

Prepare for the class.
Moreover, do the presented assignment after class.

履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションはパワーポイントにて行なうため、使用・操作方法を事前に勉強しておくこと。

Prepare for numerical computation by "Microsoft Powerpoint" for Meeting for reading research papers.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

材料力学と材料工学は、実際の工業製品を設計・製作するのに必要不可欠な知識です。日常で使用している製品がどのように設計されているかなど、自ら考える習慣をつけて下さい。

The mechanics of materials and the materials engineering are essential knowledge and skills for designing industrial products. Please cause oneself to consider the design of the product for daily life.

キーワード /Keywords

材料の構成式、ばね、機能性材料

Constitutive Equation of Materials, Spring, Functional Material

○機械要素設計特論

(Advanced Machine Element Design)

担当者名 /Instructor 宮國 健司 / Takeshi MIYAGUNI / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 受講人数に制限があります。/There is a limit to the number of participants. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC531S	◎	△	△
科目名	機械要素設計特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

多種多様な機械部品を加工するために、加工原理、加工機構および加工現象について理解し、機能やコストに応じた加工法の選択を的確に判断できるようになる。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 様々な機械要素に関する基礎的な専門知識を身につけている。
- ・ 多種多様な機械部品を加工するための機械要素設計について、総合的に理解し、得た知識を論理的に表現することができる。
- ・ 機械システム設計への興味と関心を持ち続け、機械系エンジニアとして取り組む意欲を有している。

It is the course objective that the student understands a processing principle, a processing machine style, and a processing phenomenon in order to process various machine parts, and can judge now exactly the selection of the processing method according to a function or cost.

Attainment targets in focuses are as follows:

- ・ To acquire the basic specialist knowledge of various machine elements.
- ・ A comprehensive understanding of machine elements design for machining a wide variety of machine parts and the ability to express the knowledge gained logically.
- ・ To have a maintain an interest in mechanical system design and be motivated to become a mechanical engineer.

教科書 /Textbooks

資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介します。

○機械要素設計特論

(Advanced Machine Element Design)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回：塑性という現象
2回：応力とひずみ
3回：降伏条件
4回：初等解法
5回：有限要素法
6回：回転加工
7回：復習問題
8回：板材成形最前線
9回：3D-CADの紹介
10回：3D-CADの活用例
11回：3D-CADの活用討議
12回：3D-CADの実践
13回：3D-CADの応用
14回：3D-CADの実践討議
15回：まとめ

1 : About a Phenomenon as Plasticity
2 : Stress and Strain
3 : Yield Condition
4 : Elementary Solution
5 : Finite Element Method
6 : Rolling
7 : Review
8 : The forefront of sheet metal forming
9 : Outline of 3D-CAD
10 : The example of practical use 3D-CAD
11 : Discussion about the example of practical use 3D-CAD
12 : The practice of 3D-CAD
13 : Forming form 3D-CAD
14 : Discussion about the practice of 3D-CAD
15 : Conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み状況(演習問題)：40%、最終課題レポート：60%

Participation(Practice Problems)：40%、Final Report Assignment：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の前後に指示する範囲を予習・復習すること。

Preparation and review is needed for the area indicated before and after the lecture.

履修上の注意 /Remarks

履修定員：20名

The participants are restricted to 20 students .

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生産加工技術は、要求される機能、品質およびコストを満足する機械部品を製作するために不可欠な基盤技術である。

The production processing technology is a basic technology indispensable to produce the machine section that satisfies demanded function, quality, and cost.

キーワード /Keywords

機械要素、塑性加工、3D-CAD

Machine Elements、Plasticity Processing、3D-CAD

○システム工学特論

(Advanced Systems Engineering)

担当者名 /Instructor 岡田 伸廣 / Nobuhiro OKADA / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 受講人数に制限があります。/There is a limit to the number of participants. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC570S	◎	○	△
科目名	システム工学特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、新規なロボットの製作を題材として、計算機を用いた3D設計、3Dプリンタによる部品の製作を行います。それらを通して、システム開発の概要を学びます。
到達目標は以下の通りです。
高度な専門的知識・技能： システムの構築に関する幅広い専門的な知識を身につけている。
高い問題解決能力と表現力： メカトロニクスシステムについて総合的に考察し、自分の考えを的確に説明し、また機械の設計として表現することができる。
高い倫理観に基づいた自律的行動力： 機械システムの構築に興味を持ち、機械システムエンジニアとして取り組む姿勢を身につけている。
The course focuses on the 3D parts designing by computer and the parts manufacturing by 3D printer, adopting something new robot as a subject. Through the process, students will study the outline of system developments.
The targets are as follows.
To acquire wide and technical knowledge about system construction.
To consider overall about mechatronics systems, to explain the idea accurately, and to explain the idea as a mechanical design.
To have an interest in mechanical system construction and in studies of mechanical system engineering.

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じてプリント配布。
None. Documents will be served as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

SolidWorksによる3次元CAD 第2版, 門脇重道ら, 実教出版, 2012年

○システム工学特論

(Advanced Systems Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 新規なロボットの検討
- 第3回 3D CAD使用法
- 第4回 ロボット検討内容のレビュー
- 第5回 ロボットの概略設計 1
- 第6回 ロボットの概略設計 2
- 第7回 概略設計のレビュー
- 第8回 ロボットの詳細設計 1
- 第9回 ロボットの詳細設計 2
- 第10回 ロボットの詳細設計 3
- 第11回 詳細設計のレビュー
- 第12回 3Dプリンタの説明, 部品製作
- 第13回 ロボットの製作
- 第14回 ロボットの評価
- 第15回 まとめ, 発表

- 1 Guidance
- 2 New robot concepts Outlines
- 3 Tutorial of 3D CAD
- 4 New robot concepts Review of outlines
- 5 New robot rough design 1 Rough design
- 6 New robot rough design 2 Rough design
- 7 New robot rough design Review of rough designs
- 8 New robot detailed design 1 Detailed design
- 9 New robot detailed design 2 Detailed design
- 10 New robot detailed design 3 Detailed design
- 11 New robot detailed design Review of detailed designs
- 12 3D printer, Parts manufacturing
- 13 Fabrication of robots
- 14 Evaluation of the robots
- 15 Summary and Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

発表：50点，レポート：50点（第7回，15回後にレポートを課します）
遅刻・欠席は減点します。
Presentation 50%, Report 50% (Reports are imposed on final of the 7th and 15th lessons).
The points will be subtracted by lateness and absence.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書等の学習，授業内容の復習を行うこと。
Do the learning such as reading which are useful for understanding the class, and review the class.

履修上の注意 /Remarks

使用するソフトウェアのライセンス数から，受講者を20名に制限します。そのため，受講希望者は必ず第1回目の講義に出席してください。第1回目の講義に出席しなかった場合は，受講できない可能性があります。
また，ロボット製作に際し，ある程度の部品代負担を求める場合もあります。
授業以外の時間帯に，各自でソフトウェア使用法の習熟と，必要な設計・検討をしてください。
By the number of licenses of used software, the participants are restricted to 20 students. Therefore, students who want to apply this class MUST ATTEND the FIRST LECTURE. Without attending the first lecture, the student might not apply the class.
It may ask for a certain amount of cost on the robot parts.
Students are required to do practice on the software, and designing and consideration on the robot, except the lectures.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロボット・メカトロニクスの分野に限らず，研究・産業の領域では3Dプリンタの導入が進んでいます。その片鱗に触れるとともに，ロボットの製作を通してシステム工学を学んでください。
Introduction of 3D printer is progressing in the domain of not only the field of robot and mechatronics but also many field of research and industry. Touching the basis of the technology, please study system engineering through manufacture of a robot.

キーワード /Keywords

3D CAD，3Dプリンタ，移動ロボット
3D CAD, 3D printer, Mobile robot

○機械力学特論

(Advanced Mechanical Dynamics)

担当者名 /Instructor 佐々木 卓実 / Takumi SASAKI / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC560S	◎	△	
科目名	機械力学特論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、システムの平衡点と安定性、分岐現象、線形・非線形振動の特徴を解説します。具体的な例を用いながら、現象を理解し、解析する方法を解説します。また、機械力学に関する文献読むことで理解を深めます。

到達目標は以下とします。

高度な専門知識・技能：機械力学問題に関する幅広い専門知識を身につけている。

高い問題解決能力と表現力：機械力学に関する課題を理解し、解決するための方法を論理的に説明できる。

This course provides the explanation of an equilibrium point of a system and its stability, bifurcation phenomenon, vibration characteristics of linear / nonlinear systems. These explanations are given using some concrete examples. Some literatures are provided to promote an understanding.

Attainment targets of this course are as follows:

Specialist knowledge and skills: To acquire comprehensive knowledge of problems of mechanical dynamics.

Advanced problem-solving and expressive abilities: To be able to understand mechanics problems and give logical explanation for solving problems.

教科書 /Textbooks

資料配布

Handout

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

None

○機械力学特論

(Advanced Mechanical Dynamics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概説
 - 2 システムの平衡点
 - 3 平衡点の安定性
 - 4 平衡点の分岐
 - 5 種々の分岐現象
 - 6 動的システムの分岐現象
 - 7 線形系の振動
 - 8 非線形系の振動
 - 9 非線形系の振動解析法
 - 10 文献調査
 - 11 文献調査
 - 12 文献調査
 - 13 文献調査
 - 14 文献調査
 - 15 まとめ
-
- 1 Overview of the course
 - 2 Equilibrium point of a system
 - 3 Stability of an equilibrium point
 - 4 Bifurcation of an equilibrium point
 - 5 Types of a bifurcation
 - 6 Bifurcation of a dynamic system
 - 7 Vibration of a linear system
 - 8 Vibration of a nonlinear system
 - 9 Vibration analysis methods for a nonlinear system
 - 10 Literature survey
 - 11 Literature survey
 - 12 Literature survey
 - 13 Literature survey
 - 14 Literature survey
 - 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 50%
発表・発表資料・レポート 50%
欠席 減点
Exercises: 50%
Presentation, Presentation materials, Report: 50%
Absence: Deduction of points

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定するテキストを熟読すること。授業終了後はノートを読み返し復習すること。
You should read carefully a designated textbook before class and review notes after class.

履修上の注意 /Remarks

機械力学、機械振動学の基礎知識があること。
The fundamental knowledge of dynamics and mechanical vibration is required.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

先端工学特論

(Advanced Leading Engineering)

担当者名 /Instructor 金本 恭三 / Kyozo KANAMOTO / 環境技術研究所, 池田 卓矢 / Takuya IKEDA / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MEC500S	◎	○	○
科目名	先端工学特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

目的：社会の様々な機械システムやプラントなどにおける予知保全システムを実現するための技術に関連して先端技術を総合的に学ぶ。
 内容：講義ではパワーエレクトロニクス分野への適用を目指した研究を例にしながら半導体素子、疲労劣化、信頼性評価、AEモニタリング、IoTによるデータ収集、AI技術による故障判断などの先端知識を説明する。
 さらに受講生には自分の研究に関連する分野から事例を選び調査した結果を発表しレポートにまとめて提出する課題が与えられる。
 到達目標：
 1. 機械システムの保全に関する基礎的な知識を総合的に身につけている。高感度センサー、IoT、AI技術を用いた新しい保全技術の導入に必要な情報を収集、分析することができるようになる。
 2. 新しい保全技術について、学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、各自の専門的見地から適用案を提言することができるようになる。
 3. 社会における機械システムの安定運用への関心とキャリア意識を持ち続け、高度な運用方法の実現に向けて貢献できる姿勢を身につける。

Purpose: Comprehensively learn advanced technologies related to technologies for realizing predictive maintenance systems in various social systems and plants.

Contents: The lecture will explain advanced knowledge on semiconductor devices, fatigue deterioration, reliability evaluation, AE monitoring, data collection by IoT, failure judgment by AI technology, etc., using examples of research aimed at application to the power electronics field. Students are also given the task of selecting examples from fields relevant to their research, presenting the results of the survey, and submitting them in a report.

Attainment target:
 1. Students comprehensively acquire basic knowledge about maintenance of mechanical systems. They are possible to collect and analyze the information necessary for introducing new maintenance technologies using high-sensitivity sensors, IoT, and AI technologies.
 2. Students are possible to think interdisciplinarily and compoundly about new maintenance technology, search for solutions, and propose application plans from each individual's professional point of view.
 3. Students continue to have an interest in stable operation of mechanical systems in society and a career consciousness, and have acquired an attitude that can contribute to the realization of advanced operation methods.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Semiconductor Power Devices Josef Lutz et al. , Springer
 ○Reliability of power electronics converter systems, Editors H. S. Chung et al., IET
 ○SiC/GaN パワー半導体の実装と信頼性評価技術、菅沼克昭 編著、日刊工業新聞社
 ○アコースティックエミッションによるIoT/AIの基礎と実用例 湯山茂徳 編著、朝日出版社
 ○異常検知と変化検知 井出剛・杉山将、講談社
 ○深層学習 岡谷貴之、講談社
 その他授業中に随時紹介

先端工学特論

(Advanced Leading Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.概要説明
- 2.パワーエレクトロニクス
- 3.半導体物理とパワー半導体デバイス
- 4.パワー半導体モジュール
- 5.熱の問題と疲労劣化
- 6.信頼性と加速試験
- 7.予知保全
- 8.設備診断のための観察技術
- 9.設備診断事例研究
- 10.IoTと情報セキュリティ
- 11.AI技術の基礎I
- 12.AI技術の基礎II
- 13.AI技術による故障予知システム
- 14.IoT・AI技術を用いた設備診断事例研究
- 15.まとめ
- 1.Overview
- 2.Power electronics
- 3.Semiconductor physics and power semiconductor devices
- 4.Power semiconductor modules
- 5.Heat problems and fatigue degradation
- 6.Reliability and accelerated testing
- 7.Predictive maintenance
- 8.Observation technology for equipment diagnosis
- 9.Equipment diagnosis case study
- 10.IoT and information security
- 11.Fundamentals of AI technology I
- 12.Fundamentals of AI technology II
- 13.Failure prediction system using AI technology
- 14.Case studies of equipment diagnosis using IoT / AI technology
15. Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的授業参加(20%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(50%) から総合判断
Comprehensive judgment of actively participating in classes(20%), presentations(30%) and reports(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：分担して配布した文献を各自がまとめて発表する。事後：自分の専攻分野への適用を考察する。
Advance: Each student reports literature distributed in a shared manner. Posteriori: Consider applying to respective field of study.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Power electronics, Semiconductor physics, Power semiconductor device, Power semiconductor module, Thermal management, Fatigue, Degradation, Accelerated reliability test, Sensing, Acoustic Emission, Internet of Things, Artificial Intelligence, Failure prediction

建築デザインプログラム

(Architectural Design Program)

担当者名 /Instructor 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~), デワンカー バート / Bart DEWANCKER / 建築デザイン学科 (19~)
山田 浩史 / Hiroshi YAMADA / 建築デザイン学科 (19~), 福田 裕美 / Yumi FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC500S	○	○	○
科目名	建築デザインプログラム		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

意匠設計の実践的な演習課題を設定し、建築法規の確認、確認申請図書の作成、CAD・CG技術を用いた表現、自然エネルギーの活用なども配慮した熱環境シミュレーションなど学ぶ。

本授業は各担当教員の指導の下に各自がプロジェクトを設定しまとめ上げていくスタジオ形式とする。

This course will set practical problems of architectural designs, practicing the confirmation of the building law; the making of the architectural confirmation application documents; the expression using CAD / CG technology; thermal environmental simulation that the practical use of the natural energy, etc.

Students will be required to set and compile a project in each instructor's studio.

【到達目標】

建築設計に必要なデザイン技能及び基礎的専門知識を身につけている。

三次元で空間を理解するとともに、建築プレゼンテーションに必要な3次元での空間表現力を身につけている。

建築設計を実践する技術者としての倫理観に基づく問題解決に取り組む意欲や姿勢を身につけている。

Course Objectives:

Acquire the design skills and basic specialized knowledge necessary for architectural design.

Understand space in three dimensions, and acquire the ability to express space in three dimensions necessary for architectural presentation.

Acquire the willingness and attitude to engage in problem solving based on the sense of ethics as an engineer who practices architectural design.

教科書 /Textbooks

使用しない
Not specified

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する
To be announced in studio

建築デザインプログラム

(Architectural Design Program)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画・内容

/Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス，各スタジオのテーマ説明と所属の決定
- 2 スタジオワーク：テーマに関する事例収集
- 3 スタジオワーク：テーマに関する事例分析
- 4 スタジオワーク：プロジェクト立案、討論
- 5 スタジオワーク：プロジェクト作業
- 6 スタジオワーク：中間報告準備
- 7 中間報告：プログラムの概要と進行状況の報告
- 8 スタジオワーク：調査研究、討論
- 9 スタジオワーク：プロジェクト作業
- 10 スタジオワーク：調査研究、討論
- 11 スタジオワーク：プロジェクト作業
- 12 スタジオワーク：調査研究、討論
- 13 スタジオワーク：プロジェクト作業
- 14 スタジオワーク：発表準備
- 15 合同講評会・・・最終成果の発表

- 1 Guidance / Assigning to studio
- 2 Studio work / Case Research
- 3 Studio work / Case Research and analysis
- 4 Studio work / Project planning and discussion
- 5 Studio work / Project work
- 6 Studio work / Preparation for midterm report
- 7 Midterm report
- 8 Studio work / Research work and discussion
- 9 Studio work / Project work
- 10 Studio work / Project work and discussion
- 11 Studio work / Project work
- 12 Studio work / Project work and discussion
- 13 Studio work / Project work
- 14 Studio work / Preparation for presentation
- 15 Joint final presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

- 最終成果作品 100%
- Final handed work 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分がレベルアップしたい建築設計スキルは何かを具体的に設定しておくこと。建築設計競技（コンペ）の情報収集などを行っておく。
Students should set concretely the building design skill that oneself wants to improve, and get information about the design competition.

履修上の注意 /Remarks

テーマ（プログラム）の設定について早い段階で指導教員と積極的に相談し指導を受けることが重要である。
本授業の受講にあたっては、建築実務インターンシップを履修することが望ましい。
It is important that students set the theme (a program) at an early stage by receiving guidance from an instructor.
The students who wish to take this class should enrol the course of "Architectural Internship".

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中間報告や最終作品作成作業を通して設計スキルの向上とともに、文章力やプレゼンの能力もレベルアップして欲しい。
就職活動のためのポートフォリオを充実させることも必要である。
Students are required to improve the design skill and the ability of writing sentence and presentation through the midterm report and final work. It is necessary to let a portfolio for job hunting enrich.

キーワード /Keywords

○環境共生都市づくり論

(Ecological Design for the Urban Environment)

担当者名 /Instructor デワンカー パート / Bart DEWANCKER / 建築デザイン学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC530S	○	◎	○
科目名	環境共生都市づくり論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

建築自体で環境に配慮するだけでなく、都市及び街区全体で環境に配慮することの意味を学ぶ。前半では、建築設計と結びついた環境共生都市に関わる事例研究を行い、どのような環境配慮が設計上で行われているかを理解する。後半では、サステナブルシティ（持続可能な都市づくり）及びコンパクトシティについて学習し、サステナブルシティの基本計画の演習を行う。

Globally, there are two trends in urban development, shrinking cities and compact cities in developed countries on the one hand, and expanding cities in developing countries on the other hand. In the first series of sessions we will deal with research on actual sustainable urban cities, in the second series, we will search on compact and shrinking cities.

【到達目標】

省資源・省エネルギー、自然との共生を考慮した都市づくりに関するより実践的な高度な専門知識を修得する。環境共生都市を目指した都市づくりに関して学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。都市づくりへの関心を持ち続け、環境共生都市の実現に向けて取り組む意欲を有している。

Course Objectives:

At the end of the course, participants are expected to

- (1) Acquire more practical and advanced expertise in urban development that considers resource saving, energy saving, and coexistence with nature,
- (2) Be able to think interdisciplinary about environmentally symbiotic city, search for solutions, and express their ideas appropriately,
- (3) Have an interest in urban design and motivation to work towards realization of environmentally symbiotic cities.

教科書 /Textbooks

指定しない
Not specified

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
Not specified

○環境共生都市づくり論

(Ecological Design for the Urban Environment)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 環境共生都市の定義
- 3 環境共生都市づくり事例研究 1 都心型再開発1
- 4 環境共生都市づくり事例研究 2 都心型再開発 2
- 5 環境共生都市づくり事例研究 3 郊外型設計事例 1
- 6 環境共生都市づくり事例研究 4 郊外型設計事例2
- 7 環境共生都市づくり事例研究 5 海外事例1
- 8 環境共生都市づくり事例研究 6 海外事例2
- 9 サステイナブルシティとコンパクトシティ (1)
- 10 サステイナブルシティとコンパクトシティ (2)
- 11 サステイナブルシティとコンパクトシティ (3)
- 12 サステイナブルシティとコンパクトシティの演習 (1)
- 13 サステイナブルシティとコンパクトシティの演習 (2)
- 14 サステイナブルシティとコンパクトシティの演習 (3)
- 15 発表会 (プレゼンテーション / 口頭試問)

- 1 Guidance
- 2 Definition of Environmental City
- 3 Environmental City Case study 1: redevelopment of inner city 1
- 4 Environmental City Case study 2: redevelopment of inner city 2
- 5 Environmental City Case study 3: urban fringe studies 1
- 6 Environmental City Case study 4: urban fringe studies 2
- 7 Environmental City Case study 5: foreign cities 1
- 8 Environmental City Case study 6: foreign cities 2
- 9 Sustainable city and Compact city 1
- 10 Sustainable city and Compact city 2
- 11 Sustainable city and Compact city 3
- 12 Sustainable city and Compact city, project study 1
- 13 Sustainable city and Compact city, project study 2
- 14 Sustainable city and Compact city, project study 3
- 15 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への積極的参加、質疑 20%
- 事例研究に対する評価 20%
- 演習課題に対する評価 20%
- プレゼンテーションの評価 40%
- Positive Collaboration and Questioning on Lectures 20%
- Evaluation of Case Study Research 20%
- Evaluation of Project Study Research 20%
- Evaluation of Final Presentation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare the presentation of each lecture

履修上の注意 /Remarks

平素から本授業に関わる事例に関心を持ち、記録、収集等を行っておくことを推奨します。
Gathering information on sustainable cities is a must and will be helpful to understand better the lectures.
事例研究では、URL、出典を明記してください。
You have to specify sources such as URL or authority of your report.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事例研究、演習など学生が主体的に課題に取り組む参加型授業を行います。
We offer participatory class in which you have to take the initiative in assignments of case study and exercise lessons.

キーワード /Keywords

世代間建築特論

(Advanced Trans-Generational Architecture)

担当者名 /Instructor 小山田 英弘 / Hidehiro KOYAMADA / 建築デザイン学科 (19~), 陶山 裕樹 / Hiroki SUYAMA / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC514S	◎	△	○
科目名	世代間建築特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

資源循環と環境保全に配慮した持続的発展可能な環境調和型・資源循環型建築・都市のあり方を建築材料・部材・構法および設計・生産・施工などの立場から討論し、環境調和型材料設計・生涯設計の基本を学ぶ。特に、実際に建設された長寿命住宅の設計内容を通じ、循環型材料による持続可能な建築および長寿命・高耐久性建築の設計・構法についての知識を身につける。

In this advanced lecture, what sustainable environment-conscious and resources circulation-oriented buildings and cities, considering resources circulation and the preservation of the environment should be is discussed from the viewpoints of building materials/components/systems and design/production/construction. As the results attenders are expected to learn the bases of environment-conscious materials and life-cycle design (eco-material design and eco-life-cycle design). Especially, the object of this lecture is to acquire the knowledge of design and systems of sustainable buildings using resources circulation-oriented materials, and highly durable buildings having long service life, through the examples of the contents of design of really constructed long life houses.

【到達目標】

過去から未来へ空間形成する建築の持続可能性に関する専門的な知識を身につけている。
 授業で得られた知識や技能を社会で発揮するための判断力・表現力を身につけている。
 持続可能な社会システム構築への関心と建築技術者としてのキャリア意識を持ち続け主体的に行動できる姿勢を身につけている。
 Course Objectives:
 Acquire specialized knowledge about the sustainability of architecture that creates space from the past to the future.
 Acquire judgment and expressiveness to utilize the knowledge and skills learned in class.
 Keep an interest in building a sustainable social system and a career consciousness as a building engineer, and acquire an attitude of being able to act independently.

教科書 /Textbooks

特になし
Not designated

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

完全リサイクル住宅1 (木造編)
Perfect Recyclable House 1 Wooden House
 完全リサイクル住宅2 (鉄骨編)
Perfect Recyclable House 2 Steel House
 完全リサイクル住宅3 (生活体験と再築編)
Perfect Recyclable House 3 Living Experiment

世代間建築特論

(Advanced Trans-Generational Architecture)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 世代間建築入門
 2. 世代間建築デザイン
 3. 世代間建築規範
 4. 世代間建築知性
 5. 持続可能な消費
 6. リサイクル・リユースのための住宅設計1 建設解体材と木材のリサイクルの現状
 7. リサイクル・リユースのための住宅設計2 完全リサイクル住宅
 8. 社会資本の現状と維持管理（プレゼンテーション）
 9. 事例調査1 リサイクル建材
 10. 事例調査2 高耐久建材
 11. 長寿命性と情報伝達
 12. 資源循環とリサイクル設計
 13. 持続可能性と環境調和性
 14. 環境調和型材料設計・生涯設計
 15. 世代間建築材料（プレゼンテーション）
-
1. Trans-generational architecture. Guidance
 2. Trans-generational architecture. Design Philosophy
 3. Trans-generational architecture. Moral Philosophy
 4. Trans-generational architecture. Intellect
 5. Sustainable consumption
 6. Design of houses for recycle/reuse 1 (the state of demolished materials in construction)
 7. Design of houses for recycle/reuse 2 (perfect recycle house)
 8. The present condition of social capital and maintenance management (presentation)
 9. Case research 1: Recycling building material
 10. Case research 2: High durability building material
 11. Long service life and information transmission
 12. Resource circulation and recycle design
 13. Sustainability and eco balance performance
 14. Environment conscious materials and lifecycle design
 15. Trans-generational material of architecture (presentation)

成績評価の方法 /Assessment Method

2名の教員による講義内容に関するレポート評価（各教員による個別評価：（2×100）/2）
Points of evaluation of reports about the contents of lectures by two teachers
(Individual evaluation by each teacher : (2×100)/2))

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に関連する書籍や論文を読む。
Read various books and papers related to this class.

履修上の注意 /Remarks

建築実務インターンシップで、意匠設計分野、設計管理分野の研修を受ける場合は、本講義を受講しておくことが望ましい。
In case graduate students want to receive the training courses of design and/or design management in the internship, they are expected to attend this lecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から、建築物の耐久性、長寿命化に関心を持つよう心がけて下さい。
You have to be conscious of durability and long life span of buildings on a regular basis.

キーワード /Keywords

世代間, 持続可能性, リサイクル, リユース
Trans-generation, Sustainability, Recycle, Reuse,

○環境空間設計学

(Environmental and Spatial Design)

担当者名 /Instructor 山田 浩史 / Hiroshi YAMADA / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC540S	◎	△	○
科目名	環境空間設計学		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

建築設計は技術的な技能のみならず、社会的な外部環境等多岐にわたる条件のもとで要求される複合的な職能である。本授業ではこういった建築実務の背景にある建築理論の重要基本文献を精読・議論することによって、建築実務に対する理解を深めると同時に、建築の背後にある考え方や思想を検証し、建築設計実務に対する理解を深めることを目的とする。前半の重要基本文献の読解においては、建築家がプロジェクトを実現するにあたって何を考えてきたか、建築の社会背景と建築家の関係について講義し、後半では主要な建築理論・要素を具体的に題材として演習形式で作図すると同時にそれぞれの背景にある設計思想について講義する。

<到達目標>

建築に関する専門知識を修得する。
歴史的な背景を基に、設計行為に内在する問題を解決する技術を身につけている。
論理的な思考や既知の知識を駆使して発展的な課題に取り組める。
必要とされる成果について、達成するための方法・内容・価値の重要性が判断できる。
実社会において、倫理観を伴い信頼性の高い提案を作成できる。

The profession of an Architect not only requires technical skills, but requires understanding of our socio-economic environment etc. In this course, fundamental texts in Architectural theory will be covered and fundamental architectural details will be explored through lectures and exercises, to explore the idea and philosophy behind details and nurture deeper understanding toward the profession. In the first half of the course, the thought process of Architectural realization, the relationship between the Architect and the social background will be lectured. In the latter half, fundamental Architectural details (theory, element etc.) will be covered by lecturing the design philosophy behind the details and through exercises by drawing these details.

<Objectives>

Obtain specialized knowledge about the Architectural design.
Apply theories or technics to real design fields based on the historical background.
Solve development challenges by reconstructing theoretical thinking and known knowledge.
Evaluate required studies in terms of their methods, contents, value.
Produce reliable proposals with ethics in society.

教科書 /Textbooks

授業で指示する To be assigned in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する To be assigned in class.

○環境空間設計学

(Environmental and Spatial Design)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01 インTRODクシヨン
- 02 建築理論1：建築をめざして ル・コルビュジェ
- 03 建築理論2：理想的ヴィラの数学 コーリン・ロウ
- 04 建築理論3：建築の多様性と複合性 ロバート・ヴェンチューリ
- 05 建築理論4：錯乱のニューヨーク レム・クールハース
- 06 建築理論5：建築理論レポート
- 07 デザイン理論1：幾何学形態
- 08 デザイン理論2：有機的形態
- 09 デザイン理論3：音響的形態
- 10 生産理論1：プレファブリケーション
- 11 生産理論2：メディア
- 12 デザイン・生産理論レポート
- 13 デザイン演習1：第1次提出
- 14 デザイン演習2：第2次提出
- 15 デザイン演習3：最終提出

- 01 Introduction
- 02 Architectural Theory 1 : Ornament and Crime
- 03 Architectural Theory 2 : Towards a new architecture
- 04 Architectural Theory 3 : Complexity and Contradiction in Architecture
- 05 Architectural Theory 4 : The Mathematics of the Ideal Villa
- 06 Architectural Theory 5 : Delirious New York
- 07 Design Theory 1 : Geometrical Form
- 08 Design Theory 2 : Organic Form
- 09 Design Theory 3 : Acoustic Form
- 10 Production Theory 1 : Fabrication
- 11 Production Theory 2 : Media
- 12 Architectural / Design / Production / Theory / Report
- 13 Design Exercise 1
- 14 Design Exercise 2
- 15 Design Exercise 3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での小テスト 30%
 演習課題 60%
 平常点 10%
 Exams in class 30%
 Assignment 60%
 Efforts for daily lessons 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業のまえに文献の読解を必ず行ってください。
 Reading assignments before class is mandatory.

履修上の注意 /Remarks

授業への参画は必須です。準備してこないと答えられませんので必ず準備してきてください。
 Attendance is mandatory. Interactive communication in class will be not possible without reading assigned documents.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文献の読解、設計実務の習得は努力を必要としますが、設計者となるためには必要な素養ですので頑張ってください。
 Reading and understanding of fundamental texts and practical training for being an Architect is not easy, but it is a necessary process.

キーワード /Keywords

建築デザイン理論

建築生産管理論

(Construction Engineering and Management)

担当者名 /Instructor 保木 和明 / Kazuaki HOKI / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC513S	◎	○	○
科目名	建築生産管理論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

建築生産は製造業と異なり、様々な特殊性がある。これらの特殊性を克服し、安全で品質の良い構造物を所定の原価・納期で製造・運搬・建設、及び維持管理を行なうために生産管理を適切に行なう。本講義では、建設生産をめぐる諸問題及び製造から維持管理までの各過程における課題と管理に用いられる技法・手法について、最新の技術を交えて学習するとともに、変革しつつある建築生産における新しい動向を習得することを目的とする。

Building industry has different characteristics compare to manufacturing industry and sometimes they cause problems. To overcome these problems the construction management technologies are introduced, which realizes safety work, good quality, appropriate cost and construction period in each construction project. The lecture provides the newest technologies which are applied in all building activity processes which begin with material product to building maintenance. The lecture also provides latest innovations in construction industry such as application of information technologies.

【到達目標】

- ◎高度な専門的知識・技能
建築生産管理に必要な高度な理論と実践的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 高い問題解決能力と表現力
建築生産管理における社会的事項に対して、問題点を見つけて理論的に解決する能力とともに、自らの考えを伝える能力、さらに、他者と協力してプロジェクトをまとめ上げるコミュニケーション能力を身につけている。
- 高い倫理観に基づいた自律的行動力
建築生産管理を実践する技術者としての倫理観に基づく問題解決に取り組む意欲や姿勢を身につけている。

【Specific targets in focus】

- ◎Advanced technical knowledge and skills
Graduate students should acquire advanced theoretical and practical knowledge necessary for construction engineering and management systematically and comprehensively.
- Advanced problem-solving ability and expressiveness
Regarding social matters in construction engineering and management, graduate students should acquire the ability to find problems and solve them theoretically, the ability to convey one's thoughts, and the communication ability to collaborate with others to organize projects.
- Autonomous ability to act based on advanced ethical viewpoint
Graduate students should acquire the motivation and attitude to work on problem solving based on ethical viewpoint as an engineer who practices construction engineering and management.

建築生産管理論

(Construction Engineering and Management)

教科書 /Textbooks

必要に応じて資料配布
Papers will be distributed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村恭編著：第2版 建築施工法（工事計画と管理）、丸善
Y. Tamura et al.: Building Construction Methos - Construction Planning and Management -, Maruzen co., Ltd.
日本建築学会：コンクリートの品質管理指針・同解説、丸善
Architectural Institute of Japan: Japanese Architectural Standard Specification, JASS 5 Reinforced Concrete Work, Maruzen co., Ltd.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：品質管理序論（高峯）
第2回：建築工事標準仕様書JASS5鉄筋コンクリート工事（高峯）
第3回：コンクリート工事の品質管理（データの整理と実例）（高峯）
第4回：建築生産現場における新技術（高峯）
第5回：木質構造住宅・鉄骨造住宅の施工（高峯）
第6回：建築生産現場における技術者倫理（高峯）
第7回：学生によるプレゼンテーション（高峯）
第8回：プロジェクトの展開と建設組織（保木）
第9回：工事における施工のシステム化（1）理論（保木）
第10回：工事における施工のシステム化（2）事例紹介（保木）
第11回：工事計画と工程シミュレーション手法（保木）
第12回：建築工事における作業研究（保木）
第13回：生産管理におけるIT技術の利用（保木）
第14回：新しい生産管理の動向（保木）
第15回：学生によるプレゼンテーション・講評（保木）

1 Introduction of quality control
2 Reinforced concrete work (JASS5) concrete work
3 Reinforced concrete work (JASS5) quality control of concrete
4 Wooden house work
5 Steel house work
6 Brick house work
7 Students' presentation
8 Construction processes and organization
9 Systematization in construction process (1) Theory
10 Systematization in construction process (2) Examples
11 Construction planning and process simulation
12 Work study in construction
13 Application of information technologies in construction management
14 Latest innovation in construction management
15 Students' presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 10% 積極的な授業参加
レポート 60% 1～7で1回、8～14で1回
発表 30% 1～7で1回、8～14で1回

Participation 10% Participation
Mid term paper 60% Once each in 1-7 and 8-14
Presentation 30% Once each in 1-7 and 8-14

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業において指定された範囲の予習を行うこと。
授業内容の復習を行うこと。
授業に関連する研究論文や情報を収集し、それらを精読すること。

Preparation is necessary.
Review is necessary.
Collect a research paper and information related to the class. And, peruse those.

履修上の注意 /Remarks

建築材料及び施工に関する基礎的な知識を有するものとして講義を行う。
The lecture is carried out that students have basic knowledge on building materials and construction.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(Construction Engineering and Management)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで、建築工事は特殊な要素が多く、生産管理の考え方は馴染まないと言われてきたが、建築工事を科学的に管理するための基本的な考え方、手法について、事例を紹介しながら講義を行う。建築工事を科学的に見る目を養う。

Since now construction projects are not considered to introduce the industrial engineering ideas and technologies because of difference of conditions to manufacturing industry. The lecture delivers basic way of thinking and techniques to manage construction projects scientifically by introducing real project examples. Through the lecture students' scientific viewpoint are cultivated.

キーワード /Keywords

環境調和型材料工学特論

(Advanced Environmentally Conscious Materials Engineering)

担当者名 /Instructor 陶山 裕樹 / Hiroki SUYAMA / 建築デザイン学科 (19~), 保木 和明 / Kazuaki HOKI / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC516S	◎	○	
科目名	環境調和型材料工学特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

大量生産・大量消費・大量廃棄の物質文明から脱却して、持続可能な建築・都市に軟着陸するためには、環境調和型の建築材料の製造・加工・組立・設計が必要不可欠とされる。この講義では、演習、プレゼンテーションなどを通じて、建築における環境調和型材料（エコマテリアル）と環境調和型施工（エココンストラクション）の考え方や技術の習得を目指す。

【到達目標】

環境調和型材料のより実践的な専門知識を修得し、調査資料や数値データをまとめる技能を身につけている。
授業で得られた課題解決力を社会で発揮するための表現力を身につけている。

In order to break away from mass production, mass consumption, and mass waste civilization, and to make soft landing on sustainable buildings, cities and societies, it is necessary to make the environment-conscious production, processing, construction and design of materials of buildings. The aim of this course is to obtain the way of thinking and technologies of “Eco-materials” and “Eco-construction” in buildings through exercises and presentations.

At the end of the course, participants are expected to (1) Obtain practical knowledge about environment-conscious materials and skills to analyze survey results and data, (2) Apply problem-solving ability learned in the course to real world problems.

教科書 /Textbooks

なし

Not specified

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜示す

To be announced in class

環境調和型材料工学特論

(Advanced Environmentally Conscious Materials Engineering)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 環境調和型の建築材料
3. 環境調和型の建築施工
4. 環境調和型の建築設計
5. 演習：調査結果の発表
6. 環境調和型の構造部材
7. 演習：部材の設計
8. 演習：型枠工事
9. 演習：鉄筋工事
10. 演習：コンクリートの調合設計
11. 演習：コンクリートの練混ぜ・打込み
12. 演習：部材強度の試算
13. 演習：部材強度の実験
14. 演習：成果報告
15. 総括

1. Guidance
2. Environment-conscious building materials
3. Environment-conscious building construction
4. Environment-conscious building design
5. Practice: Presentation of survey results
6. Environment-conscious structural members
7. Practice: Designing member
8. Practice: Formwork construction
9. Practice: Reinforcing bar construction
10. Practice: Mix proportion of concrete
11. Practice: Concrete mixing / casting
12. Practice: Calculation of member strength
13. Practice: Experiment of member strength
14. Practice: Result report
15. Conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：20%
演習の成果：80%

Attendance and participation: 20%
Practices: 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実験・実習や活動に関連する情報収集を行うこと。

Perform intelligence in conjunction with the experiment, training and the activity.

履修上の注意 /Remarks

講義終了後に授業内容を反復すること。

Review the lecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

Nothing particular

キーワード /Keywords

構造解析学

(Structural Analysis)

担当者名 /Instructor 藤田 慎之輔 / Shinnosuke FUJITA / 建築デザイン学科 (19~), 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC511S	◎		
科目名	構造解析学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

建築構造物の力学的挙動をコンピュータの力を使って予測することを構造解析と呼ぶ。
本講義では、実務で当たり前のように用いられている構造解析ソフトウェアの元となる理論である有限要素法について学習する。
また、理論を習得する座学と並行して、pythonと呼ばれるフリーかつオープンソースのプログラミング言語を用いて、習得した理論を実際にプログラミングし、構造解析プログラムを自らの手で一から実装することを行う。
授業を通じて、コンピュータに"使われない"工学的素養を身に付ける。

Predicting the dynamic behavior of building structures using computer is called "structural analysis".
In this class, we will learn about the finite element method (FEM). In general, the structural analysis software used in practical design is based on FEM.
Also, in parallel with the theory lecture, using the free and open source programming language called python, you actually program the learned theory and implement the structural analysis program from scratch by yourselves.
Through the class, students will acquire solid engineering skills to avoid being used by computers.

【到達目標】
構造解析に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

Course Objective:
Systematically and comprehensively acquire specialized knowledge on structural analysis.

教科書 /Textbooks

特に指定しない
Not specified.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

デザイン・コンピューティング入門 - Pythonによる建築の形態と機能の生成・分析・最適化, 日本建築学会編, コロナ社
Introduction to design computing : python programming for generation, simulation and optimization of architectural form and function, edited by AIJ, Corona publishing

構造解析学

(Structural Analysis)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 構造解析のためのプログラミングの基礎知識と基本的な数学のおさらい(1)
 2. 構造解析のためのプログラミングの基礎知識と基本的な数学のおさらい(2)
 3. 有限要素法の基礎
 4. 2次元トラス要素の要素剛性マトリクスの導出
 5. 2次元トラス要素の弾性解析プログラムの作成
 6. 2次元梁要素の要素剛性マトリクスの導出
 7. 2次元梁要素の弾性解析プログラムの作成
 8. 3次元梁要素の要素剛性マトリクスの導出
 9. 3次元梁要素の弾性解析プログラムの作成
 10. 幾何剛性マトリクスと座屈固有値解析
 11. 材料非線形解析と幾何学的非線形解析(1)
 12. 材料非線形解析と幾何学的非線形解析(2)
 13. 有限要素解析ソフトウェアを用いた構造解析
 14. 構造の解析と創生
 15. 演習
-
1. Foundations of programming and mathematics for structural analysis(1)
 2. Foundations of programming and mathematics for structural analysis(2)
 3. The mathematical foundation of Finite Element Method
 4. Derivation of element stiffness matrix of 2D truss elements
 5. Creation of elastic analysis program of 2D truss element
 6. Derivation of element stiffness matrix of 2D beam elements
 7. Creation of elastic analysis program of 2D beam element
 8. Derivation of element stiffness matrix of 3D beam elements
 9. Creation of elastic analysis program of 3D beam element
 10. Geometric stiffness matrix and buckling eigenvalue analysis
 11. Material and geometric nonlinear analysis(1)
 12. Material and geometric nonlinear analysis(2)
 13. Structural analysis using commercial FEM software
 14. Structural analysis and computational morphogenesis
 15. Practice

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70%
レポート30%

Class participation 70%
Assignments 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分のPCあるいは研究室で使用が許可されているPCに、必要なソフトウェアをインストールし、自主的にプログラミングの勉強をはじめること。プログラミングは習うより慣れるです。自主学習なしに講義の間の時間だけでプログラミングスキルを身に付けることは絶対に不可能ですので、授業以外の時間にプログラミングに触れる機会を必ず設けてください。

Please Install some pieces of software necessary in this class on your PC or a PC permitted to use in your laboratory and voluntarily start studying programming.

About developing your programming skills, experience is the best teacher.

Since it is difficult to learn programming skills only within this class without voluntary learning, be sure to set up an opportunity to do programming at times other than classes.

履修上の注意 /Remarks

線形代数や微分積分学の基礎的な知識を身に付けていること(必須)。
また、自分が自由に使えるPCを所有しておくことが望ましい。

Basic knowledge of linear algebra and calculus is essential.
It is desirable to have a PC that you can use freely.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

近年、一貫構造計算プログラムやコンピューショナルデザインソフトウェアなどの普及が進み、知識の浅い者でも、そのようなツールを用いて何らかのアウトプットを出せる時代になりました。しかしながら、コンピュータの出す答えが必ずしも正しいとは限りません。ツールの中身を理解することなくブラックボックス的に用いると、不適切な答えを見逃す危険性があります。とりわけ構造設計の世界ではそのようなミスは命に関わります。理論とプログラミングをセットで学ぶことを通じて、コンピュータの出す答えの適切性を判断する力を身に付けてください。

In recent years, rapid development of integrated structural calculation software or computational design software made it possible for someone

構造解析学

(Structural Analysis)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

with little knowledge to easily output some calculation results.
However, the answers given by computers are not necessarily correct. If you use it like a black box without understanding the contents of the tool, there is a danger of overlooking inappropriate answers. Especially in structural design, such mistakes may be life-threatening.
Through studying theory and programming in sets, please acquire the ability to judge the appropriateness of answers given by computers.

キーワード /Keywords

有限要素法、数値計算プログラミング

Finite element method, numerical calculation programming

建築材料特論

(Advanced Building Materials)

担当者名 /Instructor 小山田 英弘 / Hidehiro KOYAMADA / 建築デザイン学科 (19~), 小山 智幸 / Tomoyuki KOYAMA / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC515S	◎	△	
科目名	建築材料特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

建築物は、構造材料、機能材料、仕上材料等から構成されている。本講義では、これらの建築材料の特徴をより深く理解し、さらに、製造方法、生産量、コスト等の現状把握を行い、建築材料設計の手法を学ぶ。実務に対応できる建築材料設計の能力を身につけることを目標とする。工事監理、施工管理などの建築実務で必要となる建築材料について学び、特に材料の製造方法、生産量、コスト等を学ぶことにより、それらの分野のインターンシップに必要な基礎知識を習得する。

The building is composed of structural materials, functional materials, and finish materials, etc. This course understands the feature of building materials more deeply, seizes the current state of the process of manufacture, production, and the cost, etc. in addition, and learns the technique of the architectural materials design. The building materials needed in architectural practice of the supervision of construction work and the construction management, etc. is learnt, and basic knowledge necessary for the internship in those fields is acquired.

【到達目標】

建築材料のより実践的な専門知識を身につけており、建築材料に関連する調査資料や数値データをまとめる技能を身につけている。授業で得られた専門技能を駆使し、建築材料に関する国際的な課題を抽出し、その解決策を社会に発信する表現力を身につけている。

Course Objectives:

Students should acquire more practical expertise in building materials and have the skills to summarize and analyze survey materials and numerical data related to building materials.

By making full use of the specialized skills gained in class, students should be able to extract international issues related to building materials and should acquire the expressive power to disseminate their solutions to society.

教科書 /Textbooks

ガイダンス時に指示する。
To be announced in class

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事2009
Japanese Architectural Standard Specification JASS5 Reinforced Concrete Work

建築材料特論

(Advanced Building Materials)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 建築材料通論 (建築材料)
 - 2 建築材料通論 (構造材料・ 仕上材料)
 - 3 建築材料各論 (ケイ素系材料)
 - 4 建築材料各論 (カルシウム系材料)
 - 5 建築材料各論 (金属系材料)
 - 6 建築材料各論 (有機系材料)
 - 7 建築材料各論 (コンクリート)
 - 8 課題発表 1
 - 9 建築機能材料設計 (防火・ 耐火・ 防水材料)
 - 10 建築機能材料設計 (断熱・ 防湿材料)
 - 11 建築機能材料設計 (音響材料)
 - 12 部位別建築材料設計 (屋根材料)
 - 13 部位別建築材料設計 (外壁材料)
 - 14 部位別建築材料設計 (内壁材料)
 - 15 課題発表 2
-
- 1 Introduction of building materials
 - 2 Introduction of building materials (structural materials and finishing materials)
 - 3 Special building materials (silicon materials)
 - 4 Special building materials (calcareous materials)
 - 5 Special building materials (metal materials)
 - 6 Special building materials (organic materials)
 - 7 Special building materials (concrete)
 - 8 Presentation of assignments 1
 - 9 Design of building function materials(fire-preventive, fire resistive, waterproofing material)
 - 10 Design of building function materials(thermal insulation, dampproofing material)
 - 11 Design of building function materials (soundproof material)
 - 12 Design of building element materials (roof material)
 - 13 Design of building element materials (exterior wall material)
 - 14 Design of building element materials (interior wall material)
 - 15 Presentation of assignments 2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
課題発表 70%
Attendance and Participation 30%
Presentation of assignments 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な参考文献を精読すること。
Read a reference literature profitable to understand the class carefully.

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義で取り上げる建築材料について基礎知識を学習して望むこと。
Students are required to prepare the basic knowledge of building materials taken up by a usual lecture.
建築材料に関する基礎的な知識を有するものとして講義を行う。
It lectures on the basic knowledge of the building material to possess.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

建築物はその形態のみでなく、その材質も常に人の目に触れます。建築材料設計は建物を設計する上で重要な業務になります。建築設計と同じように建築材料設計を極めて下さい。

Not only the form of the building but also the material always noticeable. The design of building materials is an important business for designing a building. I believe this course will help students understand the design of building materials just like an architectural design.

キーワード /Keywords

- ・ コンクリート Concrete
- ・ 力学的性状 Mechanical Properties
- ・ 物理的性状 Physical Properties

建築構造設計

(Structural Design for Buildings)

担当者名 /Instructor 江崎 文也 / Fumiya ESAKI / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC510S	◎		
科目名	建築構造設計		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本国内の建築物は、建築基準法に適合するようにしなければならないことが法律上要求されている。建築構造物の耐震安全性を確認する方法として、1) 保有水平耐力を確認する許容応力度等構造計算、2) 終局的な強度や変形を考慮した限界耐力計算、3) エネルギー吸収能力によって構造性能を評価するエネルギーの釣り合いに基づく耐震計算のほか、4) 高さ60mを超える超高層建築物に対しては、時刻歴応答計算が規定されている。本講義では、日本の耐震設計法の歴史的な流れとそれぞれの設計法の理論的背景および基準法で要求される耐震基準の変遷により現行基準に適合しない既存不適格建築物に該当する鉄筋コンクリート造建築物の耐震性能を診断する方法および耐震改修計画を説明し、広範にわたる専門領域に対応した基礎的な知識の習得および問題提起から解決に至る過程で必要になる情報収集能力、分析能力および情報発信能力を身につけることにより、社会情勢の変化に対応した総合的な判断力が養えるようにする。具体的には、中低層の鉄筋コンクリート造建築物を例に取り上げ、安全性の検証法の違いや耐震診断の方法および耐震改修の方法などを解説し、インターンシップでの実践的な課題と関連した内容について習得する。

学習到達目標は、以下の通りとする。

- 1) 建築構造設計について体系的かつ総合的に理解している。
- 2) 現行の建築物耐震設計法の内容を説明できる。
- 3) 既存鉄筋コンクリート建築物の耐震診断法および改修設計の内容を説明できる。

The buildings in Japan are legally required to adjust Japanese Building Standard. The confirmation methods of the seismic safety of buildings on the law are as follows; 1) to check the lateral load-carrying capacity in the Provision of Allowable Stress Calculation, 2) to check the ultimate lateral load and deformation in the Provision of Response and Limit Strength Calculation, 3) to check the response in the Provision of Energy Balance Based Seismic Resistant Design Calculation, and 4) to check the response for high-rise buildings more than 60m height in the Provision of Time History Response Analysis. The aim of this course is to show the seismic design methods of buildings. The historical review and theoretical background of Japanese building seismic design standard are explained. Moreover, the evaluation method of seismic capacity and seismic retrofit of the existing reinforced concrete buildings constructed under the old standard are described. You get intelligence ability, analytic ability to be necessary in process reaching the solution from the acquisition of the underlying knowledge corresponding to the seismic design method of buildings and consequently learn the general judgement corresponding to the change of social conditions. Specifically, I explain a difference of the safe inspection method of a newly constructed building, the seismic evaluation method of a existing building and the retrofit technique method by adopting a existing reinforced concrete middle low-rise building for an example. You learn it about the condition in connection with practical problem by the internship.

The aim of level of attainment is as follows.

- 1) Acquire systematic and comprehensive understanding of building structural design.
- 2) To be able to explain the content of existing Japanese building seismic design standard.
- 3) To be able to explain the content of evaluation method of seismic capacity and seismic retrofit about existing reinforced concrete buildings.

教科書 /Textbooks

講義中に資料をプリントで配付する。
Give out the supporting materials at each lecture.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に関連する文献を紹介する。
Introduce the references related to lecture.

建築構造設計

(Structural Design for Buildings)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 構造設計法 (1) 構造設計の歴史
 - 2 構造設計法 (2) 構造設計の考え方
 - 3 構造設計法 (3) 耐震基準の概要
 - 4 構造設計法 (4) 構造計算の方法
 - 5 構造設計法 (5) 耐震二次設計の考え方
 - 6 構造設計法 (6) 鉄筋コンクリート造建築物の耐震二次設計
 - 7 構造設計法 (7) 限界耐力計算
 - 8 構造設計法 (8) エネルギーの釣合に基づく耐震計算
 - 9 構造設計法 (9) 時刻歴応答解析
 - 10 既存R C建築物の耐震診断法 (1) 耐震診断の概要と保有性能基本指標の考え方
 - 11 既存R C建築物の耐震診断法 (2) 保有性能基本指標と構造物の終局限界
 - 12 既存R C建築物の耐震診断法 (3) 強度指標と靱性指標
 - 13 既存R C建築物の耐震改修法 (1) 耐震改修の概要
 - 14 既存R C建築物の耐震改修法 (2) 耐震改修構造計算
 - 15 既存R C建築物の耐震改修法 (3) 耐震改修性能と施工方法
-
- 1 Design method of building structures (1) History of structural design of buildings
 - 2 Design method of building structures (2) Concept of structural design of buildings
 - 3 Design method of building structures (3) Outline of seismic design standards
 - 4 Design method of building structures (4) Method of structural calculation
 - 5 Design method of building structures (5) Concept of seismic secondary design
 - 6 Design method of building structures (6) Seismic secondary design of R/C building structures
 - 7 Design method of building structures (7) Calculation of response and limit strength
 - 8 Design method of building structures (8) Calculation of energy balance based seismic resistant design
 - 9 Design method of building structures (9) Time history response analysis
 - 10 Seismic evaluation method of existing R/C buildings (1) Outline of seismic evaluation and concept of basic seismic index of structure
 - 11 Seismic evaluation method of existing R/C buildings (2) Basic seismic index of structure and Ultimate state of structure
 - 12 Seismic evaluation method of existing R/C buildings (3) Strength index and Ductility index
 - 13 Seismic retrofit method of existing R/C buildings (1) Outline of seismic retrofit
 - 14 Seismic retrofit method of existing R/C buildings (2) Structural calculation of seismic retrofit
 - 15 Seismic retrofit method of existing R/C buildings (3) Seismic performance and construction technique

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (講義に関連した問題の解答を含む) 20%
 期末レポート 80%
 Participation for each lecture (include solutions of problems in connection with lectures) 20%
 Term paper 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義で配布された資料のキーワードの理論的背景を確実に理解できるように予習 (60分) と復習 (60分) を行うこと。
 You need to research beforehand (60 minutes) and to review (60 minutes) in order to absolutely become understandable the theoretical background of keywords in the supporting materials given out at each lecture.

履修上の注意 /Remarks

構造力学や構造部材の破壊機構・抵抗機構に関する基礎的な知識を復習しておくこと。
 You need to review the basic knowledge on structure mechanics, and on failure and resistance mechanism of structural members.
 各回の講義を順番に理解し積み重ねていく内容であるので、毎回出席して予習復習に努めることが求められる。建築実務インターンシップで構造設計分野の研修を受ける場合は、本講義を受講しておくことが望ましい。
 You need to research beforehand and to review the content in order to catch on each lecture in sequence. It is desirable to take this course for students who take the Architectural Internship and study at structural design field.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

建築空間を具体的に実現させるための判断根拠となる理論的背景を理解するのに適した内容の講義です。建物の安全性がどのような考え方で確保されているかの概要をわかりやすく解説します。
 The content of this lecture is suitable for caching on the theoretical background based on the decision to construct the architectural space actually. This lecture will provide an easy-to-understand overview of the concept of how building safety is ensured.

キーワード /Keywords

建築構造設計, 耐震設計, 耐震診断
 building structural design, seismic design, seismic evaluation

耐震構造学

(Earthquake Resistant Structures)

担当者名 /Instructor 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~), 藤田 慎之輔 / Shinnosuke FUJITA / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC512S	◎		
科目名	耐震構造学		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

建築構造で用いる力学は、構造力学、弾性力学、塑性力学といくつかの種類がある。本講義では、これらの力学で共通となる、釣合式、ひずみ-変位関係、応力-ひずみ関係、境界条件などを、弾性力学の観点から解説する。さらに仕事の原理（発散定理、単位仮想荷重法、単位仮想変位法、仮想仕事の原理、補仮想仕事の原理）やエネルギー原理（最小ポテンシャルエネルギーの原理、最小コンプリメンタリエネルギー原理）の解説を行なうことにより、力学の構造を理解してもらうことを目的とする。演習を適宜行い、次の目標を達成する。

- 1) 力学の構造を理解する
- 2) 仕事の原理・エネルギー原理を理解する。
- 3) 仕事の原理やエネルギー原理に基礎を置く近似解法を用いて簡単な梁、圧縮材の問題が解けるようになる。

There are several types of mechanics used in building structures: structural mechanics, elastic mechanics, and plastic mechanics. In this lecture, the equations of equilibrium, strain-displacement relationship, stress-strain relationship, boundary conditions, etc., which are common to these mechanics, are explained from the viewpoint of elastic mechanics. In addition, the principle of work (divergence theorem, unit virtual load method, unit virtual displacement method, principle of virtual work, principle of complementary virtual work) and the principle of energy (principle of minimum potential energy, principle of minimum complementary energy) will be explained in order to understand the structure of mechanics. Exercises will be given as necessary to achieve the following objectives.

- 1) To understand the structure of mechanics
- 2) To understand the work principle and energy principle.
- 3) To be able to solve simple beam and compression problems by using approximate solution methods based on the work principle and energy principle.

【到達目標】

力学（仕事の原理・エネルギー原理）と塑性解析ならびに座屈に関する専門的な理論を理解している。

Course Objective:

Students acquire understanding of specialized theories of mechanics (principle of work and energy), plasticity analysis and buckling theory.

教科書 /Textbooks

仮想仕事の原理とエネルギー原理 津田恵吾/城戸将江
Virtual work and energy principles for trusses, beams and frames

耐震構造学

(Earthquake Resistant Structures)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

建築鋼構造 - その理論と設計 - 井上一郎 / 吹田啓一郎
 建築鉄骨構造 松井千秋編著
 鉄骨構造学詳論 若林實編著
 鋼構造部材と骨組 -強度と設計- Theodore V. Galambos 著, 福本嘸士, 西野文雄共訳
 建築構造物の設計[S×RC×木] 建築構造技術研究会 編

Steel Structure -theory and design- by Kazuo INOUE and Keiichiro Suita
 Documents will be distributed in class
 Steel Structure by Chiaki Matsui
 Steel Structure by Minoru Wakabayashi
 Structural Members and Frames by Theodore V. Galambos, Translated by Yuji Fukumoto and Fumio Nishino
 Structural Design [Steel, Reinforced concrete and Timber structures] by Research group of building structural techniques

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス, 力学の復習
 - 2 梁理論における力学の構造
 - 3 境界条件と梁の基礎方程式
 - 4 変位法と応力法
 - 5 力学の構造のまとめ・演習
 - 6 ダイバージェンスの定理
 - 7 単位仮想荷重法
 - 8 相反定理
 - 9 仮想仕事の原理
 - 10 最小ポテンシャルエネルギーの原理
 - 11 仕事の原理・エネルギーの原理のまとめ
 - 12 仕事の原理・エネルギー原理の演習
 - 13 エネルギー原理に基礎を置く近似解法
 - 14 近似解法の演習
 - 15 まとめ
-
- 1 Guidance, review of mechanics
 - 2 Structure of mechanics in beam theory
 - 3 Boundary conditions and basic equations of beams
 - 4 Displacement method and stress method
 - 5 Summary of structure of mechanics and exercises
 - 6 Divergence theorem
 - 7 Unit virtual load method
 - 8 Reciprocal theorem
 - 9 Principle of virtual work
 - 10 Principle of minimum potential energy
 - 11 Summary of work principle and energy principle
 - 12 Exercises on work principle and energy principle
 - 13 Approximate solutions based on the energy principle
 - 14 Exercises on approximate solutions
 - 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート等の課題 60%
 発表および質疑応答 40%

Assignments 100%
 Presentation, Q &A

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(1) 授業開始前までに予習を行うこと, 授業終了後は復習を行うこと。
 Preparation and review are necessary.

履修上の注意 /Remarks

関数電卓を持参すること。
 建築実務インターンシップで構造設計分野の研修を受ける場合は、本講義を受講しておくことが望ましい。
 構造力学を身に付けておくこと。

微分積分, 線形微分方程式, 線形代数, ベクトル解析の基礎的なレベルが必要である。
 Bring a scientific calculator.

It is desirable for students to take this course when they take the Architectural Internship and study at structural design

耐震構造学

(Earthquake Resistant Structures)

履修上の注意 /Remarks

field.
Structural mechanics is required.
Basic knowledge of differential and integral, differential equations, linear algebra and vector calculus is required.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境設備システム論

(Building Facilities Systems)

担当者名 /Instructor 安藤 真太郎 / Shintaro ANDO / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC520S	◎	○	○
科目名	環境設備システム論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日課題となっている省エネルギー化を実現させるため、建築環境・設備への導入を対象とした新エネルギー・省エネルギー技術について紹介する。さらに、これらの技術の導入効果を予測するためのシミュレーション技術について紹介し、演習を行う。演習はパソコンによる数値計算演習が中心となる。

【到達目標】

1. 省エネルギー技術の性能予測や性能検証を行うための技術を身につけている。
2. 他者とコミュニケーションをはかり、協働して課題を解決する能力を有している。
3. 理論・経験などの根拠に基づいた信頼性の高い資料を作成する倫理観を修得している。

This course introduces technologies for saving energy and utilizing new energy source which are applied to buildings and building services. Additionally, simulation skills to predict installation effect of the technologies are educated through practices. Personal computers are used in the practices.

【Course Objectives】

1. Acquire the skill for performance prediction and analysis of energy saving technology.
2. Acquire the ability to solve problems through communicate with others.
3. Acquire the skill to create documents based on the knowledge and sense of ethics as an engineer.

教科書 /Textbooks

なし (資料配布) / Not specified

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する / Will be introduced during the lecture appropriately

環境設備システム論

(Building Facilities Systems)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、新エネルギー・省エネルギー技術の紹介
- 2 環境設備システムの導入事例紹介①
- 3 環境設備システムの導入事例紹介②
- 4 環境設備システムの導入事例紹介③
- 5 環境設備システムの導入事例紹介④
- 6 環境設備システムの導入事例紹介⑤
- 7 建物へのパッシブ手法の導入による省エネルギー化①-断熱について-
- 8 建物へのパッシブ手法の導入による省エネルギー化②-その他の手法-
- 9 太陽エネルギー利用とその導入効果①-太陽エネルギー利用技術について-
- 10 太陽エネルギー利用とその導入効果②-太陽エネルギーの計算方法について-
- 11 環境設備システム演習①-省エネルギー設備システムに関する調査概要説明-
- 12 環境設備システム演習②-省エネルギー設備システムに関する調査①-
- 13 環境設備システム演習③-省エネルギー設備システムに関する調査②-
- 14 環境設備システム演習④-省エネルギー設備システムに関する調査発表資料作成-
- 15 環境設備システム演習⑤-省エネルギー設備システムに関する調査発表-

- 1 Guidance and introduction
- 2 Actual examples of environmental building service system -1-
- 3 Actual examples of environmental building service system -2-
- 4 Actual examples of environmental building service system -3-
- 5 Actual examples of environmental building service system -4-
- 6 Actual examples of environmental building service system -5-
- 7 Passive methods applied to buildings for energy saving-1-Insulation-
- 8 Passive methods applied to buildings for energy saving-2-Others-
- 9 Solar energy utilizations-1-Technology of solar energy utilization-
- 10 Solar energy utilizations-2-Calculation of solar energy-
- 11 Practice on building facilities systems-1-Guidance-
- 12 Practice on building facilities systems-2-Research1-
- 13 Practice on building facilities systems-3-Research2-
- 14 Practice on building facilities systems-4-Preparing presentation-
- 15 Practice on building facilities systems-5-Presentation-

成績評価の方法 /Assessment Method

提出レポート/Report 60%
平常点(演習)/Practice, etc 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義資料について事後学習を行うこと。

Review is necessary.

履修上の注意 /Remarks

建築実務インターンシップで、設備設計分野、設備施工管理分野の研修を受ける場合は、本講義を受講しておくことが望ましい。

If you will take part in the internship provided by the company that relates to building service, it is desirable to take this class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シミュレーションやプログラミングは難しいというイメージが定着しがちですが、逆にそれらの技術が身につくと、技術者として社会に出たときの大きな武器になると考えられます。

People commonly think that simulation and programming skills are difficult to learn. However, if you educate the skills, you have great advantages as an engineer.

キーワード /Keywords

○建築・都市エネルギー論

(Theories of Urban and Building Energy Systems)

担当者名 /Instructor 高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~), 中上 英俊 / Hidetoshi NAKAGAMI / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC521S	◎	○	○
科目名	建築・都市エネルギー論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代では、人口、経済のほか、資源・エネルギーの消費と廃棄に関しても、大部分において都市部にその負荷が集中しており、都市のデザイン、生活様式、経済活動、構造等の改善によって初めて、持続可能な循環型社会を達成することが可能となる。本授業では、エネルギー消費削減のための土地利用・施設配置・建築設計について紹介し、本格的な建築・都市エネルギーシステムを論じる。また、建築・都市のエネルギー供給のあり方について、エネルギーの需給構造を分析し、省エネルギー性、経済性、供給安定性、利便性及び環境保全性等の面から勉強することを目的とする。

都市エネルギーに関する実践的な専門知識を修得する。都市エネルギーに関連する調査資料をまとめる技能を身につける。授業で得られた技能を社会で発揮するための表現力を身につける。他者とコミュニケーションをはかり、課題を解決する能力を修得する。理論・経験などの根拠に基づいた信頼性の高い資料を作成する倫理観を持てるようにする

In this lecture, you will develop an understanding – and a real working knowledge – of our energy technologies, policies and options. This will include analysis of the different opportunities and impacts of energy systems that exist within and between buildings and cities. Analysis of the range of current and future energy choices will be stressed, as well as the role of energy in determining local environmental conditions and the global climate.

The students can acquire practical expertise in urban energy. The students can acquire the skills to compile survey materials related to urban energy. The students can acquire the expressive power to demonstrate the skills acquired in class in society. Acquire the ability to communicate with others and solve problems. Let The students have an ethical view of creating highly reliable materials based on evidence such as theory and experience.

教科書 /Textbooks

エネルギーに対する行動フレームワーク/A Framework for Action on Energy

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。/will be introduced during the lecture appropriately.

○ 建築・都市エネルギー論

(Theories of Urban and Building Energy Systems)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概説
 - 2 エネルギー：主な問題と挑戦
 - 3 エネルギーと水
 - 4 エネルギーと健康
 - 5 エネルギーと生物の多様性
 - 6 エネルギーと農業
 - 7 エネルギー効率
 - 8 再生エネルギー
 - 9 先進的な化石燃料技術
 - 10 エネルギーと交通
 - 11 エネルギーへのアクセス
 - 12 エネルギーへの挑戦
 - 13 現代エネルギーサービス
 - 14 エネルギー行動のフレームワーク
 - 15 エネルギーの将来像
-
- 1 Outline
 - 2 Energy : Key Issues and Challenges
 - 3 Energy and Water
 - 4 Energy and Health
 - 5 Energy and Biodiversity
 - 6 Energy and Agriculture
 - 7 Energy Efficiency
 - 8 Renewable Energy
 - 9 Advanced Fossil Fuel Technologies
 - 10 Energy and Transport
 - 11 Energy Accessibility
 - 12 Addressing the Challenges in Energy
 - 13 Modern Energy Services
 - 14 Frameworks of Energy for Action
 - 15 Future of Energy

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート/Report 40%
課題/Theme 40%
発表/Presentation 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業毎にレポートの課題を課し、次の授業で発表したり、議論したりするように授業を進めるので、事前の準備が必要である。
In each lecture, one subject will be presented. The students will need to prepare the subject before the lecture in order to have a presentation in the class.

履修上の注意 /Remarks

この授業は最新の英語教材を使って、翻訳したり、文献を調査したりするので、英語の能力も必要である。
English material will be used. Students need to translate or present in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

石油、天然ガス、石炭等の化石燃料の枯渇、二酸化炭素の排出による地球温暖化、フロンによるオゾン層破壊等の問題がますます顕在化している。本授業は総合的な視野をもち、都市・建築の省エネルギーに取り込み、これらの問題の解決に向けて、少しでも役に立ちたい。

Energy services are essential for sustainable development. The way in which these services are produced, distributed and used affects the social, economic and environmental dimensions of any development achieved. Although energy itself is not a basic human need, it is critical for the fulfilment of all needs. This lecture try to provide a broad view of existing normative and programmatic frameworks in energy area, to highlight interlinkages among the sectors, to identify key gaps and challenges and to highlight areas where further action is needed.

キーワード /Keywords

エネルギー、水、健康、生物の多様性、農業、再生エネルギー、交通

Energy, Water, Health, Biodiversity, Agriculture, Renewable Energy, Transportation

音と光の環境デザイン特論

(Advanced Architectural Acoustics and Lighting Design)

担当者名 /Instructor 福田 裕美 / Yumi FUKUDA / 建築デザイン学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC522S	◎		
科目名	音と光の環境デザイン特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義の前半では、音・振動環境計画に関して、計画の目標、基本計画、広域伝搬と環境計画、一般および特殊建築物における騒音振動と環境計画、音環境と防災計画について体系的に講述し、また音環境のシミュレーション手法を習得することが到達目標である。後半では、光環境計画に関して、視空間の評価と計画、日照・日射、採光、照明について講述し、照明計画シミュレーションの課題を課す。到達目標は光環境計画の知識と手法の習得である。

In the first half, the acoustical / vibrational environmental planning are lectured as follows; the aim of the plan, basic plan, wide area propagation and environment plan, the prevention of noise and vibration in the general and special building and environment plan, acoustical environment and a disaster prevention systematically, and also learn the acoustical simulation technique. By the latter half, the lighting environmental planning is lectured as follows; the planning of the visual space, the sunshine / sunlight, lighting, and impose a problem of the lighting simulation.

【到達目標】

音・光環境計画に関するより実践的な専門知識およびシミュレーション技術を身につけている。

【The goal of this course】

To acquire the practical expertise for the acoustical and lighting planning and the simulation technique.

教科書 /Textbooks

適宜講義資料を配布する。

To be distributed some lecture document appropriately

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

Will be introduced during the lecture appropriately

音と光の環境デザイン特論

(Advanced Architectural Acoustics and Lighting Design)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、建築音響の基本事項の復習
- 2 室内音響計画(1)：計画目標、室の形の設計
- 3 室内音響計画(2)：残響計画
- 4 室内音響計画(3)：各種事例
- 5 音響設計(1)：音響設計法と課題説明
- 6 音響設計(2)：室形の設計
- 7 音響設計(3)：残響時間計算
- 8 演習課題発表・講評
- 9 光・視環境計画(1)：計画目標、光源、光環境計画
- 10 光・視環境計画(2)：視環境計画、照明設備計画
- 11 光・視環境計画(3)：環境照明と光害、予測と評価
- 12 照明計画シミュレーション(1)：課題説明
- 13 照明計画シミュレーション(2)：対象空間の検討
- 14 照明計画シミュレーション(3)：光源・照明器具の選定
- 15 演習課題発表・講評

- 1 Guidance
- 2 Room acoustical planning (1) / design target, design of room shape
- 3 Room acoustical planning (2) / planning of reverberation
- 4 Room acoustical planning (3) / case study
- 5 Acoustical design (1) / explaining of subjects
- 6 Acoustical design (2) / design of room shape
- 7 Acoustical design (3) / calculation of reverberation time
- 8 Presentation
- 9 Visual environmental planning (1) / goal, lighting source, light planning
- 10 Visual environmental planning (2) / visual planning, lighting equipment
- 11 Visual environmental planning (3) / environmental lighting and lighting pollution, estimate and assessment
- 12 Lighting simulation (1) / explaining of subject
- 13 Lighting simulation (2) / study on subjective space
- 14 Lighting simulation (3) / selecting of lighting source and equipment
- 15 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

- 音響設計課題 50%
照明計画課題 50%
* 成績評価のためには最低三分の2以上の出席と2回のプレゼンテーションが必要です。
Work on acoustical design 50%
Work on lighting design 50%
* At least two-thirds of attendance and two presentations are required for grade evaluation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
Students are encouraged to make a preparation and a review for the lecture.

履修上の注意 /Remarks

- 音環境や光環境に関する学部レベルでの基本事項を復習・理解しておくこと。
It is necessary to confirm and understand the basic matter at the department level about the acoustics and the lighting.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 建築空間における音と光に関する現象と理論との関連について十分理解・習得に努めること。
Students are encouraged to understand enough the relation between the phenomenon and the theory on the acoustics and the lighting in the architectural space.

キーワード /Keywords

- 建築音響、照明計画
Architectural Acoustics, Lighting Planning

熱と空気の環境デザイン特論

(Advanced Thermal and Air Environmental Design)

担当者名 /Instructor 白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAISHI / 建築デザイン学科 (19~), 龍 有二 / Yuji RYU / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC523S	◎	○	△
科目名	熱と空気の環境デザイン特論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は、建築空間内外における物理要素のうち特に熱と空気に着目し、それらの物理的な現象の理解と、環境空間の合理的な形成維持メカニズムに関する専門知識の習得を目的としている。熱環境を龍、空気環境を白石が担当する。

This course aims at improving students' understanding about physics of the various physical phenomena of architectural indoor and outdoor space, especially about heat and air as physical elements. Furthermore, it also aims to help students acquire technical knowledge about the mechanism for forming and maintaining an architectural and urban environment. Professors Ryu and Shiraishi will give lectures on thermal and air environment, respectively.

【到達目標】

熱環境及び空気環境の形成・維持メカニズムに関する専門知識を理解している。
熱環境及び空気環境を支配する基礎方程式の数値解析・予測手法に関するスキルを身につけている。
授業を通じて得られた知識や技能を応用するための思考や判断力を身につけ、建築における環境問題解決の意欲を有している。

Course Objectives:

Students will acquire the expertise in the formation mechanism of thermal and air environments.
Students will acquire skills related to numerical analysis and prediction methods for basic equations that govern the thermal and air environments.
Students will acquire the ability to solve environmental problems in addition to thinking and judgment to apply the knowledge and skills gained through class.

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配付する。
Some printed materials are distributed in the class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

CFDによる建築・都市の環境設計工学/村上周三/東京大学出版会
Computational Environment Design for Indoor and Outdoor Climates/Shuzo Murakami/University of Tokyo Press

熱と空気の環境デザイン特論

(Advanced Thermal and Air Environmental Design)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 建築空間における熱と空気 (総論)
 - 2回 空気環境① (CFD解析概論)
 - 3回 空気環境② (CFDの長所と短所)
 - 4回 空気環境③ (流体運動の基礎方程式)
 - 5回 空気環境④ (乱流と層流)
 - 6回 空気環境⑤ (方程式の離散化)
 - 7回 空気環境⑥ (CFDによる各種指標, 空気環境設計)
 - 8回 空気環境⑦ (IAQ, EAQ)
 - 9回 熱環境① (室内熱環境形成機構概論)
 - 10回 熱環境② (非定常熱伝導 1)
 - 11回 熱環境③ (非定常熱伝導 2)
 - 12回 熱環境④ (日射、窓面の取扱い)
 - 13回 熱環境⑤ (負荷計算・熱環境の予測評価)
 - 14回 熱環境⑥ (熱環境計画および全体の総括)
 - 15回 まとめ
-
- 1 Thermal and Air Environment in Architectural Space, Course Overview
 - 2 Air Environment 1, Overview of CFD Analysis
 - 3 Air Environment 2, Characteristics of CFD Analysis
 - 4 Air Environment 3, Governing Equations of Fluid
 - 5 Air Environment 4, Laminar Flow and Turbulent Flow
 - 6 Air Environment 5, Discretization of Equations
 - 7 Air Environment 6, Various Indices and Air Environment Design based on CFD Analysis
 - 8 Air Environment 7, IAQ and EAQ
 - 9 Thermal Environment 1, Mechanism of Thermal Environment
 - 10 Thermal Environment 2, Non-Steady Heat Conduction(1)
 - 11 Thermal Environment 3, Non-Steady Heat Conduction(2)
 - 12 Thermal Environment 4, Solar Radiation and Window
 - 13 Thermal Environment 5, Calculation of Heat Load and Estimation of Thermal Environment
 - 14 Thermal Environment 6, Thermal Environment Design and Review
 - 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
レポート 80%
Participation 20%
Papers 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義回数を重ねる毎に初歩的な内容から発展的な内容へとシフトするように構成を考えている。毎回必ず出席して、復習を行い、理解を深め、知識を積み上げていくようにして下さい。
Attending class every week is crucial for enhancing your understanding and knowledge.

履修上の注意 /Remarks

適宜指示する。
To be assigned in class.
建築実務インターンシップで、意匠設計分野、設備設計分野の研修を受ける場合は、本講義を受講しておくことが望ましい。
Students who have taken or plan on taking internship courses in design and mechanical discipline are encouraged to enroll in this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

建築空間における熱と空気の移動現象の理解は、建物の省エネ性能や快適な室内環境を考える上で重要となります。本講義でそれらの理解を深め、実務(環境計画や設備設計など)や研究で役立てて下さい。

Understanding of heat transfer and air transportation phenomena in architectural space is becoming more and more important when considering the energy-saving performance and the comfortable indoor environment of a building. This course aims to help you understand them and utilize what you learn in your future work (environmental planning and mechanical design, etc.) and research.

キーワード /Keywords

Air Environment, CFD Analysis, IAQ, Thermal Environment, Heat Load

建築エンジニアリングプラクティス

(Architectural Engineering Practice)

担当者名 /Instructor 高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~), 龍 有二 / Yuji RYU / 建築デザイン学科 (19~)
高峯 幸二 / Koji TAKASU / 建築デザイン学科 (19~), 白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAIISHI / 建築デザイン学科 (19~)
城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~), 陶山 裕樹 / Hiroki SUYAMA / 建築デザイン学科 (19~)
小山田 英弘 / Hidehiro KOYAMADA / 建築デザイン学科 (19~), 保木 和明 / Kazuaki HOKI / 建築デザイン学科 (19~)
安藤 真太郎 / Shintaro ANDO / 建築デザイン学科 (19~), 藤田 慎之輔 / Shinnosuke FUJITA / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC501S	○	◎	○
科目名	建築エンジニアリングプラクティス		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

建築の生産管理、構造解析・設計、材料工学、環境設備システムなど建築エンジニアリングの分野において、より実践的な演習課題を設定し、課題に対する文献調査、情報収集、演習、結果の発表・討論を通じて、内容の理解と問題解決能力の養成を図る。学期前半は建築分野における複合的・境界領域的な課題に数人のチームを編成して取り組み、学期後半は、学生ごとに各自の専門分野の文献に関する討論発表を行う。なお、本授業は一級建築士実務認定対象科目である。

This course aims at improving students' problem-solving abilities by tackling practical and complex problems in the field of architectural engineering, such as building construction methods, structural analysis, building materials, building services and environmental design.

This class is one of the authorized courses for first-class registered architect.

【到達目標】

建築に関する専門知識を修得する。建築に関する課題を解決する技術を身につける。
課題に取り組むことによって成果を得るための思考、判断力を身につける。
他者とコミュニケーションをはかり、課題を解決する能力を修得する。
理論・経験などの根拠に基づいた信頼性の高い資料を作成する倫理観を持てるようにする。

Course Objectives:

Acquire expertise in architecture. Acquire technology to solve architectural problems.
Acquire thinking and judgment to achieve results by tackling problems.
Acquire the ability to communicate with others and solve problems.
To be able to have an ethical sense of creating highly reliable materials based on the theory and experience.

教科書 /Textbooks

特に指定しない。/No text is required for this course.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中適宜指示する。/To be announced in class

建築エンジニアリングプラクティス

(Architectural Engineering Practice)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、テーマ説明、グループ分け、役割分担
 - 2 テーマに関する情報収集、活動記録提出
 - 3 調査研究実施と討論（その1）、活動記録提出
 - 4 中間報告（相談会）第1回
 - 5 調査研究実施と討論（その2）、活動記録提出
 - 6 調査研究実施と討論（その3）、活動記録提出
 - 7 中間報告（相談会）第2回
 - 8 まとめ、提案、活動記録提出
 - 9 プレゼンテーション準備
 - 10 課題①のプレゼンテーション（グループ）
 - 11 既往の論文調査、情報収集
 - 12 文献精読
 - 13 まとめ、プレゼンテーション準備
 - 14 課題②のプレゼンテーション（個人）
 - 15 全体の総括
-
- 1 Guidance and forming study groups for subject No.1
 - 2 Information gathering for each subject No.1
 - 3 Surveying and research(1)
 - 4 Interim report(1)
 - 5 Surveying and research(2)
 - 6 Surveying and research(3)
 - 7 Interim report(2)
 - 8 Work for conclusion and suggestion
 - 9 Preparation for presentation
 - 10 Presentation in subject No.1
 - 11 Information gathering for individual subject No.2
 - 12 Investigation of literature
 - 13 Preparation for presentation
 - 14 Presentation in subject No.2
 - 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
活動報告書 20%
プレゼンテーション 50%
Participation 30%
Reports 20%
Presentation 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の復習を行うこと。
Review is necessary.

履修上の注意 /Remarks

具体的なテーマの選定、調査研究方法、スケジュール管理は履修生の自主性に委ねられている。本授業の受講にあたっては、建築実務インターンシップを履修することが望ましい。

The selections of concrete subject, the methods of investigation and the detailed scheduling are entrusted to the independency of students. The students who wish to take this class should enrol the course of "Architectural Internship".

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

建築の生産管理、構造解析・設計、材料工学、環境設備システム、建築エンジニアリング

○低炭素建築都市デザイン論

(Low Carbon Architecture and Urban Design)

担当者名 /Instructor 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARC531S	○	◎	○
科目名	低炭素建築都市デザイン論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

前半は、低炭素型建築の事例研究、後半は、建築と結びついた低炭素型都市に関わる事例研究を行い、建築設計や都市デザインの分野で、どのように持続可能で低環境負荷型の設計が行われているかを理解する。建築自体で環境に配慮するだけでなく、都市及び街区全体で環境に配慮することの意味を学ぶ。

In the first series of sessions we will deal with research on low carbon architecture, in the second series, we will search on sustainable urban cities. We will learn how sustainable architecture or cities are designed and realized in actual fields, and understand the importance of planning a unite of blocks or cities in addition to designing a sustainable building.

【到達目標】

低炭素型建築及び都市のより実践的で高度な専門知識を身につけている。

低炭素型建築及び都市に関する事例研究及び発表を通し、実践的な表現力を身につける。

地球環境に寄与することの意義、重要性を理解し、建築や都市レベルでの環境問題に関心を持ち、高い倫理観を身につけている。

Course Objectives:

Acquire more practical and advanced expertise in low-carbon architecture and urbanism.

Acquire practical expression skills through case studies and presentations on low-carbon architecture and cities.

Understand the significance and importance of contributing to the global environment, take an interest in environmental issues at the architectural and urban levels, and acquire high ethical standards.

教科書 /Textbooks

特になし
none

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) Sustainable Architecture
- 2) 都市環境学

○低炭素建築都市デザイン論

(Low Carbon Architecture and Urban Design)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 低炭素型建築デザイン事例研究 1 都心型1
- 3 低炭素型建築デザイン事例研究 2 都心型 2
- 4 低炭素型建築デザイン事例研究 3 郊外型 1
- 5 低炭素型建築デザイン事例研究 4 郊外型2
- 6 低炭素型建築デザイン事例研究 5 海外事例1
- 7 低炭素型建築デザイン事例研究 6 海外事例2
- 8 低炭素型都市デザイン事例研究 1
- 9 低炭素型都市デザイン事例研究 2
- 10 低炭素型都市デザイン事例研究 3
- 11 低炭素型都市デザイン事例研究 4
- 12 低炭素型都市デザイン事例研究 5
- 13 低炭素型都市デザイン事例研究 6
- 14 低炭素型都市デザイン事例研究 7
- 15 発表会 (プレゼンテーション / 口頭試問)

- 1 Guidance
- 2 Low carbon architecture Case study 1: Inner city 1
- 3 Low carbon architecture Case study 2: Inner city 2
- 4 Low carbon architecture Case study 3: urban fringe studies 1
- 5 Low carbon architecture Case study 4: urban fringe studies 2
- 6 Low carbon architecture Case study 5: foreign cities 1
- 7 Low carbon architecture Case study 6: foreign cities 2
- 8 Low carbon cities Case study 1
- 9 Low carbon cities Case study 2
- 10 Low carbon cities Case study 3
- 11 Low carbon cities Case study 4
- 12 Low carbon cities Case study 5
- 13 Low carbon cities Case study 6
- 14 Low carbon cities Case study 7
- 15 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加 5%、質疑 5%、平常点10% Attendance and Collaboration of Lectures 20%

事例研究に対する評価 40%	Evaluation of Case Study Research	40%
プレゼンテーションの評価 40%	Evaluation of Final Presentation	40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、課題に対する調査を十分行う必要があります。
You have to research on the subjects before attending the classes.

履修上の注意 /Remarks

事例研究では、URL、出典を明記してください。
You have to clarify the source of the materials for your presentation, such as URL.
事前学習を行うこと。
You need to prepare for a lecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

平素から本授業に関わる事例に関心を持ち、記録、収集等を行っておくことを推奨します。
Gathering information on sustainable architecture and cities is very important and will be helpful to understand better the lectures.

キーワード /Keywords

低炭素 都市 建築 持続可能性
Low Carbon, Cities, Architecture, Buildings, Sustainability

ソフトコンピューティング

(Soft Computing)

担当者名 /Instructor 古月 敬之 / Takayuki FURUZUKI / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC503S	◎	△	○
科目名	ソフトコンピューティング		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

新しい情報処理方式として注目を浴びているソフトコンピューティング技術であるニューラルネットワーク、ファジイシステム、遺伝的アルゴリズムについて理解する。これらの技術は生物をヒントとして得られたものであり、共通点を持ち、融合されることによってますます優れた技術になっていく。本講義では、この3つの技術、特にニューラルネットワークを実際の応用例を交えながら学習する。3つの技術の特徴と望ましい適用範囲を理解し、問題の定式化手法を身につけることを到達目標とする。

This course aims to understand Soft Computing including neural networks, fuzzy systems and genetic algorithms. Soft Computing is a new kind of information processing technologies learned from living things. In the course, those technologies are introduced in an easy-understanding way. Especially for neural networks, the motivation, the network structure and the learning algorithm are explained from the basic to the advanced in details.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

荻原将文, 「ニューロ・ファジイ・遺伝的アルゴリズム」, 産業図書, 1994
L. Fausett, Fundamentals of Neural Networks: Architectures, Algorithms, and Applications, Prentice-Hall, Inc., New Jersey, 1994
Yoshua Bengio, Ian Goodfellow, Aaron Courville, Deep Learning, MIT Press, 2016

ソフトコンピューティング

(Soft Computing)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生物から学んだ技術
 - 2 ファジイ理論基本
 - 3 ファジイ推論システム
 - 4 遺伝的アルゴリズム
 - 5 ニューラルネットワークの構成 (I) 【脳とニューロンモデル】
 - 6 ニューラルネットワークの構成 (II) 【多層パーセプトロン】
 - 7 ニューラルネットワークの学習 (I) 【パーセプトロン学習】
 - 8 ニューラルネットワークの学習 (II) 【BP学習アルゴリズム(1)】
 - 9 ニューラルネットワークの学習 (III) 【BP学習アルゴリズム(2)】
 - 10 RBFネットワークとサポートベクターマシン
 - 11 ディープラーニング (I) 【CNN】
 - 12 ディープラーニング (II) 【RNN】
 - 13 ディープラーニング (III) 【生成モデル】
 - 14 ディープラーニング (IV) 【深層強化学習】
 - 15 まとめ
-
- 1 Technologies Learned from Living Things
 - 2 Fuzzy Theory Introduction
 - 3 Fuzzy Inference System
 - 4 Genetic Algorithms
 - 5 Neural Network Structure (I) 【Artificial Neuron Model】
 - 6 Neural Network Structure (II) 【Multilayer Perceptron】
 - 7 Neural Network Training (I) 【Perceptron Learning】
 - 8 Neural Network Training (II) 【BP Algorithm (1)】
 - 9 Neural Network Training (III) 【BP Algorithm (2)】
 - 10 RBF Network and Support Vector Machine
 - 11 Deep Learning (I) 【Convolutional Neural Network】
 - 12 Deep Learning (II) 【Recurrent Neural Network】
 - 13 Deep Learning (III) 【Generative Models】
 - 14 Deep Learning (IV) 【Deep Reinforcement Learning】
 - 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み / Attitude of participation 15%
 宿題 / Homework 15%
 レポート / Report 20%
 最終試験 / Final examination 50%
 その他、7割以上の出席を必須とします / 70% Attendance rate needed.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回授業の前に授業の内容を予習し、授業の後に自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
 It is required to preview before each class, and review and practice after each class.

履修上の注意 /Remarks

ベクトル・マトリックス代数、微分および機械学習の基礎を修得していること。
 It is desirable to have good knowledge of vector and matrix algebra, differentiation, as well as machine learning.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。
 It will be a little difficult class, so concentrate on taking it.

キーワード /Keywords

ニューラルネットワーク、ファジイシステム、遺伝的アルゴリズム/Neural network, Fuzzy system, Genetic algorithm

○適応信号処理

(Adaptive Signal Processing)

担当者名 /Instructor 孫 連明 / Lianming SUN / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 受講人数に制限があります。/There is a limit to the number of participants. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC520S	◎	△	○
科目名	適応信号処理		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

信号とシステムの特性が時間とともに変化している場合、その変化に応じて処理システムの実時間調整を行う適応処理が必要である。本講義の目標は適応信号処理の基本理論と実用テクニックを理解し、実際問題へ応用することである。講義では基本的な適応信号処理アルゴリズムについて学習し、アルゴリズムの原理、収束特性解析、アルゴリズムの実現を理解する。また、計測データ解析、適応フィルタ、適応干渉キャンセラの設計に関する応用技術を数値シミュレーションを行い、適応信号処理の理論的原理と実用テクニックの理解を深める。

Adaptive signal processing takes an important role in real time signal processing when the characteristics of signal and system change with time. The fundamentals and practical techniques of adaptive signal processing are discussed in the lecture. Several typical adaptive signal processing algorithms are investigated, and their principles, convergence properties, numerical implementations are studied in detail. Moreover, both the fundamentals of theory and application techniques are experienced through some numerical simulation examples such as design of adaptive filter, interference canceller and processing of instrumentation data.

到達目標は次のとおりである。

- ・ 情報系工学の総合的な専門知識を有し、適応信号処理及び人工知能に関する専門知識を持つ。信号計測、情報通信の信号処理システムを設計し、実装する技能を身につけている。
- ・ 信号処理分野の課題について、システム設計に応える有効な適応処理手法を開発し、数値検証を行い、これらの過程を学術論文としてまとめて発表することができる。
- ・ 計算機科学分野の研究者として、地域社会や組織の中で他者と効果的なコミュニケーションをとり、社会的責任感と倫理観に基づいて、自律的に信号処理問題解決に取り組む行動力を持つ。

【Course Objectives】

- ・ Students have acquired general specialized knowledge in the field of information technology, especially adaptive signal processing and artificial intelligence, and have acquired skills in designing and implementing signal processing in instrumentation and communication systems.
- ・ Students will be able to develop effective adaptive processing algorithms for system design, evaluate their performance in practical applications, and present these processes in an academic paper.
- ・ As researchers in the field of computer science, students have the ability to communicate effectively with others in the community and organization and act autonomously to deal with the practical signal processing problems based on a sense of social responsibility and ethics.

教科書 /Textbooks

講義資料配布 Electronic materials

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Adaptive Filter Theory, S. Haykin, Prentice Hall

○適応信号処理

(Adaptive Signal Processing)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 適応システム入門：適応システムの構成と特徴
 2. 適応信号処理の基本計算
 3. 適応信号処理の基礎：信号とシステム
 4. 適応信号処理のための最適アルゴリズム
 5. 数値計算環境入門
 6. 最急降下法の原理、アルゴリズムと収束特性
 7. 最急降下法のシミュレーション例
 8. 数値演習
 9. LMSアルゴリズムの導入とアルゴリズムの実現
 10. LMSの拡張アルゴリズム
 11. LSアルゴリズムの原理と特徴、RLSアルゴリズムの導入
 12. RLSアルゴリズムの応用例
 13. 最急降下法、LMSアルゴリズムとRLSアルゴリズムの比較
 14. 適応信号処理の新展開
 15. 数値演習とまとめ
-
1. Adaptive system and its structure
 2. Mathematical fundamentals for adaptive signal processing
 3. Mathematical fundamentals: Signal and systems
 4. Optimization algorithms for adaptive signal processing
 5. Introduction to numerical environment
 6. Principles of steepest descent algorithm and its convergence
 7. Application examples of steepest descent algorithm
 8. Exercise of steepest descent algorithm
 9. Introduction to LMS algorithm and its implementation
 10. Extension of LMS algorithms
 11. Principles of LS and RLS algorithms
 12. Application examples of RLS algorithm
 13. Comparison of steepest descent algorithm, LMS and RLS algorithms
 14. New techniques in adaptive signal processing
 15. Numerical exercise

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 50%
レポート 50%

Exercises 50%
Reports 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前、講義資料 (moodleで提供) を確認し、適応アルゴリズムの応用背景を理解しておくこと
授業後、演習問題を取り組んで学んだ内容を確実に身につけること
Confirm the materials uploaded to Moodle system before the lecture to learn the main topics and the background of the lecture.
Solve the numerical problems to understand the fundamental theory and applications after the lecture.

履修上の注意 /Remarks

信号と線形システムに関する基礎知識、数値解析を理解していることが望ましい。
It is desired to have understood Signal, Linear System and Numerical Analysis.

授業終了後には演習で用いたアルゴリズムの特徴、作成したプログラムを確認し、適応信号処理の基本アルゴリズムと計算のテクニックを理解する。
Understand the fundamental algorithms and computational techniques through investigating the algorithms and programs used in exercises after the lectures.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

適応信号処理は、信号処理、通信などの分野において不可欠な技術である。講義と数値演習を通して適応信号処理の基本理論と実用技法を理解し、実際のシステムで活用することを期待する。
Adaptive signal processing is essential in signal processing and communication systems. It is expected to master both the fundamental theory and the implementation techniques through lectures and numerical exercises, and make use them into practical applications.

キーワード /Keywords

適応システム、適応アルゴリズム、最急降下法、LMSアルゴリズム、RLSアルゴリズム
Adaptive system, adaptive algorithm, steepest descent algorithm, LMS algorithm, RLS algorithm

組み込みソフトウェア

(Software for Embedded Systems)

担当者名 /Instructor 山崎 進 / Susumu YAMAZAKI / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
INF524S	◎	△	○
科目名	組み込みソフトウェア		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

【到達目標】

- ・ 組み込みソフトウェアに関する幅広い専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている
- ・ 組み込みソフトウェアを組み込みに必要な基盤となるスキルを身につけている
- ・ 組み込みソフトウェアについて、学際的・複眼的に思考して解決策を探究し、専門の見地から自分の意見を適切な方法で表現できる

【概要】

コンピュータシステムは、PCやスマートフォンのようなものだけでなく、電化製品や自動車、航空機、ドローンなど幅広い製品に組み込まれています。製品に組み込まれたコンピュータシステムを組み込みシステムと呼び、そのソフトウェアを組み込みソフトウェアと呼びます。

組み込みシステムは物理空間と相互作用することが求められます。物理空間とコンピュータの中のサイバー空間の間をつなぐシステムという意味で、Cyber-Physical System (CPS) という捉え方をするようになってきました。物理空間では複数の事象が同時に(concurrently)起こるため、CPSはリアルタイムかつ並行に(concurrently)動作することが求められます。

本講義では、組み込みシステムとCPSに関する世界的に有名な教科書(カリフォルニア大学バークレー校などで使用されています)を概観します。

【Course Objectives】

- ・ The students acquire a wide range of specialized knowledge about embedded software.
- ・ The students understand the fundamental skills required to assemble embedded software.
- ・ The students can take an interdisciplinary manner to search for solutions on embedded software.

【Course Description】

A computer system may be embedded into various products, such as PCs, smartphones, electrical appliances, automobiles, airplanes, and drones. Such a system is called an embedded system. Moreover, its software is called embedded software.

Embedded systems are required to interact with the physical space. Therefore, they are redefined as Cyber-Physical Systems (CPS), bridging physical space and cyberspace. Therefore, two or more events may occur concurrently in the physical space, so CPS should run in real-time and concurrently.

In this class, students learn an overview based on the embedded systems and CPS textbook, which is famous globally and adopted at the University of California, Berkeley, etc.

教科書 /Textbooks

E. A. Lee and S. A. Seshia, Introduction to Embedded Systems: A Cyber-Physical Systems Approach, The MIT Press, 2017. Available at <https://ptolemy.berkeley.edu/books/leeseshia/>

組み込みソフトウェア

(Software for Embedded Systems)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. Alur, Principles of Cyber-Physical Systems, The MIT Press, 2015.
R. Rajkumar, D. de Niz, M. Klein, Cyber-Physical Systems, Addison-Wesley, 2017.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
2. Preface, Chapter 1 Introduction
3. Part I Modeling: Chapter 2 Continuous Dynamics: Newtonian Mechanics, Actor Models (連続ダイナミクス: ニュートン力学, アクターモデル)
4. Chapter 2 Continuous Dynamics: Properties of Systems, Feedback Control (システムの特徴, フィードバック制御)
5. Chapter 3 Discrete Dynamics: Discrete Systems, The Notion of State (離散ダイナミクス: 離散システム, 状態の記法)
6. Chapter 3 Discrete Dynamics: Finite-State Machines, Extended State Machines (有限状態機械, 拡張状態機械)
7. Chapter 3 Discrete Dynamics: Nondeterminism, Behavior and Traces (非決定性, ふるまいとトレース)
8. Part II Design: Chapter 7 Sensor and Actuator (センサーとアクチュエーター)
9. Chapter 8 Embedded Processors (組み込みプロセッサ)
10. Chapter 9 Memory Architecture (メモリアーキテクチャ)
11. Chapter 10 Input and Output: I/O Hardware (入力と出力: I/Oハードウェア)
12. Chapter 10 Input and Output: Sequential Software in a Concurrent World (並行世界の逐次ソフトウェア)
13. Part III Analysis: Chapter 13 Invariants and Temporal Logic: Invariants, Linear Temporal Logic, Propositional Logic Formulas (不変条件と時相論理: 不変条件, 線形時相論理, 命題論理式)
14. Part III Analysis: Chapter 13 Invariants and Temporal Logic: LTL Formulas, Using LTL Formulas (線形時相論理式, 線形時相論理式の利用)
15. Summary (まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート: 100%
ただし, 毎授業行う合計15回のアンケートに10回以上回答することを必要とする

Reports: 100%
It is necessary to answer 10 times or more in a total of 15 questionnaires conducted in each class.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

集中講義のため, 授業時間中に最善が尽くせるよう, 体調やモチベーション等の自己管理をすること
You should manage and keep your condition and motivation to do your best in this study, because this is an intensive course.

履修上の注意 /Remarks

関連科目として組み込みハードウェアとソフトウェア検証論も合わせて履修することを推奨します。

We recommend that the students should take the class on embedded hardware and software verification.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は2021年度よりリニューアルしました。教科書は明快に組み込みソフトウェアの理論を説明しています。

This class has been renewal since 2021. The textbook explains the theory of embedded software, clearly.

キーワード /Keywords

組み込みソフトウェア (embedded software), 組み込みシステム (embedded system), リアルタイムOS (realtime operating systems), CPS (Cyber-Physical System), M2M (Machine to Machine), IoT (Internet of Things), ソフトウェア工学 (software engineering), モデルベース開発(model-based development), 形式手法 (formal methods)

ソフトウェア検証論

(Software Verification)

担当者名 /Instructor 青木 利晃 / Toshiaki AOKI / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
INF512S	◎	△	○
科目名	ソフトウェア検証論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ソフトウェア検証論

(Software Verification)

授業の概要 /Course Description

信頼性の保証は組み込みソフトウェア開発などにおいて特に重要であり、そのためのアプローチである形式検証の基礎と応用について講義を行う。形式検証がどのようなものであるかを理解するとともに、その原理や理論についても紹介する。

For embedded software, it is very important to ensure reliability in its developments. This lecture deals with foundations and applications of formal verification to realize highly reliable software. Students learn the principle and theory of the formal verification after introducing their overview.

【学位授与基準DPと到達目標 (Diploma Policy and Course Objectives)】

1. 知識・理解 (Knowledge and Comprehension) :

ソフトウェアの品質を保証する検証技術に関する基礎知識及び専門知識を修得する。

The learner will acquire basic and advanced knowledge on verification technologies ensuring software quality.

- 形式手法、および、検証について、その概要について説明できる。

The learner will explain the overview of formal methods and verifications in his/her own words.

- 代表的な形式手法である、モデル検査について、具体的な例を用いて説明できる。

The learner will explain model checking which is a typical formal method using examples in his/her own words.

- 形式手法やソフトウェアテストを含む他の品質保証技法とモデル検査との違いが説明できる。

The learner will explain difference between model checking and the other quality assurance technologies including other formal methods and software testing.

2. 技能 (Skills) :

ソフトウェアの品質を保証する検証手法に関する技能を身につける。

The learner will acquire skills of verification methods ensuring software quality.

- モデル検査ツールSpinを用いて、小規模の並行プロセスの振る舞いを記述し、その性質を検証できる。

The learner will describe and verify small examples of concurrent processes using a model checking tool Spin.

3. 思考・判断・表現 (Thinking, Decision Making and Writing):

ソフトウェアの検証に関する問題を解決する能力を身に付ける。

The learner will acquire skills to solve problems on software verification.

- 実際のシステムを形式手法を用いて開発する際の問題点や利点について、考察できる。

The learner will state problems and advantages of formal methods in applying them into practical systems in his/her own words.

- 他の品質保証技術との役割分担を判断できる。

The learner will judge and coordinate model checking, software verification and other software assurance technologies.

4. 関心・意欲・態度 (Interests, Motivation to Learn and Attitude):

ソフトウェアの検証に関する新しい技術を修得し続けるのに必要な基礎を身に付ける。

The learner will acquire fundamental knowledge and skills to continue spending efforts to learn new technologies on software verification.

- この授業で学んだ知識や技能を他の品質保証のツールの習得に応用できる。

The learner will apply knowledge and skills, which are learned in this course, to learn other software assurance tools.

教科書 /Textbooks

特に無し。/None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○Gerard J. Holzmann: The Spin Model Checker: Primer and Reference Manual, Addison-Wesley, ISBN: 0321228626

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ソフトウェア検証の概要
2. 状態遷移モデル
3. 振る舞いのモデル化
4. 非決定性・並行性・協調動作
5. モデル検査の概要
6. プロセスの制御構造
7. 並行プロセスのモデル化1【並行動作】
8. 並行プロセスのモデル化2【協調動作】
9. 表明
10. デッドロック
11. 進行性
12. 時相論理
13. 並行・分散アルゴリズムの検証
14. 並行プログラムの検証
15. レポート作成

ソフトウェア検証論

(Software Verification)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Overview of software verification
2. State transition model
3. Modeling behavior
4. Non-determinism, determinism and collaborative behavior
5. Overview of model checking
6. Control flow of process
7. Modeling concurrent process I 【concurrent behavior】
8. Modeling concurrent process II 【collaborative behavior】
9. Assertion
10. Deadlock
11. Progress
12. Temporal logic
13. Verification of concurrent and distributed algorithms
14. Verification of concurrent programs
15. Report preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 50% , レポート 50%
Exercises 50%, Reports 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義終了後に授業の内容を反復すること / Practice repeatedly after lessons.

履修上の注意 /Remarks

ノートPCを持参すること。講義中にネットワーク経由でモデル検査ツールSPINをインストールします。SPINを使うにはgccやminGWなどのCコンパイラが必要なので、事前にインストールされていることが望ましい。
Bring a laptop PC for this class. A model checking tool SPIN is supposed to be installed via Internet during the class. Because a C compiler such as gcc and mingGW is needed in order to use SPIN, installing it beforehand is desirable.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソフトウェア信頼性, 形式手法, 検証, モデル検査, 並行システム
Reliability of software, Formal methods, Verification, Model checking, Concurrent systems

ソフトウェア工学概論

(Software Engineering)

担当者名 /Instructor 山崎 進 / Susumu YAMAZAKI / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
INF510S	◎	○	○
科目名	ソフトウェア工学概論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

【到達目標 (Course Objectives)】

- ソフトウェア工学に関する幅広い専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている
- ソフトウェア工学に関する高度な専門知識を自ら取得するためのスキルを身につけている
- ソフトウェア工学について、総合的に思考して解決策を探究し、専門的見地から自分の考えを論理的に表現できる
- Students acquire a wide range of specialized knowledge in software engineering systematically and comprehensively.
- Students have the skills to acquire advanced expertise in software engineering on their own.
- Students should be able to think comprehensively about software engineering, explore solutions, and express their ideas logically from a professional perspective.

【概要 (Description)】

ソフトウェア工学は、ソフトウェア開発の理論と実践の両面の知恵を結集した知識体系です。実際のソフトウェア開発ではプログラミングだけでなく様々な作業を行います。この授業では、ソフトウェア開発がどのように行われているか概観します。大学院生ともなれば、能動的・自律的に深く学べる能力を身につけることに加えて、英語で書かれた最新の技術を学べる能力を身につけることも欠かせません。この授業では、ソフトウェア工学を学ぶことを通して、能動的・自律的な深い学びかたを習得するとともに、英語で技術を学ぶことも習得します。技術は急速に進化するので知識は陳腐化していく運命がありますが、だからこそ、技術ではなく技術の学び方を学ぶことが強く求められます。この経験は今後おおいに役立つことでしょう。

This class, Software Engineering, instructs a body of knowledge of theories and practices on software development. Actual software development includes not only programming but also various other activities. This class shows an overview of how we develop software.

Graduate students should learn something actively, autonomously, and deeply. They should also learn the state of the art technologies written in English. We also design this class to facilitate active, autonomous, and deep learning in the learning process on software engineering and learning technologies in English. It is strongly needed to learn technology and how to learn technology because technology has evolved rapidly and has become obsolescent. We believe the students' experience in this class will be helpful for their future.

教科書 /Textbooks

- 英語の Wikipedia と SWEBOK Evolution
- Wikipedia (in English) and SWEBOK Evolution

ソフトウェア工学概論

(Software Engineering)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

主要な参考書を掲載します。学生の興味に応じて授業中にも紹介します。

This section shows some major references. According to students' interests, other references will be introduced to class.

○実践ソフトウェアエンジニアリング～ソフトウェアプロフェッショナルのための基本知識 ロジャー・プレスマン著 西康晴ほか監訳 日科技連出版社

○Software Engineering: A Practitioner's Approach. Roger Pressman. McGraw-Hill.

○ソフトウェア工学～理論と実践 シャリ・ローレンス・プリーガー著 堀内泰輔訳 ピアソン・エデュケーション (絶版)

○Software Engineering: Theory and Practice, Shari Lawrence Pfleeger, Pearson Education.

○ソフトウェアエンジニアリング基礎知識体系-SWEBOK2004 松本吉弘訳 オーム社

SWBOK. IEEE Computer Society. available at <http://www.computer.org/portal/web/swebok/home>

○ソフトウェア開発201の鉄則 アラン・デービス著 松原友夫訳 日経BP社

201 Principles of Software Development. Alan M. Davis. IEEE Computer Society.

The Essence of Software Engineering: Applying the SEMAT Kernel. Ivar Jacobson et al. Addison-Wesley.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
2. Read the item "Software Engineering" in Wikipedia in English.
3. Read chapter 3, "Software Construction," 3.1 to 3.3 in SWEBOK Evolution.
4. Read chapter 3, "Software Construction," 3.4 to 3.5 in SWEBOK Evolution.
5. Read chapter 2, "Software Design," 2.1 to 2.2 in SWEBOK Evolution.
6. Read chapter 2, "Software Design," 2.3 to 2.5 in SWEBOK Evolution.
7. Read chapter 2, "Software Design," 2.6 to 2.8 in SWEBOK Evolution.
8. Read chapter 1, "Software Requirements," 1.1 to 1.2 in SWEBOK Evolution.
9. Read chapter 1, "Software Requirements," 1.3 to 1.5 in SWEBOK Evolution.
10. Read chapter 1, "Software Requirements," 1.6 to 1.8 in SWEBOK Evolution.
11. Read chapter 4, "Software Testing," 4.1 to 4.3 in SWEBOK Evolution.
12. Read chapter 4, "Software Testing," 4.4 to 4.6 in SWEBOK Evolution.
13. Read chapter 8, "Software Engineering Process", 8.1 to 8.2 in SWEBOK Evolution.
14. Read chapter 8, "Software Engineering Process", 8.3 to 8.5 in SWEBOK Evolution.
15. Read chapter 10, "Software Quality", 10.1 to 10.4 in SWEBOK Evolution.

成績評価の方法 /Assessment Method

【到達目標ごとの成績評価 / Assessment for Each Course Objective】

- ・教科書の要約 (レポート: 30%) / The textbook summary (Report: 30%)
- ・各トピックに関連する疑問点 (レポート: 20%) / Questions for each topic (Report: 20%)
- ・専門用語の説明 (レポート: 50%) / Explanation for each technical term (Report: 50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・授業前に教科書を読んで要約と疑問点を書いて提出すること。
- ・授業後に専門用語の説明を記述して提出すること。
- ・ Describe and submit the textbook summary and questions for each topic before each class.
- ・ Describe and submit the explanation for each technical term after each class.

履修上の注意 /Remarks

- プログラミングなどのソフトウェア開発をした経験があるか、卒業研究などのプロジェクト活動を行った経験があることを前提としています。どちらも経験ない場合には補習をしますので、学期が始まる前に担当教員に相談してください。
- 学生は授業時間中の学習だけでなく予習・復習を多く行う必要があります。ただし、最低限どのような予習・復習をすべきかについては、教員がオリエンテーションならびに授業中に明示します。
- This class requires experience in software development (including programming) or project-based activity including graduation research. Contact the instructor before starting the term if the student does not have above-mentioned experience, to take supplementary lessons.
- The student must prepare and review his/her lesson very much. However, the instructor will show how the learner should prepare and review his/her lesson at least, in the orientation and each lecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業の設計にあたって最も重要な点は、くり返しになりますが、ソフトウェア工学に対する学生の自発的な問いに沿った深い学びのプロセスを促進することです。これを強化することで学生が卒業した後も自分の力で新たな知識を習得できることを狙っています。ソフトウェア分野

ソフトウェア工学概論

(Software Engineering)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

は技術の多くが急速に陳腐化してしまうので，単に知識を習得できるだけでは不十分です。知識の習得のしかたそのものを学ぶ必要があるのです。

The most important concept of this class design is to facilitate deep learning process started from a question of each student for software engineering topics. To strengthen it, the student will learn new knowledge by him/herself after finishing the whole course of study. Because software technology is evolved rapidly and becomes obsolescent, it is required not only to learn knowledge but also to learn how to learn knowledge.

キーワード /Keywords

ソフトウェア工学，ソフトウェア開発，プログラミング，設計，要求開発，品質保証，ソフトウェアテスト，ソフトウェアプロセスモデル，ソフトウェアライフサイクル

Software engineering, software development, programming, software design, requirements engineering, quality assurance, software testing, software process model, software life cycle

○視覚情報処理

(Visual Information Processing)

担当者名 /Instructor 佐藤 雅之 / Masayuki SATO / 情報システム工学科 (19 ~) , 玉田 靖明 / Yasuaki TAMADA / 情報システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC523S	◎	△	○
科目名	視覚情報処理		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人間の視覚系に関する研究と計算機に視覚機能を実装するための研究に関して、最近のトピックを幅広く学ぶ。授業は輪講形式で行う。下記のテキストを章ごとに担当者を決め、内容を報告してもらい、それに関して全員で討論する。

To study recent topics on human and machine vision, every student should give a presentation about a chapter of designated textbooks in turn and discussion about the topic among all attended students will follow.

到達目標は以下のとおりである。

- ・ 画像と視覚に関する最近の研究動向を理解し、説明することができる。

The goal is that all students understand the recent trends in research on human vision and image processing and explain about them clearly.

教科書 /Textbooks

講座「視覚心理」(映像情報メディア学会誌 2004)

講座「コンピュータビジョン」(映像情報メディア学会誌 2006)

講座「誰にでもわかる3D」(映像情報メディア学会誌 2011)

Visual Psychophysics, The Journal of the ITE, 2004

How does Computer-Vision Imitate Human-Vision with the Latest Techniques? The Journal of the ITE, 2006

3D that Everyone Understands, The Journal of the ITE, 2011

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小特集「運転者の知覚・認知能力の診断と補償」(映像情報メディア学会誌2007/12)

Perception and Cognition of Car-Drivers, The Journal of the ITE, Dec., 2007

○視覚情報処理

(Visual Information Processing)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
 - 2 眼の仕組みと脳への経路
 - 3 視覚情報処理の神経機構
 - 4 色覚
 - 5 脳活動の可視化
 - 6 立体視
 - 7 運動視
 - 8 バーチャルリアリティ
 - 9 注意
 - 10 顔の認知
 - 11 機械の視覚と人の視覚
 - 12 コンピュータビジョンの基礎
 - 13 将来の3次元ディスプレイ
 - 14 バイオメトリック認証
 - 15 まとめ
-
- 1 Guidance
 - 2 Structure of the Eye and Visual Pathway
 - 3 Neural Mechanisms of Visual Information Processing
 - 4 Color Vision
 - 5 Visualization of Human Brain Activity
 - 6 Stereopsis and Space Perception
 - 7 Motion Perception
 - 8 Virtual Reality
 - 9 Attentional Influences on Visual Sensitivity
 - 10 Face Recognition
 - 11 Human and Machine Vision
 - 12 Basics of Computer Vision
 - 13 Future Three-Dimensional Display
 - 14 Biometrics Authentication
 - 15 Conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の度合い 100%
Participation in the discussion 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習
毎回必ず予習し、授業の前々日までに疑問点をまとめたレポートを提出する。
Report should be submitted via email before the class.

事後学習
授業中に疑問に思ったこと、興味をもったことについて詳しく調べる。
Participants should study further reflecting the discussion during the class.

履修上の注意 /Remarks

担当者以外の受講生も事前にテキストによく目を通しておくことが求められる。すべての受講生は毎回授業の前々日までに該当する章の内容について疑問点をまとめたレポートを提出することが義務付けられる。
All students should read the chapter of the textbook and send report before the class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく準備をして、積極的に発言してください。
Please participate in the discussion actively.

キーワード /Keywords

○パターン認識応用

(Applied Pattern Recognition)

担当者名 /Instructor 山崎 恭 / Yasushi YAMAZAKI / 情報システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC522S	◎	△	○
科目名	パターン認識応用		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

パターン認識技術が工学上の様々な問題にどのように適用されているのかについて理解することを目標とし、パターン認識技術を利用した音声認識技術や文字認識技術等の現状と課題について学習する。講義の前半は、パターン認識問題に対する基本的なアプローチについて学習する。後半は、パターン認識技術を利用した音声認識技術、文字認識技術の具体的手法について理解するとともに、近年、パターン認識技術の情報セキュリティ分野への応用例として注目されているバイOMETリック認証技術について理解を深める。

【到達目標】

- ・ パターン認識に関する基礎知識及び専門知識を修得する。
- ・ パターン認識に関する課題を探索し、その解決法を示すことができる。
- ・ パターン認識への関心を持ち続け、新しい技術を開発する意欲を有している。

This course introduces students to the recent trends and issues in pattern-recognition-based applications, such as speech and character recognition systems. In the first part, we provide some fundamental approaches to pattern recognition issues. In the second part, we introduce how to design the speech and character recognition systems. Also, we introduce a biometric recognition technology which is recently focused as a promising application to information security issues.

【Course goals】

- ・ Acquisition of basic and specialized knowledge in pattern recognition
- ・ Enabling to inquire into issues regarding pattern recognition and suggest their solution
- ・ Continuing to have an interest in pattern recognition and a motivation for developing new technologies

教科書 /Textbooks

特に指定せず、講義の都度資料を配布する。

To be distributed in class

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

To be announced in class

○パターン認識応用

(Applied Pattern Recognition)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 序論
 - 2 識別関数の設計I【概論】
 - 3 識別関数の設計II【線形識別関数】
 - 4 識別関数の設計III【ニューラルネットワーク】
 - 5 識別関数の設計IV【ニューラルネットワークの学習】
 - 6 ベイズ決定理論I【概論】
 - 7 ベイズ決定理論II【正規密度に対する識別関数】
 - 8 特徴空間の変換
 - 9 音声認識I【概論】
 - 10 音声認識II【音声分析法】
 - 11 音声認識III【隠れマルコフモデル】
 - 12 文字認識【概論, 各種アルゴリズム】
 - 13 バイオメトリック認証I【概論】
 - 14 バイオメトリック認証II【各種アルゴリズムと応用】
 - 15 応用トピック
-
- 1 Introduction
 - 2 Discriminant function design I 【Introduction】
 - 3 Discriminant function design II 【Linear discriminant function】
 - 4 Discriminant function design III 【Neural networks】
 - 5 Discriminant function design IV 【Learning algorithms for neural networks】
 - 6 Bayesian decision theory I 【Introduction】
 - 7 Bayesian decision theory II 【Discriminant functions for the normal density】
 - 8 Transformation of feature space
 - 9 Speech recognition I 【Introduction】
 - 10 Speech recognition II 【Speech analysis】
 - 11 Speech recognition III 【HMM】
 - 12 Character recognition 【Introduction, Algorithms】
 - 13 Biometric recognition I 【Introduction】
 - 14 Biometric recognition II 【Algorithms and applications】
 - 15 Advanced topics

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加：20%
レポート：80%
※単位の取得には、2/3以上の出席を要する。

Participation：20%
Final paper：80%
※At least two-thirds of attendance is required for credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講義開始前までに学習支援システム (Moodle) で公開予定の講義資料に目を通しておくこと。また、講義中に各単元に関する例題を適宜出題するので、復習時に活用して理解を深めること。

Students are expected to look through the course materials distributed by e-Learning Portal (Moodle) before taking each class. Also, students are expected to make a review by solving some exercises set in class.

履修上の注意 /Remarks

解析学，線形代数学，確率論に関する基礎知識を復習しておくこと。

Basic knowledge on analysis, linear algebra, and probability theory is required.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

パターン認識の基礎から応用まで幅広い内容を扱うので、毎回の講義内容に関する復習が不可欠となります。講義では、最新の研究動向や実用化動向にも触れますので、パターン認識技術が我々の日常生活でどのように活用されているのが、常に興味を持って講義に臨むことを期待します。

Due to the wide coverage of pattern recognition issues, students are encouraged to make a review after each class. In this course, the latest research and utilization trends will be presented. Students are expected to attend the class with continuous interests in how the pattern recognition technologies are utilized in our daily life.

キーワード /Keywords

識別関数，ベイズ決定理論，音声認識，文字認識，バイオメトリック認証

○パターン認識応用

(Applied Pattern Recognition)

キーワード /Keywords

discriminant function, Bayesian decision theory, speech recognition, character recognition, biometric recognition

○情報セキュリティ論

(Information Security)

担当者名 /Instructor 佐藤 敬 / Takashi SATOH / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC521S	◎	△	○
科目名	情報セキュリティ論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、安全な通信システムの設計に関連する暗号アルゴリズムとプロトコルに重点を置き、情報セキュリティ技術に関する理論面を中心に講義する。まず、授業の前半では、情報セキュリティの基礎について復習を行いながら、暗号、鍵管理、署名などの要素技術について理解を深める。そして、後半では、代表的な研究トピックや最近の暗号プロトコルについて解説する。到達目標は、情報通信システムの開発に携わる技術者に必要とされる情報セキュリティに関する知識や概念を習得することである。本科目は、メディア授業科目である。

This course focuses cryptographic algorithms and protocols related to design secure communication systems. This course consists of two parts: The first part covers the basic theory of cryptography and cryptographic primitives, especially, encryption schemes, key establishment and signature schemes. In the second part, we provide selected research-oriented topics and up-to-date cryptographic protocols. By the end of this course, students should be have knowledge of information security needed for engineers who are able to work in this technical area. This course is a media course.

教科書 /Textbooks

なし
No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D. R. Stinson, CRYPTOGRAPHY Theory and Practice (3rd Edition), Chapman & Hall / CRC Press, 2006.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Introduction
- 2 Cryptography (1) Classical Cryptography
- 3 Cryptography (2) Public-key Cryptography and Number Theory
- 4 Cryptography (3) RSA
- 5 Cryptography (4) Discrete Logarithms and Elliptic Curves
- 6 Authentication (1) Authentication
- 7 Authentication (2) Hash Functions and Digital Signatures
- 8 Authentication (3) Identification
- 9 Key Establishment and Key Agreement
- 10 Case Studies (1) Transport Layer Security
- 11 Case Studies (2) Web Authentication
- 12 Case Studies (3) Blockchain
- 13 Secret Sharing Schemes
- 14 Copyright Protection
- 15 Presentation

○情報セキュリティ論

(Information Security)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・課題 70%
プレゼンテーション 30%

Reports & Assignments 70%
Presentation 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習 / Preparation】

配布資料に目を通して予習を行うこと。
Students are required to read assigned articles.

【事後学習 / Review】

課題に取り組むこと。
Students are required to complete homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

講義資料は英語で提供されます。
Most handouts are in English.

学部開講科目「ネットワークとセキュリティ」を受講していることが望ましい。
Students are expected to have taken a course in introductory cryptography for undergraduates.

本授業はMicrosoft Teams会議または録画済みのビデオによって実施する。ウェブ会議に参加するためには、ウェブカメラとマイクを有するコンピュータが必要である。

This class will be conducted through Microsoft Teams meetings or pre-recorded videos. In order to join the meetings, every student needs a computer with webcam and microphone.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報セキュリティ, 暗号, 鍵管理, 認証
Information security, cryptography, key management, authentication

○動的システム論

(Theory of Dynamic Systems)

担当者名 /Instructor 藤本 悠介 / Yusuke FUJIMOTO / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC551S	◎	△	○
科目名	動的システム論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、制御工学や信号処理で重要となる動的システムに関する内容を扱います。
特に、動的システムにおける状態推定問題を主として取り上げます。
具体的な手法としては、状態オブザーバ、カルマンフィルタ、粒子フィルタの三つを題材とします。

到達目標：状態推定問題の定式化を理解すること、カルマンフィルタの利点・欠点を把握すること。

This course provides an introduction to recent theory of control engineering, which is a fundamental theory to control dynamical systems such as automobiles and drones.

This course provides basics about the state estimation problem is addressed. Three basic state estimation methods are introduced in this course; the state observer, Kalman filter, and the particle filter.

Specific Targets in Focus: Understand the problem formulation of state estimation, Understanding pros and cons of Kalman filter.

教科書 /Textbooks

指定なし

No textbook.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 足立, 丸田, カルマンフィルタの基礎, 東京電機大学出版局
- S. Adachi and I. Maruta, Fundamentals of Kalman Filter, TDU Press. (in Japanese)

その他の参考書は, 適宜指示する。

Other references will be announced in the class.

○動的システム論

(Theory of Dynamic Systems)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 概要
 2. 動的システムの状態推定問題
 3. 可観測性
 4. システムの極と状態遷移
 5. 状態オブザーバ
 6. 状態オブザーバの応用
 7. 確率変数の基礎
 8. 最尤推定の基礎
 9. ベイズ推定の基礎
 10. 逐次ベイズ推定
 11. カルマンフィルタによる推定
 12. 一般のベイズ推定
 13. モンテカルロ近似
 14. 粒子フィルタによる状態推定
 15. まとめ
-
1. Introduction
 2. Setting state estimation problem
 3. Observability
 4. System pole and state transition
 5. State observer
 6. Application of state observer
 7. Basics of random variable
 8. Basics of Maximum Likelihood estimation
 9. Basics of Bayesian estimation
 10. Sequential Bayesian estimation
 11. State estimation by Kalman filter
 12. Bayesian estimation in general
 13. Monte Carlo approximation
 14. State estimation by the particle filter
 15. Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

2回から4回のレポートの合計点で評価します。

We will evaluate the grade at the total score of 2~4 reports.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

Preparation for specified contents, and review for learned contents

履修上の注意 /Remarks

大学学部レベルの線形代数と確率論の知識が必要です。

Students are required to have knowledge about basics of linear algebra and probability theory.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

状態推定の応用は多岐にわたります。

特に本講義で扱う粒子フィルタは、画像処理などにも応用可能です。

動的システムそのものを研究していない方も履修してみてください。

There are a lot of applications of state estimation.

For instance, the particle filter which we will discuss in the class is applicable to image processing.

Join us even when your research interest is not dynamical systems themselves.

キーワード /Keywords

動的システム, 状態推定, ベイズ推定, カルマンフィルタ, 粒子フィルタ

Dynamical systems, state estimation, Bayesian estimation, Kalman filtering, Particle filtering

○組み合わせ最適化論

(Theory of Combinatorial Optimization)

担当者名 高島 康裕 / Yasuhiro TAKASHIMA / 情報システム工学科 (19 ~)
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース
/Department

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC511S	◎	△	○
科目名	組み合わせ最適化論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

組み合わせ最適化問題を解くにあたり必要な基本概念である計算量理論について講義する、また、最適解が得られない問題を解く様々な手法をその理論的な側面とともに議論する。そして、後半では、講義した内容を用いて組み合わせ問題を実際に計算機上で解く。本講義の到達目標は、考慮する問題の計算複雑度を判定でき、かつ、その問題の解法の検討が行なえることである。

【到達目標】

- ・ 組み合わせ最適化に関する基礎知識及び専門知識を修得する。
- ・ 組み合わせ最適化に関する課題を探索し、その解決法を示すことができる。
- ・ 組み合わせ最適化に関する知識を深め、新しい技術を開発する意欲をもつ。

This course notes the complexity theory which is the basic concept of the combinatorial problem.

In the former part of this course, the complexity theory which is a basic of combinatorial optimization, and the methods to solve the difficult problem are lectured. In the latter part, the combinatorial problem is solved with the utilization of the lectured methods. The objective of this course consists of estimating the problem and considering its solution.

【Goal】

- ・ To obtain the essential knowledge and expertise of combinatorial optimization.
- ・ To obtain that the problem of the combinatorial optimization is inquired and its solution is shown.
- ・ To obtain that the deep knowledge of combinatorial optimization is obtained and the development of its novel optimization is motivated.

教科書 /Textbooks

特に無し
None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

M. R. Garey and D. S. Johnson, Computers and Intractability: A Guide to the Theory of Np-Completeness, W H Freeman & Co (Sd)

○組み合わせ最適化論

(Theory of Combinatorial Optimization)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
 - 2 問題のクラス
 - 3 Cookの定理
 - 4 NP完全
 - 5 問題の解析
 - 6 NP困難
 - 7 近似アルゴリズム
 - 8 確率的発見的手法
 - 9 演習 (1)
 - 10 演習 (2)
 - 11 演習 (3)
 - 12 演習 (4)
 - 13 演習 (5)
 - 14 演習 (6)
 - 15 まとめ
- ※ 演習(1)-(6)ではプログラム演習を行う。詳細については授業で連絡する。

- 1 Guidance
 - 2 Class of Problems
 - 3 Cook's Theorem
 - 4 NP-Completeness
 - 5 Analyzing Problems
 - 6 NP-Hardness
 - 7 Approximation Algorithms
 - 8 Statistical Method
 - 9 Exercise (1)
 - 10 Exercise (2)
 - 11 Exercise (3)
 - 12 Exercise (4)
 - 13 Exercise (5)
 - 14 Exercise (6)
 - 15 Conclusion
- ※ Exercises (1) to (6) deal with programming exercises. Details are given in class.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 (Participation) 20%
レポート (Report) 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 講義では、復習をきちんとすること。
演習では、課題の内容をきちんと理解すること。

For the lectures, you should review the contents.
For the exercises, you should understand the objects.

履修上の注意 /Remarks

- 離散問題，データ構造を復習し，理解しておくこと。

You should review and understand the issues of the discrete problem and data structure.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

問題の難しさを評価することは研究において重要な項目である。本講義でその評価について講義する。また，最適解を出すことが難しい場合の対処法についても取得することを望む。

The estimation of the difficulty of the problem is an important issue for the research. This course focuses on the estimation. I hope to obtain the method to solve the difficult problem.

キーワード /Keywords

計算複雑度，NP，近似アルゴリズム

Time Complexity, NP, Approximation Algorithms

○システム制御理論

(System Control Theory)

担当者名 /Instructor 堀口 和己 / Kazumi HORIGUCHI / 情報システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC550S	◎	△	○
科目名	システム制御理論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

1960年以降に展開されたシステム制御理論を学ぶ。まず、線形システムを状態空間表現し、状態方程式の解を導く。そして、線形システムの可制御性、可観測性、最小実現を議論する。ついで、線形システムの安定判別、リヤプノフの安定理論を学ぶ。さらに、制御システムの設計に必要なとなる極配置、状態オブザーバを理解する。最後に、現代制御理論の主要な成果である最適制御とカルマンフィルタを学ぶ。

[到達目標]

状態空間表現に基づく線形システムの制御理論を体系的かつ総合的に理解している。

制御系の設計問題について、制御理論を応用した解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

制御系設計への関心とキャリア意識を持ち続け、制御理論を応用した適切な制御系の設計に取り組む意欲を有している。

In this course, we learn the system control theory developed after 1960. First, we describe linear systems in the state space and derive a solution of the state equation. Then, we discuss controllability, observability and minimal realization of linear systems. Next, we learn stability criteria of linear systems and Lyapunov's stability theory. Moreover, we understand pole assignment and state observers which are necessary to design control systems. Finally, we learn the optimal control and Kalman filter which are main results of the modern control theory.

[Specific Targets in Focus]

To systematically and comprehensively understand the control theory of linear systems based on the state-space representation.

To find solutions to the problems of the control system design by applying the system control theory and present the solutions clearly.

To keep having an interest and career awareness in the control system design, and be willing to design control systems applying the system control theory.

教科書 /Textbooks

授業で講義ノートを配布予定。

Lecture note will be distributed in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

吉川恒夫, 井村順一 共著, 現代制御論, 昭晃堂, 1994年.

池田雅夫, 藤崎泰正 共著, 多変数システム制御, コロナ社, 2010年.

○システム制御理論

(System Control Theory)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 システム制御のための数学 - 線形空間, 線形写像 -
 - 2 システム制御のための数学 - 固有値と固有ベクトル -
 - 3 システム制御のための数学 - 正規行列, 正定行列 -
 - 4 状態空間表現 - 線形システム, 非線形システム -
 - 5 状態空間表現 - 状態方程式の解 -
 - 6 可制御性と可観測性 - 可制御性 -
 - 7 可制御性と可観測性 - 可観測性 -
 - 8 状態空間表現と伝達関数
 - 9 安定性 - 線形システムの安定性 -
 - 10 安定性 - リヤプノフの安定理論 -
 - 11 極配置
 - 12 状態オブザーバ
 - 13 最適制御 - 最適レギュレータ -
 - 14 カルマンフィルタ
 - 15 まとめ
-
- 1 Mathematics of systems control; Linear space, linear mapping
 - 2 Mathematics of systems control; Eigenvalues and eigenvectors
 - 3 Mathematics of systems control; Normal matrix, positive definite matrix
 - 4 State space description; Linear systems, nonlinear systems
 - 5 State space description; Solution of state equation
 - 6 Controllability and Observability; Controllability
 - 7 Controllability and Observability; Observability
 - 8 State space description and transfer function
 - 9 Stability; Stability of linear systems
 - 10 Stability; Lyapunov's stability theory
 - 11 Pole assignment
 - 12 State observer
 - 13 Optimal control; Optimal regulator
 - 14 Kalman filter
 - 15 Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 50%
 期末試験 50%
 Assignments 50%
 Final Examination 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義ノートをあらかじめ読んでおくこと。
 Students are required to read the lecture note in advance.

履修上の注意 /Remarks

受講学生は, 線形代数学, 複素関数, ラプラス変換, 古典制御を習得している必要があります。
 Students are required to have learned linear algebra, complex function, Laplace transform and classical control.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

制御理論は行列理論, 回路理論, 信号理論, 情報理論, などと関係する興味深い理論です。理論の好きな受講学生を歓迎します。
 System control theory is an interesting theory which is related to matrix theory, circuit theory, signal theory, information theory, and so on. Students who like theory are welcomed.

キーワード /Keywords

線形システム, 安定性, 極配置, 状態オブザーバ, 最適制御, カルマンフィルタ
 linear system, stability, pole assignment, state observer, optimal control, Kalman filter

○スパースモデリング

(Sparse Modeling)

担当者名 /Instructor 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC552S	◎	△	○
科目名	スパースモデリング		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人工知能や機械学習の分野で注目を集めているスパースモデリングの手法について、わかりやすく解説します。静的なデータの解析だけでなく、動的システムの設計まで視野に入れて、最先端の技術を学びます。

In this course, I will introduce the method of sparse modeling, which is a hot topic in artificial intelligence and machine learning. We will study an advanced technology of sparse modeling not only for static data analysis but also dynamical systems design.

【到達目標】

- ・ スパースモデリングに関する基礎知識及び専門知識を修得する。
- ・ スパースモデリングに関する課題を探求し、その解決法を示すことができる。
- ・ スパースモデリングへの関心を持ち続け、新しい技術を開発する意欲を有している。

【Course Objective】

- ・ Students acquire basic and specialized knowledge on sparse modeling.
- ・ Students explore issues related to sparse modeling and show how to solve them.
- ・ Students have an ongoing interest in sparse modeling and a desire to develop new techniques.

教科書 /Textbooks

1. 永原, スパースモデリング- 基礎から動的システムへの応用, コロナ社, 2017年
 2. Masaaki Nagahara (2020), "Sparsity Methods for Systems and Control", Boston-Delft: now publishers, 英語で書かれています。以下のページから無料でPDFがダウンロードできます。
<http://dx.doi.org/10.1561/9781680837254>

1. M. Nagahara, Sparse Modeling, Corona, 2017. (written in Japanese)
 2. Masaaki Nagahara (2020), "Sparsity Methods for Systems and Control", Boston-Delft: now publishers
 This is written in English. You can download free pdf at
<http://dx.doi.org/10.1561/9781680837254>

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- S. Boyd and L. Vandenberghe, Convex Optimization, Cambridge University Press, 2004.
 D. P. Bertsekas, Convex Optimization Theory, Athena Scientific
 M. Elad, Sparse and Redundant Representations, Springer, 2010.
 S. Foucart and H. Rauhut, A Mathematical Introduction to Compressive Sensing, Birkhauser, 2013.
 M. Athans and P. Falb, Optimal Control, Dover Publications, 1966.
 M. Vidyasagar, An Introduction to Compressed Sensing, SIAM, 2019.

○スパースモデリング

(Sparse Modeling)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. スパース性とは何か (What is sparsity)
 - 1.1 冗長な辞書とスパース性 (Redundant dictionaries and sparsity)
 - 1.2 l_0 ノルムの定義と意味 (The l_0 norm)
2. スパース性とは何か (What is sparsity)
 - 2.1 総当たり法による解法 (Method of exhaustive search)
3. 曲線フィッティングで学ぶスパースモデリング (Sparse modeling for curve fitting)
 - 3.1 最小二乗法と正則化 (Least squares and regularization)
4. 曲線フィッティングで学ぶスパースモデリング (Sparse modeling for curve fitting)
 - 4.1 スパースモデリングと l_1 ノルム最適化 (Sparse modeling and l_1 -norm optimization)
 - 4.2 CVXによる数値最適化 (Numerical optimization via CVX)
5. 凸最適化アルゴリズム (Algorithms for convex optimization)
 - 5.1 凸最適化問題への準備 (Preliminaries)
 - 5.2 近接作用素 (Proximal operator)
6. 凸最適化アルゴリズム (Algorithms for convex optimization)
 - 6.1 近接分離法による l_1 最適化の数値解法 (Proximal splitting for l_1 optimization)
 - 6.2 近接勾配法による l_1 正則化の数値解法 (Proximal gradient descent for l_1 regularization)
 - 6.3 一般化LASSOとADMM (Generalized LASSO and ADMM)
7. 貪欲アルゴリズム (Greedy algorithms)
 - 7.1 l_0 最適化 (l_0 optimization)
 - 7.2 直交マッチング追跡 (Orthogonal matching pursuit)
8. 貪欲アルゴリズム (Greedy algorithms)
 - 8.1 しきい値アルゴリズム (Thresholding algorithms)
 - 8.2 数値実験 (Numerical experiments)
9. 動的システムと最適制御 (Dynamical systems and optimal control)
 - 9.1 動的システム (Dynamical systems)
10. 動的システムと最適制御 (Dynamical systems and optimal control)
 - 10.1 最適制御 (Optimal control)
 - 10.2 ロケットの最短時間制御 (Minimum-time control of a rocket)
11. 動的スパースモデリング (Dynamical sparse modeling)
 - 11.1 連続時間信号のノルムとスパース性 (Sparsity for continuous-time signals)
 - 11.2 スパースな制御の工学的な意義 (Motivation of sparse modeling for engineering applications)
 - 11.3 動的スパースモデリングの定式化 (Formulation of dynamical sparse modeling)
12. 動的スパースモデリング (Dynamical sparse modeling)
 - 12.1 l_0 最適制御と l_1 最適制御の等価性 (Equivalence between l_0 and l_1 optimal controls)
 - 12.2 スパースモデリングとの関係 (Relation to sparse modeling)
 - 12.3 ロケットのスパース最適制御 (Sparse optimal control for a rocket)
 - 12.4 離散値制御 (Discrete-valued control)
13. 動的スパースモデリングのための数値最適化 (Numerical optimization for dynamical sparse modeling)
 - 13.1 時間軸の離散化 (Discretization of time)
 - 13.2 有限次元最適化問題への帰着 (Reduction to finite-dimensional optimization)
14. 動的スパースモデリングのための数値最適化 (Numerical optimization for dynamical sparse modeling)
 - 14.1 ADMMによる高速アルゴリズム (Fast algorithm by ADMM)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の小テストの提出状況 (40%) および中間(20%)・最終レポート(40%)により成績評価を行います。

We will evaluate the grades based on the status of the quizzes (40%), the middle (20%) and the final reports (40%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書をよく読んで予習・復習をしてください。

Carefully read the textbook for preparation and review.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義に出席し、きちんと授業を受けて、課題をこなせば、スパースモデリングのしっかりとした知識が身につきます。スパースモデリングの概念は人工知能の分野で非常に重要です。頑張って勉強してください。

If you attend this lecture, take classes properly, and complete the tasks, you will acquire a solid knowledge of sparse modeling. The concept of sparse modeling is very important in the field of artificial intelligence. Do your best.

キーワード /Keywords

○スパースモデリング

(Sparse Modeling)

キーワード /Keywords

スパースモデリング, 圧縮センシング, 人工知能, 機械学習, 凸最適化, 自動制御, 最適制御

sparse modeling, compressed sensing, artificial intelligence, machine learning, convex optimization, automatic control, optimal control

○感覚測定概論

(Introduction to Sensory Measurement)

担当者名 /Instructor 玉田 靖明 / Yasuaki TAMADA / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC540S	◎	△	○
科目名	感覚測定概論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人間の感覚・知覚・認知・行動特性の測定方法を学ぶ。

This course focuses on the techniques to measure the sensory, perceptual, cognitive and behavioral characteristics.

到達目標は以下のとおりである。

- ・各測定法の概要を説明することができる
- ・プログラムや表計算ソフトを用いた解析方法を修得する

The goal is that all students explain the outline of each technique and master the analysis method using spreadsheet programs.

教科書 /Textbooks

特になし

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

はじめよう実験心理学-MATLABとPsychtoolboxを使って 勁草書房

○感覚測定概論

(Introduction to Sensory Measurement)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
 - 2 視閾と視力
 - 3 心理物理測定法 (極限法)
 - 4 心理物理測定法 (階段法)
 - 5 心理物理測定法 (恒常法)
 - 6 心理物理測定法 (調整法)
 - 7 心理物理測定法 (反応時間)
 - 8 心理物理測定法 (マグニチュード推定)
 - 9 心理物理測定法 (一対比較法)
 - 10 行動指標 (眼球運動)
 - 11 行動指標 (重心動揺)
 - 12 総合演習1
 - 13 総合演習2
 - 14 総合演習3
 - 15 まとめ
-
- 1 Guidance
 - 2 Visual Threshold and Visual Acuity
 - 3 Psychophysical Measurement (Method of Limit)
 - 4 Psychophysical Measurement (Method of Staircase)
 - 5 Psychophysical Measurement (Method of Costant Stimuli)
 - 6 Psychophysical Measurement (Method of Adjustment)
 - 7 Psychophysical Measurement (Reaction Time)
 - 8 Psychophysical Measurement (Magnitude Estimation)
 - 9 Psychophysical Measurement (Paired Comparison)
 - 10 Behavioral Indices (Eye Movement)
 - 11 Behavioral Indices (Postural Stability)
 - 12 Comprehensive Exercises I
 - 13 Comprehensive Exercises II
 - 14 Comprehensive Exerises III
 - 15 Conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% Assignments 50%
授業における発表，討論参加など 50% Discussion 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に示す資料を基に事前・事後学習を行うこと。
Students are supposed to conduct preparation and review based on the materials shown during class.

履修上の注意 /Remarks

MatlabやJavaを用いたプログラミング課題，Excelを用いた計算課題を課すことがある。
There is a case of giving the programing exercise using MATLAB, Java, and Excel.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2019年度の受講者からは「Excelが大変だった」あるいは「Excelの使い方を学べた」といったコメントが多くありました。
2020年度の受講者からは「実験が疲れた」といったコメントが多くありました。

Students in the class of 2019 commented that "Excel was hard" or "I could learn how to use Excel".
Students in the class of 2020 commented that the experiment was hard.

キーワード /Keywords

○信号解析

(Signal Analysis)

担当者名 /Instructor 京地 清介 / Seisuke KYOCHI / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice 集中講義です。/Intensive course. シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC620S	◎	△	○
科目名	信号解析		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

デジタル信号の取得 / 圧縮 / 伝送等の処理に共通して用いられる基盤的な信号解析理論及びアルゴリズムは、近年も急速な発展を続けている。本講義は、フーリエ変換の復習から始め、ブロック変換（離散コサイン変換・主成分分析）、ウェーブレット変換等、辞書によるスパース表現、深層ニューラルネットワーク等、信号解析に関する発展的な内容を学ぶ。
本科目は、メディア授業科目である。

Recently, fundamental theories and algorithms of signal analysis for digital signal acquisition, compression and transmission are rapidly growing. This course starts from the review of the Fourier transform, then introduces advanced techniques in the field of signal analysis, such as discrete cosine transform, principal component analysis, multi-rate signal processing with filter banks (a set of digital filters), wavelet transform (an extended version of Fourier transform), sparse representation by dictionary and deep neural network.
This course is a media course.

【到達目標】

- 1) フーリエ変換の周波数スペクトルの意味を説明できる。
- 2) 各種変換を線形代数における線形結合の観点から説明できる。
- 3) 各種変換をプログラミングによって実装できる。

【Attainment targets】

- 1) Students can explain the essence of what the frequency spectrum is.
- 2) Students can explain each signal transform from the viewpoint of the linear combination in linear algebra.
- 3) Students can implement practical signal processing applications by using signal transform.

教科書 /Textbooks

特になし
No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マルチメディア技術の基礎DCT (離散コサイン変換) 入門、CQ出版社
Wavelets and Filter Banks. Wellesley-Cambridge Press
A Wavelet Tour of Signal Processing, Third Edition, Academic Press

○信号解析

(Signal Analysis)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
 2. 基礎信号処理の復習 (フーリエ変換)
 3. 基底・直交基底
 4. ブロック変換 (DFT・ DCT)
 5. ブロック変換 (PCA : 理論)
 6. ブロック変換 (PCA : 応用)
 7. ブロック変換とフィルタバンクの関係
 8. 2分割フィルタバンク , ウェーブレット変換
 9. スパース符号化
 10. 辞書学習
 11. 演習
 12. 深層ニューラルネットワーク (理論)
 13. 深層ニューラルネットワーク (応用)
 14. グラフ信号処理
 15. まとめ
-
1. Guidance
 2. Review of basic signal processing (Fourier transform)
 3. Orthogonal basis
 4. Block transform (Discrete Fourier Transform, Discrete Cosine Transform)
 5. Block transform (Principal Component Analysis: Theory)
 6. Block transform (Principal Component Analysis: Application)
 7. Relationship between block transforms and filter banks
 8. Two-channel filter banks, Wavelet transform
 9. Sparse coding
 10. Dictionary learning
 11. Exercise
 12. Deep neural network (Theory)
 13. Deep neural network (Application)
 14. Graph signal processing
 15. Conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート60%
演習, 討論参加40%

Report: 60%
Exercise, Discussion: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
Students are required to prepare and review for each lecture.

履修上の注意 /Remarks

線型代数・基礎信号処理を学習していることを前提として講義を行う。
Basic knowledge of linear algebra and signal processing is required, such as Fourier transform, FIR/IIR filters, convolution.

本授業は遠隔のライブ配信 (Microsoft Teams, Zoom等) またはビデオオンデマンド配信 (Microsoft Streamを使用した録画済み講義動画の配信) によって実施する。

従って本講義の受講生は、
・ 上記の動画視聴ツール (Microsoft Teams, Zoom) が使用できる環境
を所有していることを前提条件とする。

This class will be conducted via remote live streaming (Microsoft Teams, Zoom, etc.) or video-on-demand delivery (delivery of pre-recorded lecture videos using Microsoft Stream).

Therefore, as a prerequisite to attend this lecture, students should have a PC including
- video viewing tools (Microsoft Teams, Zoom)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数理的議論が多いため、演習・プログラミングの例題を通じて積極的に手を動かし、理解を深めてほしい。
また本講義で扱う内容の更なる発展事項に関しては参考書に挙げた書籍を参照されたい。

○信号解析

(Signal Analysis)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Conceptual mathematical discussions will often appear in the course. For deep comprehension, students are expected to do a lot of practice exercises. Those who want to study further contents, please see the references.

キーワード /Keywords

信号処理、スパスフィルタバンク、ウェーブレット、
Signal processing, Filter banks, Wavelet

○画像処理

(Image Processing)

担当者名 /Instructor 松岡 諒 / Ryo MATSUOKA / 情報システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。 /You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC621S	◎	△	○
科目名	画像処理		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義ではマルチメディア・インテグレーションのための画像処理、信号処理及びコンピュータ技術について学ぶ。画像の色空間、フィルタリング、等の基礎技術から近年大きな発展を遂げている画像復元技術までを修得する。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 画像処理に関する基礎知識及び専門知識を身につけている。
- ・ 画像処理に関する課題を探求し、その解決法を示すことができる。
- ・ 画像処理に関する知識を深め、新しい技術を開発する意欲をもつ。

また、数理的アプローチを用いた画像処理の理解やアルゴリズム実装能力の習得を目指す。

Objectives are to introduce computer technology for multimedia integration including image processing and signal processing. The advanced topics as well as fundamental concepts are trained in lectures such as color spaces, filters, and image restoration.

The objectives are summarized as follows.

- ・ Learn fundamental and specialized knowledge of image processing
- ・ Can find issues related to image processing and show its solutions
- ・ Have a desire to deepen knowledge and develop new technologies in image processing

教科書 /Textbooks

特になし n/a

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- MATLAB対応デジタル信号処理、森北出版
- Digital signal processing : with MATLAB exercises

○画像処理

(Image Processing)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概論
- 2 画像の特徴と取得
- 3 画素値の操作とフィルタリング (1)
- 4 画素値の操作とフィルタリング (2)
- 5 画素値の操作とフィルタリング (3)
- 6 最小二乗法を用いた画像復元 (1)
- 7 最小二乗法を用いた画像復元 (2)
- 8 MATLAB演習
- 9 L1正則化による画像復元 (1)
- 10 L1正則化による画像復元 (2)
- 11 凸最適化問題
- 12 凸最適化問題の画像処理への応用 (1)
- 13 凸最適化問題の画像処理への応用 (2)
- 14 MATLAB演習
- 15 まとめ

- 1 Introduction
- 2 Image Features and Acquisition
- 3 Pixel Value Manipulation and Filtering (1)
- 4 Pixel Value Manipulation and Filtering (2)
- 5 Pixel Value Manipulation and Filtering (3)
- 6 Image Restoration Using Least Squares Method (1)
- 7 Image Restoration Using Least Squares Method (2)
- 8 MATLAB Exercise
- 9 Image Recovery with L1 Regularization (1)
- 10 Image Recovery with L1 Regularization (2)
- 11 Convex Optimization Problem
- 12 Application of Convex Optimization Problem to Image Processing (1)
- 13 Application of Convex Optimization Problem to Image Processing (2)
- 14 MATLAB Exercise
- 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート80% Assignments 80%
授業における発表、討論参加等 20% Discussion 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に示す資料を基に事前・事後学習を行うこと。
Students are supposed to conduct preparation and review based on the materials shown during class.

履修上の注意 /Remarks

プログラミングはMATLABで行う We use MATLAB for programming exercise
授業で提示するMATLABプログラムについては授業時間外に復習すること
Students are supposed to learn MATLAB program given in the lecture by themselves after the class.

積極的に発言し講義に参加すること。毎週数人に課題を出し、5分程度発表してもらう。
The students are supposed to participate discussion. Assignments are given to some of the students and they make a few minute presentation in every class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数理的アプローチを用いた画像処理の基礎を学ぶ。画像処理を専門としない学生にもためになる内容である。
Fundamental image processing based on mathematical approaches are introduced, which will be beneficial to students who do not major in images.

キーワード /Keywords

画像処理、フィルタリング、最小二乗法、凸最適化
Image Processing、Filtering、Least Squares Method、Convex Optimization

ネットワークアーキテクチャ

(Network Architecture)

担当者名 /Instructor 古閑 宏幸 / Hiroyuki KOGA / 情報システム工学科 (19~), 伊藤 友輔 / Yusuke ITO / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC624S	◎	△	○
科目名	ネットワークアーキテクチャ		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

インターネットなどの情報通信に利用されるネットワークの機能構造をアーキテクチャの観点から体系的に学ぶ。特に、ネットワーク制御技術に焦点を当て、階層モデルや通信プロトコル、経路制御などについて解説する。さらに、次世代ネットワークアーキテクチャやネットワークプログラミングを取り上げて理解を深め、ネットワーク上で簡単な情報システムを設計できる能力の習得を目標とする。

In this course, students systematically learn function structure of computer networks used for information communications such as the Internet from a viewpoint of network architecture. This course provides basic components of network architecture including layer model, communication protocol, and routing technology. It also covers advanced network architecture and network programming. The goal of this course is to enable students to acquire basic skills to design information systems on computer networks.

【到達目標】

- ・ ネットワークアーキテクチャに関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- ・ ネットワークアーキテクチャについて、総合的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや判断を論理的に表現することができる。
- ・ ネットワークアーキテクチャへの関心とキャリア意識を持ち続け、新しい技術の開発に向けて取り組む意欲を有している。

【Course Objectives】

- ・ Systematically and Comprehensively recognize specialized knowledge about network architecture.
- ・ Comprehensively explore solutions, and logically describe your opinions and judgments from a professional viewpoint of network architecture.
- ・ Strongly concern network architecture and career consciousness, and desire to develop new technologies.

教科書 /Textbooks

講義資料

Lecture materials

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アンドリュー・S・タネンバウム著, 水野ら訳, 「コンピュータネットワーク」, 日経BP社, 2003年。

Andrew S. Tanenbaum, Computer Networks, Prentice Hall, 2002.

ネットワークアーキテクチャ

(Network Architecture)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概論
- 2 階層モデル
- 3 物理層・データリンク層
- 4 ネットワーク層【通信モデル】
- 5 ネットワーク層【経路制御】
- 6 ネットワーク層【通信プロトコル】
- 7 トランスポート層【通信モデル】
- 8 トランスポート層【通信プロトコル】
- 9 アプリケーション層
- 10 次世代ネットワークアーキテクチャ
- 11 第1回～第10回の復習と中間試験
- 12 ネットワークプログラミング【ソケットAPI】
- 13 ネットワークプログラミング【通信プロトコル】
- 14 ネットワークプログラミング【演習】
- 15 まとめ

- 1 Overview
- 2 Layer Model
- 3 Physical and Data Link Layers
- 4 Network Layer【Communication Model】
- 5 Network Layer【Routing Technology】
- 6 Network Layer【Communication Protocol】
- 7 Transport Layer【Communication Model】
- 8 Transport Layer【Communication Protocol】
- 9 Application Layer
- 10 Advanced Network Architecture
- 11 Review & Mid-term Examination
- 12 Network Programming【Socket API】
- 13 Network Programming【Communication Protocol】
- 14 Network Programming【Exercise】
- 15 Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50%
レポート 50%

Mid-term Examination 50%
Report 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業までに講義資料に目を通しておくこと。

Students should read assigned lecture materials before class.

履修上の注意 /Remarks

Cプログラミングを習得していることを前提とします。

This course supposes C programming skills.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身近に利用されているコンピュータネットワークの動作原理をネットワークプログラミングの体験を通して深く理解して欲しい。

I believe that this course will help students to understand operation principle of computer networks through network programming.

キーワード /Keywords

階層モデル, 通信プロトコル, TCP/IP

Layer Model, Communication Protocol, TCP/IP

○情報通信論

(Information and Communication Theory)

担当者名 /Instructor 上原 聡 / Satoshi UEHARA / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC622S	◎	△	○
科目名	情報通信論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

デジタル情報の通信や記憶の際に生じる誤りに対して、その検出や訂正を目的として符号を用いることは、通信や記憶の信頼性の確保や質の向上を図るための重要な手段である。また、効率化を目的とする情報源符号化も重要な符号化の一つである。このような符号化を体系化した情報理論について、基礎となる代数学と合わせて学ぶ。情報通信論では、代数学を用いて現在多用される符号の設計を到達目標とする。
This course deals with the fundamentals of information and coding theory. Topics include mathematical definition and properties of information, data compression, error correcting code and pseudorandom sequence for communication systems.

教科書 /Textbooks

配布資料 / No assigned textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宮川・岩垂・今井著 『符号理論』 電子情報通信学会 1973年
- 今井秀樹 『符号理論』 電子情報通信学会 1990年

○情報通信論

(Information and Communication Theory)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 代数学の基礎
- 3 有限体
- 4 演算の高速化
- 5 擬似乱数系列
- 6 擬似乱数系列の評価法
- 7 通信のための擬似乱数系列
- 8 暗号のための擬似乱数系列
- 9 応用例
- 10 情報量とエントロピー
- 11 情報源符号化
- 12 通信路符号化
- 13 BCH符号, RS符号
- 14 畳み込み符号
- 15 まとめ
- 1 Introduction to sets and functions
- 2 Fundamental theorem of algebra
- 3 Galois field
- 4 Bases and fast calculation methods over Galois field
- 5 Pseudo random sequences
- 6 Evaluation for randomness
- 7 Pseudo random sequences for communications
- 8 Pseudo random sequences for cryptosystems
- 9 Applications
- 10 Entropy
- 11 Source coding
- 12 Channel coding
- 13 BCH codes, RS codees
- 14 Convolutional codes
- 15 Final review

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート / Reports 40%
 期末試験 / Examination 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の講義内容を復習しておくこと。
 Before each class, review the previous lecture's notes.

履修上の注意 /Remarks

「線形代数学」と「離散数学」を復習しておくこと。
 Students are required to have learned linear algebra and discrete mathematics.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誤り訂正符号やデータ圧縮による符号は携帯電話を初めとする様々な通信機器や記憶デバイスで使用されています。この中で使用される符号器や復号器を単にブラックボックスと考えるのではなく、符号の構造と符号化・復号過程を正しく理解してください。
 Codes used for error detection and error correction are techniques that enable reliable delivery of digital data over unreliable communication channels. Students are expected to understand such techniques and apply them to their own research field.

キーワード /Keywords

情報理論, 符号理論, 代数学, 有限体, 情報源符号化, 誤り訂正符号
 Information theory, Coding theory, algebraic, Galois field, Source coding, Error correcting code

○VLSI物理設計

(VLSI Physical Design)

担当者名 /Instructor 中武 繁寿 / Shigetoshi NAKATAKE / 情報システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC612S	◎	△	○
科目名	VLSI物理設計		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

VLSI(Very Large Scale Integrated Circuit)は、今や数十億トランジスタを1チップ搭載するほどに大規模化し、その設計は多数の高度な自動設計技術の集積により支えられている。本講義では、VLSI設計工程における物理設計(レイアウト設計)に焦点をあて、そこで用いられている設計データ、設計フロー、回路分割/配置/配線アルゴリズム、配線遅延計算手法、またそれらを組み合わせた設計手法(設計メソドロジー)の基礎的な知識の修得を到達目標とする。

Modern VLSI(Very Large Scale Integrated Circuit) is being huge so that billion transistors are implemented into one chip, and many advanced technologies for design automation are supporting such designs. In this class, focusing on physical design in total VLSI design process, we study data structures, design flows, partitioning/placement/routing algorithms, delay model/calculations, and design methodologies.

教科書 /Textbooks

講義中に配布する資料

Materials distributed in class

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員より指示

References specified by instructor

○VLSI物理設計

(VLSI Physical Design)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス・イントロダクション
- 2 パーティション (1)
- 3 パーティション (1) および演習課題
- 4 フロアプラン (1)
- 5 フロアプラン (2) および演習課題
- 6 プレースメント (1)
- 7 プレースメント (2) および演習課題
- 8 配線 (1)
- 9 配線 (2) および演習課題
- 10 アナログレイアウト (1)
- 11 アナログレイアウト (2) および演習課題
- 12 サーベイ紹介
- 13～15 レポート課題

- 1 Introduction of layout design
- 2 Partitioning (1)
- 3 Partitioning (2) and Practice
- 4 Floorplanning (1)
- 5 Floorplanning (2) and Practice
- 6 Placement (1)
- 7 Placement (2) and Practice
- 8 Routing (1)
- 9 Routing (2) and Practice
- 10 Analog Layout (1)
- 11 Analog Layout (2) and Practice
- 12 Survey
- 13-15 Total Exercise and Report
- 15 Conclusions

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度 40%
レポート 60%
Participation 40%
Report 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各授業ごとに、担当教員より指示。
Preparation and review are provided in each class.

履修上の注意 /Remarks

学部における離散構造とアルゴリズム、集積回路設計、数理計画法の復習
Discrete structure and algorithms, integrated circuit design, and mathematical programming

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在の最先端自動設計ツールは、その大部分が古典的ともいえるアルゴリズムの組み合わせで実現されています。アルゴリズムを理解する重要性を学んで欲しいと思います。

Modern design automation tools for VLSI designs are composed of traditional algorithms. We need to notice that such algorithms are important even when we develop advanced design tools.

キーワード /Keywords

○組み込みハードウェア

(Embedded Hardware Systems)

担当者名 /Instructor 杉原 真 / Makoto SUGIHARA / 情報システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC611S	◎	△	○
科目名	組み込みハードウェア		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

組み込みシステムを開発する上ではコスト、性能、および消費電力を考慮して、ハードウェア及びソフトウェアの両者を開発する必要がある。本講義では、産業界の組み込み設計技術の事例の紹介を交え、組み込みシステムを構成するハードウェアおよびソフトウェアの技術を議論する。集積回路の技術トレンドを理解した上で組み込みシステム開発の指針を策定できる素養を身につけることを到達目標とする。

高度な専門的知識・技能：組み込みハードウェアに関する基礎的な知識を身につけている。

高い問題解決能力と表現力：組み込みハードウェアについて、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：組み込みハードウェアへの関心を持ち続け、情報系技術者として主体的に行動できる姿勢を身につけている。

System designers must develop both hardware and software taking cost, performance and power constraints into account for developing embedded systems. In this lecture, we discuss techniques for implementing embedded systems from hardware and software perspectives. Some real design instances are given in this lecture. The objective of this lecture is that a registrant learns to formulate a direction for embedded systems development with the technology trend taken into account.

Specialist knowledge and skills : Fundamental knowledge on embedded hardware.

Advanced problem-solving and expressive abilities : Ability to seek a solution with comprehensive and logical thinking and to logically express their own opinions.

Ability to function autonomously with a solid ethical foundation : Ability to keep having an interest on embedded hardware and to independently act as an IT engineer.

教科書 /Textbooks

特になし。講義の度にスライドを配布する。
None. A slide will be given at each lecture.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。
None.

○組み込みハードウェア

(Embedded Hardware Systems)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概論
 - 2 高位合成 (言語)
 - 3 高位合成 (コントロールデータフローグラフ合成)
 - 4 高位合成 (スケジューリング 1)
 - 5 高位合成 (スケジューリング 2)
 - 6 高位合成 (アロケーション)
 - 7 高位合成 (有限状態機械合成)
 - 8 低消費電力設計 (回路レベル)
 - 9 低消費電力設計 (論理レベル)
 - 10 低消費電力設計 (アーキテクチャレベル)
 - 11 低消費電力設計 (ソフトウェアレベル)
 - 12 論理合成
 - 13 テスト容易化設計
 - 14 物理設計
 - 15 プログラマブルデバイス
-
- 1 Introduction
 - 2 High Level Synthesis - Languages
 - 3 High Level Synthesis - Control Data Flow Graph Synthesis
 - 4 High Level Synthesis - Scheduling 1
 - 5 High Level Synthesis - Scheduling 2
 - 6 High Level Synthesis - Allocation
 - 7 High Level Synthesis - Finite State Machine Synthesis
 - 8 Low Power Techniques - Circuit Level
 - 9 Low Power Techniques - Logic Level
 - 10 Low Power Techniques - Architecture Level
 - 11 Low Power Techniques - Software Level
 - 12 Logic Synthesis
 - 13 Design for Testability
 - 14 Physical Design
 - 15 Programmable Devices

成績評価の方法 /Assessment Method

履修者によって提出されるレポートによって成績を決定する。
レポート点 : 100%
Professor evaluates a report submitted by a student and rates his/her grade.
Report score : 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後は復習すること。
Students should review lecture materials after class.

履修上の注意 /Remarks

必須ではないが、コンピュータ・アーキテクチャに関する基礎知識を有していることが望ましい。
It is expected (not required) that students have knowledge of the basics of computer architecture.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テスト容易化設計

(Design for Testability)

担当者名 /Instructor 木村 晋二 / Shinji KIMURA / 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC613S	◎	△	○
科目名	テスト容易化設計		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

我々の生活を支える大規模集積回路 (Large Scale Integration, LSI) について、それが正しく動作するかどうかを解析する手法についての講義を行う。正しい動作を阻害する要因には、LSI の設計誤りやLSIの製造時の誤りがあり、ここではそれらの誤りの数理論理学に基づく解析手法と検出手法について述べる。さらに、誤りを見つけやすいLSI構造や、耐故障性を持つLSI構造などについても述べ、最近の1億もの素子からなるLSIの信頼性を向上させる基幹技術について学ぶことができる。

【到達目標】

LSIのテストパターン生成アルゴリズムおよび設計検証アルゴリズムを理解し、簡単な回路の手解析ができる。

LSI (Large Scale Integration) is one of key components of recent information and communication systems, and its correctness is very important for the correct behavior of the total systems. The class focuses on analysis and detection methods for the behavior of LSI based on mathematical logic. There are two major issues in the errors of LSI: one is the design bug and the other is the fabrication bug. Attendees can understand how to detect these bugs and also how to improve the tolerance for the bugs.

【Course Objective】

Students understand the test algorithms and the verification algorithms for LSI's and analyze simple circuits by hand.

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する/ Handouts are used

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○システムLSI設計工学 (藤田昌宏編著, オーム社 IT Text, 2006), "Essentials of electronic testing for digital, memory, and mixed-signal VLSI circuits," M. L. Bushnell and V. D. Agrawal, Kluwer Academic, 2000.

テスト容易化設計

(Design for Testability)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 大規模集積回路(LSI) の設計と製造
Design and Fabrication of LSI
- 2 LSI の製造故障とテストの基本原理
Fault Models and Basic Fabrication Test
- 3 LSI のテスト生成アルゴリズム
Test Pattern Generation Algorithm
- 4 論理シミュレーションと故障シミュレーション
Logic Simulation and Fault Simulation
- 5 回路の可制御性、可観測性
Observability and Controllability of LSI Circuits
- 6 順序回路のテスト
Sequential Test
- 7 テストを容易にする回路の設計手法
Design Methods for Improving Testability
- 8 組み込み自己テスト (Built-in Self Test, BIST)
Built-in Self Test (BIST)
- 9 メモリテスト、アナログ回路テスト、遅延テスト
Memory Test, Analog Test and Delay Test
- 10 設計検証手法の概要
Design Verification
- 11 論理関数の表現と等価性判定
Logic Representation and Equivalence Check
- 12 組合せ回路の設計検証
Combinational Verification
- 13 順序回路の等価性
Equivalence of Sequential Circuits
- 14 順序回路の設計検証
Sequential Verification
- 15 まとめ
Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み / Attitude of participation 10%
 テスト/Intermediate Tests 30% 3回程度行なう About 3 times
 学期末試験/ Final Exam. 60% 8問程度 8 questions or so

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前配布の資料を授業前に読了。授業終了後には授業中に指示した練習問題を解くこと。/
 Handouts are used in the class. Manuscripts given beforehand should be read before each class, and problems specified in each class should be solved after the class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

0と1を扱う論理回路に関する手法を学ぶことで、論理的な思考能力が鍛えられます。0と1しか出てこないのが最初は簡単ですが、計算機で処理できることと密接に関連しており、奥深く興味深いです。/

You can learn about manipulation/optimization methods of logic functions, which is applicable to various areas. We just manipulate {0, 1} like computers, which seems simple but is very interesting.

キーワード /Keywords

LSIの製造故障、設計誤り、信頼性、設計検証/LSI Fault, Design Error, Reliability, Design Verification

○移動通信

(Mobile Communication Systems)

担当者名 /Instructor 梶原 昭博 / Akihiro KAJIWARA / 情報システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC623S	◎	△	○
科目名	移動通信		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ASKやPSKなどの代表的なデジタル通信方式の基本理論および誤り率特性などの基礎理論について復習した後、通信回線設計や実験などを通して移動通信固有の課題や問題点を理解する。後半は最新の通信技術、およびミリ波を用いたITSや車載用レーダ技術を習得する。
This class is designed for the student who is already familiar with communication engineering theory in undergraduate course. Prior to understanding the mobile communication systems, the technical concepts such as probability, communication theory and basic electro-magnetic are reviewed. Next the student understands the mobile communication engineering issues by the empirical seminar and discussions. Also current topics of wireless communication systems and millimeter-wave radar systems for ITS and self-driving vehicle are to be lectured.

【到達目標】

- ・ 移動通信に関する幅広い専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- ・ Gain a wide range of expertise in mobile communication systems.
- ・ 移動通信に関する問題について、自分の考えや意見を明確に表現することができる。
- ・ Ability to express their opinions clearly about various issues of mobile communication systems.
- ・ 移動通信について、総合的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えを論理的に表現できる。
- ・ Ability to design mobile communication systems, explore solutions, and express their opinions logically from a professional perspective.

教科書 /Textbooks

- 「通信方式」 森北出版社 (1~4回)
- 「Communications systems」 for undergraduate student
- 「ミリ波レーダ技術と設計」 科学情報出版社 (11~14回)
- 「Millimeter-wave radar systems and applications」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- パワーポイント配布資料 (1~13回)
- Privately Power-Point presentation materials

○移動通信

(Mobile Communication Systems)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 移動通信システムの概要 (1 Introduction to mobile communication systems)
- 2 無線伝送基礎 (2 Mobile radio channels)
- 3 デジタル通信基礎 1 (3 Digital communications fundamentals 1 - ASK and FSK -)
- 4 デジタル通信基礎 2 (4 Digital communications fundamentals 2 - PSK and QAM -)
- 5 フェーディング伝送路 (5 Fading channel)
- 6 フェーディング対策技術 1 - アンテナバリエーション - (6 Anti-fading technologies 1 - Antenna diversity -)
- 7 フェーディング対策技術 2 - 変調方式 - (7 Anti-fading technologies 2 - Modulation schemes -)
- 8 フェーディング対策技術 3 - 信号処理 - (8 Anti-fading technology 3 - Signal processing -)
- 9 演習と復習 (9 Exercise and review)
- 10 CDMAとOFDM (10 CDMA & OFDM technologies)
- 11 レーダーの基礎と動作原理 1 (11 Radar principles and systems 1)
- 12 レーダーの基礎と動作原理 2 (12 Radar principles and systems 2)
- 13 電波伝搬特性 (13 Radio propagation)
- 14 ミリ波伝搬特性 (14 Millimeter-wave propagation)
- 15 演習とまとめ (15 Exercise and conclusions)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習レポート 100%
Reports 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

学部で習った「通信方式」を理解しておくこと。
This class is designed for the student familiar with communication engineering theory in undergraduate course.

履修上の注意 /Remarks

必ず演習レポートを回答・提出すること。
Reports submission required.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

デジタル通信, 無線通信
Digital communications, Wireless Communications

○医用工学基礎

(Medical Engineering)

担当者名 /Instructor 山田 鶴夫 / Tsuruo MATSUDA / 環境技術研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 資源化学システムコース, バイオシステムコース, 環境生態システムコース, 機械システムコース, 建築デザインコース, 計算機科学コース, 融合システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
EIC610S	◎	△	○
科目名	医用工学基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

生体信号の成り立ちについて理解を深める。また、実際の筋電位等を計測する為の電子回路についても学ぶ。簡単な回路を作製し、実測するまでを到達目標とする。

Understanding about composition of a living body signal. It's also learned about the electronic circuit to measure actual myoelectric potential. An easy circuit is made and measured.

教科書 /Textbooks

配布資料 / No assigned textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布資料 / No assigned textbook

論文や書籍等を適宜紹介する/To introduce the papers and books , etc. as appropriate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 : 導入 (Introduction)
- 2 : 回路シミュレータ (SPICE) を用いた回路解析について (Circuit analysis using the Circuit Simulator (SPICE))
- 3 : 電子回路における周波数解析と位相解析について (Frequency analysis and phase analysis in electronic circuits)
- 4 : 表面筋電位計測について (Introduction of E.M.G. (Electromyogram))
- 5 : 表面筋電位導出の為の電子回路入門 1 (Introduction to operational amplifier 1)
- 6 : 表面筋電位導出の為の電子回路演習 1 (Exercises of operational amplifier 1)
- 7 : 表面筋電位導出の為の電子回路入門 2 (Introduction to instrumentation amplifier 2)
- 8 : 表面筋電位導出の為の電子回路演習 2 (Exercises of instrumentation amplifier 2)
- 9 : 表面筋電位導出の為の電子回路入門 3 (Introduction to instrumentation amplifier 3)
- 10 : 表面筋電位導出の為の電子回路演習 3 (Exercises of instrumentation amplifier 3)
- 11 : 生理学的検知から見た筋電位について (About myoelectric potential from a physiological point of view)
- 12 : ケーブル理論入門(Introduction to Theoretical Neurobiology)
- 13 : 計算論的アプローチ (Computational Neuroscience)
- 14 : 脳の機能局在モデル (Functional Mapping and modeling of the Brain)
- 15 : まとめ (conclusion)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート / Reports 40%

期末試験 / Examination 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

電気電子回路、および回路に関わる計算の知識は必須である。事前に復習しておくこと。また、必要に応じて資料を配布し講義中に活用するので、事前に調査熟読を行うこと。講義後は復習や課題を積極的に行うこと。

Students are expected to know the Electric Circuits and Electronics(Diode, Tr, FET, OP-Amp, or so). Students are required to read the assigned readings prior to the class.

○医用工学基礎

(Medical Engineering)

履修上の注意 /Remarks

前回の講義内容を復習しておくこと .

Before each class, review the previous lecture's notes.

学部で習った「電子回路」「電気回路基礎」を理解しておくこと。

This class is designed for the student familiar with “Tutorial and Exercises in Electrical Circuits” and “Electronic Circuits” in undergraduate course.

2/3以上の出席がないと期末試験の受験不可。

10 classes (2/3) presense at least required.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生体インターフェースの基礎を学びます。

You learn the basics of the biological interface .

キーワード /Keywords

インストルメンテーションアンプ(Instrumentation Amp) 神経信号(Nerve Signals) 解析(Analysis)

○特別研究 (博士前期課程)

(Thesis Research)

担当者名 /Instructor 各研究指導教員/Research Advisor

履修年次 /Year 単位 /Credits 8単位 学期 /Semester 通年 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生態システムコース

※お知らせ/Notice シラバスの記載内容に変更がある場合、授業でお知らせします。/You will be notified in class if there are any changes to the syllabus.

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MAT600R	○	◎	○
科目名	特別研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

研究指導教員が設定した研究テーマを通年で実施し、これに基づく研究論文を執筆する。

Students are given research themes from their research supervisor at the lab to complete master thesis

到達目標

- ・ 高度な専門的知識・技能：専門分野における調査研究を実施し、結論を導く方法を身につける。
- ・ 高い問題解決能力と表現力：調査研究課題を多面的に把握し、必要な解決策を提示することができる。
- ・ 高い倫理観に基づいた自律的行動力：環境課題に取り組むエキスパートとしての役割意識を持ち、実務に取り組むことができる。

Attainment target

- Specialist knowledge and skills: learn how to conduct research and draw conclusions in your field of expertise.
- Advanced problem-solving and expressive abilities: understand research issues from multiple perspectives and propose necessary solutions.
- Ability to function autonomously with a solid ethical foundation: have a sense of role as an expert in dealing with environmental issues and be able to work on practical issues.

教科書 /Textbooks

指導教員から与えられる。

Instructed through your research supervisor (lab).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導教員から与えられる。

Instructed through your research supervisor (lab).

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究テーマに応じて指導教員が決定する。

Research theme is given from your research supervisor (lab).

研究を進めるにあたり、研究倫理教育を実施する。

Research ethics education is implemented before conducting the research.

成績評価の方法 /Assessment Method

研究への取り組み・中間発表・研究成果の結果を総合して評価する。

Your outcome is reviewed by the course professors at interim and final presentations, especially focused on your logic and activity.

○特別研究 (博士前期課程)

(Thesis Research)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究の背景と目標を理解するためにも、常に研究の準備をしておくこと。

Prepare always for your works in order to understand researches including significances and goals of your works.

研究指導教員の指示に従い、事前学習・事後学習に力を注ぐこと。

Follow your research supervisor's instruction, and make efforts on preparation and brush-up.

履修上の注意 /Remarks

ゼミ合宿を行うことがある。

Seminar tour(s) can be taken place.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究の背景と目標を把握し、自分自身の個性を発揮しながら意欲的に研究に取り組んで欲しい。

To perform a research will surely improve your skill. Enjoy seminar, discussion, experiments, technical presentations and writing at your laboratory.

キーワード /Keywords